

〔病態制御学講座〕

(1) 解剖学分野

1. 研究の概要

これまでと同様、骨とカルシウム代謝器官の実験形態学的研究と肉眼解剖学的研究をメインとして以下の研究を展開した。

- 1) 老年性骨粗鬆症モデルマウス (SAMP6) を用いて八味地黄丸, 十全大補湯, 温経湯の骨に対する作用を正常老化マウス SAMR1 の場合と比較検討してこれら漢方薬の効果を電子顕微鏡を用いて形態学的に判定した。
- 2) チベット高原に自生する植物紅景天, 旺拉, 金訶子をはじめとするチベット薬 (青海金訶藏医薬集団有限公司) を用いて 1) の漢方薬と同様に老人性骨粗鬆症モデルマウス SAMP6 に対する骨量改善効果を検討した。チベットは世界で一番環境が汚染されていない, 地球の‘第三極’といわれ, チベットでは骨粗鬆症患者はほとんどないということから着手したものである。
- 3) チベット薬浴の関節炎に対する治療効果の形態学的研究。
- 4) 実験糖尿病マウスにおける八味地黄丸と地骨降糖カプセルの効果に関する形態学的研究
- 5) 卵巣摘出ラット脛骨の骨梁構造に対する hPTH1-34 または牛車腎気丸の影響—マイクロ CT を用いた 3D 解析
- 6) 上皮小体出現する脂質貯蔵細胞におけるビタミン A の関与に関する形態学的研究
- 7) ラット大腿骨に対する食餌中のカルシウムの影響に関する形態学的研究
- 8) 卵巣摘出マウスにおける骨端軟骨板の形態学的変化に関する研究
- 9) 膝関節側副靭帯の形態学的研究
- 10) 腹腔動脈の分枝に関する研究
- 11) ヒト大腿骨頸部の形態学的解析
- 12) ヒト腰椎海綿骨の形態学的解析
- 13) ヒト血管系の肉眼解剖学的解析。解剖実習遺体を用いた, 筋系・血管系・末梢神経系の変異出現パターンのデータ解析と医学部学生に対する効果的な教育方法の研究
- 14) 肉眼臨床解剖学の教育システムおよび教材開発。医学部学生に対する効果的な解剖学教育 (特に臨床に必要とされる解剖学) を行うための方法, 教材の模索・開発。研修医・臨床医にとって必要とされる実物標本等の模索・作製も行う。

2. 名簿

教授： 正村静子 Shizuko Shoumura
助教授： 早川大輔 Daisuke Hayakawa
講師： 東(陳)華岳 Huayue Chen

3. 研究成果の発表

著書 (和文)

なし

著書 (欧文)

なし

総説 (和文)

- 1) 陳華岳, 正村静子, 磯野日出夫. モデルマウスによる評価: 八味地黄丸と十全大補湯に関して, 漢方と最新治療 2003年; 12巻: 301-306.

総説 (欧文)

- 1) Luedinghausen Mv, Hayakawa D, Üzel M. Arterial supply of, and arterial preponderance in, the human interventricular septum. Eur J Anat. 2003;7:101-115

原著 (和文)

- 1) 江村正一, 早川大輔, 陳華岳, 正村静子. ライオン *Panthera leo* 舌乳頭の観察, 哺乳類科学 2003年; 43巻: 45-50

原著 (欧文)

- 1) Chen H, Emura S, Yao XF, Shoumura S. Morphological study of the parathyroid gland and thyroid C cell in senescence-accelerated mouse (SAMP6), a murine model for senile osteoporosis. *Tissue Cell*. 2004;36:409-415.
- 2) Chen H, Shoumura S, Emura S. Ultrastructural changes in bones of the senescence-accelerated mouse (SAMP6), a murine model for senile osteoporosis. *Histol Histopathol*. 2004;19:677-685. IF 1.931
- 3) Emura S, Hayakawa D, Chen H, Shoumura S. Morphology of the lingual papillae in the tiger. *Okajimas Folia Anat Jpn*. 2004;81:39-43.
- 4) Chen H, Emura S, Isono H, Shoumura S. Effects of traditional Chinese medicine on bone loss in SAMP6: a murine model for senile osteoporosis. *Biol Pharm Bull*. 2005;28:865-869. IF 1.392
- 5) Chen H, Shoumura S, Emura S. Nerve fibers in the parathyroid gland of the golden hamster (*Mesocricetus Auratus*): Immunohistochemical and ultrastructural investigations. *Anat Histol Embryol*. 2005;34:34-37. IF 0.625
- 6) Chen H, Shoumura S, Emura S. Bilateral thoracic ducts with coexistent persistent left superior vena cava. *Clin Anat*. in press. IF 0.664

4. 研究費獲得状況

1) 競争的資金

- 1) 研究代表者: 東 華岳, 研究分担者: 正村静子; 財団法人 漢方医薬研究振興財団研究助成: 老人性骨粗鬆症に対するチベット薬有効性の検討; 平成 15 年度; 500 千円
- 2) 研究代表者: 正村静子, 研究分担者: 東 華岳; 株式会社ツムラ研究助成: 骨粗鬆症モデルマウスにおける漢方薬効果: 形態学的研究; 平成 16 年度; 300 千円
- 3) 研究代表者: 正村静子, 研究分担者: 東 華岳; 株式会社ツムラ研究助成: 漢方製剤の糖尿病治療効果と骨粗鬆症改善効果に関する形態学的研究; 平成 17 年度; 200 千円

2) 受託研究

なし

3) 共同研究

なし

5. 発明・特許出願状況

なし

6. 学会活動

1) 学会役員

正村静子:

- 1) 日本解剖学会評議員(～現在)
- 2) 日本解剖学会理事(平成 15 年 4 月～平成 17 年 3 月 31 日)
- 3) 日本臨床分子形態学会評議員(～現在)
- 4) 日本顕微鏡学会関西支部幹事(平成 15 年 4 月～現在)
- 5) 日本顕微鏡学会関西支部評議員(～現在)

東 華岳:

- 1) 日本臨床分子形態学会評議員(～現在)

2) 学会開催

なし

3) 学術雑誌

正村静子:

- 1) 米国臨床解剖学会; *Clinical Anatomy* 編集委員(～現在)

7. 学会招待講演, 招待シンポジスト, 座長

東 華岳:

- 1) 第 108 回日本解剖学会総会(平成 15 年 4 月, 福岡, 招待講演「上皮小体には数種類の細胞が出現す

- る：その形態と機能」演者)
- 2) The 7th Asia/Oceania Regional Congress of Gerontology(平成 15 年 11 月, 東京, 招待講演「Preventive effects of the traditional Chinese medicine on senile osteoporosis using murine model」演者)
 - 3) 日本顕微鏡学会関西支部平成 16 年度特別講演会(平成 16 年 7 月, 大阪, 「骨粗鬆症に対する漢方・チベット薬の効果判定における電顕観察の応用」演者)
 - 4) Convention of the pharmaceutical society of Korea(2004. 11, Seoul, Osteoporosis and traditional Chinese medicine: an animal experiment: Lecture)

8. 学術賞等の受賞状況

- 1) 東 華岳：33rd International Sun Valley Hard Tissue Workshop Young Investigator Award(平成 15 年)

9. 社会活動

正村静子：

- 1) 日本解剖学会教育委員会委員(平成 17 年 4 月～現在)

東 華岳：

- 1) 岐阜県準看護師試験委員(～現在)
- 2) 南飛騨国際 CAM 委員会委員(平成 17 年 4 月～現在)

10. 報告書

なし

11. 報道

- 1) 正村静子：「骨粗鬆症」週刊朝日増刊号漢方 2003：56(2003 年 4 月 10 日)

12. 自己評価

評価

大学内だけでなく学会活動に関しても管理・運営に関する業務にとられる時間が増えた中で教育の比重が重い分野であるが、逆にそれを堪能しつつ責任を果たしてきた。研究面においてもマンパワー不足を抱えながら学会の要請に応じて特別講演、シンポジウムの演者として活動を行うことができた。

医学部は解剖学教育の為に献体を受け入れ多大な恩恵に浴している。系統解剖実習と骨学実習にはそれぞれの遺体が必要とされる。遺体受納の際に医学部まで遺族と霊柩車に同乗して思い出話を伺うことや、17 年度には永年、骨標本として保存されてきた献体の遺族に遺骨の一部を返還して感謝する機会があった。これら献体となられた方のご意思を拝聴した経験を折に触れ医学生の教育に活かすことが出来た。これらの方々に深く感謝したい。

現状の問題点及びその対応策

他の多くの分野と同じく分野の教員は 3 名であるが、平成 18 年度に教授の定年を迎えるため、大学院生及び研究生といった研究スタッフを新たに迎えることが 3 年前からできなくなっている。現在 18 年度に研究を終える 3 名の大学院生が在籍し教員とともに和漢薬・チベット薬に関する動物実験、実験形態学的研究の新しい画像処理技術を加えた研究と、ヒトの組織・器官を用いた系統解剖学的研究、さらに臨床解剖学的研究を推進しているが実験動物の維持管理に要する時間と手間は侮りがたい負担である。そのためにも実験手技と実験道具の開発や共同研究を同時に進めたい。また、教育に関する新しい考え方とその具体的手法を学内外と提携して研究し展開していきたい。

肉眼解剖学的研究は、多くの時間と労力を必要とする割に、得られる結果が少なく、目立たない。全国的・全世界的に、肉眼解剖学に携わる解剖学者は減少の一途をたどり、その存続が危ぶまれている。しかし、その必要性・重要性を訴える臨床医は多く、解剖実習中および時間外の見学も多い。こうした人的不足の現実とニーズとのギャップが最大の問題であると考えられる。具体的な解決策がないのが現状である。

コンピュータグラフィック・動画等作製の技術を持つ者がおらず、乏しい技術と人員で効果的なコンピュータ教材を作製しなくてはならない。必要とされる実物標本の作製にも多大な時間と労力が必要で

あるが、人的な不足は否めない。また、臨床側との連携が少ないため、臨床解剖学教育に本当に必要なところが明白にならない。人的な不足に対しては、具体的な解決策がない。臨床解剖学教育に関心を持つ熱心な教員との連携を少しずつ増しながら、知識と必要な試料等の入手を図っている。

今後の展望

1年生を対象に医学概論、医学の歴史、生物学実習、体のなりたち、英語 B を担当し、2年生を対象に初期体験実習Ⅱ、テューリアル人体構造コースにおいて教育し、それ以外の学生とはチューターとして接することができる教育システムの中で1年制から4年生へと学生の成長を見ることは大学人としての大いなる喜びである。入学時の成績と卒業時の成績ならびに卒業に到る過程の成績は連続して横断的・縦断的に解析されなければならない。本学に受け入れた学生の本来の資質を十分に発揮させ、勉学意欲をかきたて、学生同士ならびに職員との良好な人間関係を構築させるためにすべての教員がオフィスアワーを設けて学生の個別の相談に応じられるような時間設定が望まれる。

医学部長の強い意思により若い研究者が共同研究を自由に展開できるように研究施設・器具の確認と設置が進められている。幸い生命科学総合実験棟1階の肉眼解剖実習室は保存と研究の為のスペースならびに設備が充実しているので多くの分野と人体の構造と機能、臨床研究に関する共同研究を進めたい。

肉眼解剖学に携わる解剖学者が著しく減少している昨今、肉眼解剖学に興味を持つ大学院生・研修医を多く確保し、研究を進めたい。また、臨床系分野との連携を一層密にし、臨床に即した研究を行うとともに、各種模型やコンピュータ教材、さらには CT, MRI, 超音波などの各種画像解剖学的手法を駆使した総合医学的な臨床解剖学教育のシステムを開発・実践したい。

(2) 分子病態学分野

1. 研究の概要

当教室では、細胞分裂に深く関与し、種々の癌で高発現している Aurora 関連遺伝子を世界に先駆けてヒトからクローニングした。ヒトでは Aurora A~C の 3 種類が知られており、これらの細胞生物学的な機能や、癌細胞あるいは癌組織における発現について検討を重ねてきた。すなわち、Aurora A の dominant negative 変異遺伝子を導入した細胞を作製し、中心体数の異常や紡錘体の形成異常を観察した。Aurora の癌における高発現は、その分解もさることながら、転写調節レベルでの制御も重要と考えられる。そこで、Aurora B の上流非翻訳領域をクローニングし、そのプロモーター配列を確認し、これに結合するいくつかの転写調節因子を明らかにした。Aurora 以外にも細胞分裂に関与すると考えられるヒト遺伝子を探索し、NEK3 や NEK7 をクローニングし、その染色体座位を明らかにした。酵母などの他の生物種で細胞分裂に関与すると考えられながら、ヒトではそのホモログ遺伝子がクローニングされていないものがある。当教室では、ヒト Misato をクローニングし、その遺伝子産物がミトコンドリアに局在することを明らかにした。現在、過剰発現や knock-down の手法を用いて Misato の機能解析を進めている。

細胞内のタンパク質の選択的な分解にユビキチン-プロテアソーム系が関与しているが、ユビキチン付加酵素(ubiquitin-conjugating enzyme, E2)である UBE2E2 や UBE2E3 を当教室でクローニングした。これらの E2 は N 末側に進展したタイプでその細胞生物学的な機能に興味をもち研究を進めている。UBE2E2 を bait として two-hybrid screening を行い、いくつかの RING-finger タンパク質をコードする遺伝子をクローニングした。RING-finger タンパク質はユビキチン化の E3 ubiquitin ligase として作用することが知られており、我々がクローニングした RING-finger タンパク質の RNF8 や ARA54 が自己ユビキチン化されていることを明らかにした。さらに、RNF8 や ARA54 が、それぞれレチノイド X 受容体(RXR)やアンドロゲン受容体(AR)と相互作用することも明らかにし、RNF8 は RXR の転写活性を高めることも明らかにした。

2. 名簿

教授： 岡野幸雄 Yukio Okano
助手： 木村正志 Masashi Kimura
助手： 吉岡 孝 Takashi Yoshioka

3. 研究成果の発表

著書 (和文)
なし

著書 (欧文)

- 1) Kimura M, Okano Y. Function of Aurora kinases in mitosis and cancer. In : Miki T, ed. Signal transduction of cell division. Kerala, India: Research Signpost; 2005:141-169.
- 2) Muto Y, Okano Y. Immuno-FRET microscopy of the actin-binding protein NP25 in situ, In: Mendez-Vilas A, ed. Current issues on multidisciplinary microscopy research and education. Badajoz, Spain: Formatex Research Centre; 2005:39-44.

総説 (和文)

- 1) 木村正志, 岡野幸雄. Aurora キナーゼと癌, 細胞工学 2004 年; 23 巻: 325-328.
- 2) 木村正志, 岡野幸雄. Aurora キナーゼとがん, 癌と化学療法 2005 年; 32 巻: 1-5.

総説 (欧文)

なし

原著 (和文)

なし

原著 (欧文)

- 1) Takahashi T, Sano B, Nagata T, Kato H, Sugiyama Y, Kunieda K, Kimura M, Okano Y, Saji S. Polo-like kinase1 (PLK1) is overexpressed in primary colorectal cancers. Cancer Sci. 2003;94:148-152. IF 2.652
- 2) Ehara H, Yokoi S, Tamaki M, Nishino Y, Takahashi Y, Deguchi T, Kimura M, Yoshioka T, Okano Y. Expression of mitotic Aurora/lpl1p-related kinases in renal cell carcinomas: an immunohistochemical study. Urol Res. 2003;31:382-386. IF 1.113
- 3) Suzuki Y, Niwa M, Fujisaki K, Nakamura H, Washino K, Kato T, Ito K, Okano Y, Takahashi Y. Effects

- of PBL-tutorial in Gifu University School of Medicine: Evaluation of students in clinical years. J Medical Education. 2003;7:412-418
- 4) Tomida M, Kimura M, Kuwata K, Hayashi T, Okano Y, Era S. Development of a high-level expression system for deuterium-labeled human serum albumin. Jpn J Physiol. 2003;53:65-69. IF 0.810
 - 5) Sasai K, Katayama H, Stenoien DL, Fujii S, Honda R, Kimura M, Okano Y, Tatsuka M, Suzuki F, Nigg EA, Earnshaw WC, Brinkley WR, Sen Subrata. Aurora-C kinase is a novel chromosomal passenger protein that can complement Aurora-B kinase function in mitotic cells. Cell Motil Cytoskelet. 2004;59:249-263. IF 3.068
 - 6) Kimura M, Uchida C, Takano Y, Kitagawa M, Okano Y. Cell cycle-dependent regulation of the human aurora B promoter. Biochem Biophys Res Commun. 2004;316:930-936. IF 2.904
 - 7) Takano Y, Adachi S, Okuno M, Muto Y, Yoshioka T, Matsushima-Nishiwaki R, Tsurumi H, Ito K, Friedman S L, Moriwaki H, Kojima S, Okano Y. The RING finger protein, RNF8, interacts with retinoid X receptor α and enhances its transcription-stimulating activity. J Biol Chem. 2004;279:18926-18934. IF 6.355
 - 8) Mori K, Muto Y, Kokuzawa J, Yoshioka T, Yoshimura S, Iwama T, Okano Y, Sakai N. Neuronal protein NP25 interacts with F-actin. Neurosci Res. 2004;48:439-446. IF 2.155
 - 9) Mori K, Yoshioka T, Kokuzawa J, Yoshimura S, Iwama T, Muto Y, Okano Y, Sakai N. Neuronal protein NP25 increases during neural differentiation. Acta Sch Med Univ Gifu. 2004;52:14-19.

4. 研究費獲得状況

1) 競争的資金

- 1) 研究代表者：岡野幸雄，研究分担者：吉岡孝，木村正志；科学研究費補助金基盤研究(C)(2)：ステロイド受容体のユビキチン化の分子機構；平成 13-14 年度；3,500 千円(2,000：1,500 千円)
- 2) 研究代表者：岡野幸雄，研究分担者：武藤吉徳，吉岡孝；科学研究費補助金基盤研究(C)(2)：レチノイド X 受容体と RING タンパク質の相互作用とそのユビキチン化・転写への効果；平成 16-17 年度；3,700 千円(1,900：1,800 千円)
- 3) 研究代表者：木村正志；岐阜大学活性化経費(研究)：Aurora キナーゼによる細胞分裂制御と発がん機構の解析；平成 17 年度；1,200 千円

2) 受託研究

なし

3) 共同研究

なし

5. 発明・特許出願状況

なし

6. 学会活動

1) 学会役員

岡野幸雄：

- 1) 日本生化学会評議員(~現在)

2) 学会開催

なし

3) 学術雑誌

なし

7. 学会招待講演，招待シンポジスト，座長

なし

8. 学術賞等の受賞状況

- 1) 木村正志：Scientist of the Year (IBC)(2004)
- 2) 木村正志：Lifetime Achievement Award (IBC)(2005)
- 3) 木村正志：World Lifetime Achievement Award (ABI)(2005)

9. 社会活動

なし

10. 報告書

- 1) 岡野幸雄, 吉岡 孝, 木村正志: ステロイド受容体のユビキチン化の分子機構: 平成 13 年度—平成 14 年度科学研究費補助金 (基盤研究(C)(2)) 研究成果報告書: 1-53(2003 年 3 月)

11. 報道

- 1) 木村正志: IBC 最高賞を受賞: 中日新聞(2005 年 5 月 5 日)

12. 自己評価

評価

臨床系の大学院生が在籍した時期には、充分とは言えないまでもある程度の研究成果が出せたと思われる。しかし、卒後研修が義務化されて臨床系分野からの派遣も困難となりつつあり、人手不足は直ちに成果に反映される現状である。

現状の問題点及びその対応策

資金面及び人的資源面で問題がある。年々校費 (運営交付金) が減る中で、科研費などの外部資金の獲得が重要であるが、なかなか結果の出ない基礎研究には風当たりが強い。人的には基礎系の大学院に進む学生が少なく、卒後研修の義務化がその傾向に拍車をかけている。臨床系の大学院生を基礎系分野等に派遣していただけるようなシステムの構築や、基礎系へ進学する者への奨学金制度も利用して今後も入局者の獲得に努力して行く必要がある。

今後の展望

Aurora の研究に見られるように癌の研究に主軸を置いて来た。ユビキチン化の研究も癌化やその他の生物現象に深い関係があると予測され、研究分野としては大変興味深いものがあると信じている。個々のメンバーがもてる力を十分に発揮して、それぞれの研究をわずかずつでも進める地道な努力をすることが必要と感じる。

(3) 高度先進外科学分野

1. 研究の概要

冠動脈バイパス術における内胸動脈グラフトの生理学的血行動態の研究。冠動脈バイパス術後の予後決定因子である内胸動脈の血行動態の理解は極めて重要である。最近 **ultrasound transit time** 血流計に **Doppler** 流速計を新たに導入し、内胸動脈グラフトの血流供給能について測定検討している。血管吻合の **quality** のみならず、**competition** の理解において重要な検討と考えている。

弓部大動脈置換術において、脳保護は重要であり、逆行性、順行性脳灌流ともに長所短所を持っている。教室では順行性脳保護法を用いながら、その問題点を克服するために独自の術式を考案し、その臨床効果について検討している。ほとんど脳循環停止を必要としない術式で、術後の脳機能について客観的方法で脳保護効果を評価する。

動物実験に関する研究分野では、**non-viral gene delivery system** を用いた遺伝子治療の可能性について検討を行ってきた。臓器保護を目的として **in vivo electroporation** 法を用いた肝細胞増殖因子 (HGF) 遺伝子導入に関する研究を行い、**Dimethylnitrosamine** による肝線維化モデルにおいて **in vivo electroporation** 法により HGF 遺伝子を導入した結果、肝細胞アポトーシスおよび肝線維化の抑制、生存期間の延長が確認された。また **Bleomycin** による肺線維症モデルにおいても **in vivo electroporation** 法による HGF 遺伝子導入は、アポトーシス、肺線維化を有意に抑制し、生存期間の延長をもたらした。さらにこの **non-viral gene delivery system** を応用し、薬剤の細胞内への吸収効率を上昇させることに発展させた。**in vivo sonoporation** による **doxorubicin** 組織内吸収効率上昇により静脈グラフトの内膜肥厚が効果的に制御できるか否かを検討し、吻合部内膜肥厚が効率的に抑制できることを明らかにした。現在、肺癌モデルにもこの **in vivo sonoporation** による抗癌剤局所投与が有効である否かを検討している。

一方で、大量肝切除に続発する肝不全の制御に関する研究を進めている。**95%**肝切除後の残存肝に発生するアポトーシスを **caspase inhibitor** により抑制することにより、肝細胞再生、生存期間の延長が得られ、肝切除限界を拡大させることを実験的に明らかとした。現在、黄疸肝モデル、うっ血肝モデルにも応用している。

心臓血管外科領域では、静脈グラフトの閉塞原因を改めて思考し、新たな戦略として再生治療の成果を基に **apoptosis** 抑制によるグラフト不全の回避の研究も行っている。

以上、臨床研究、基礎研究を多方面から行っている。

2. 名簿

教授：	竹村博文	Hirofumi Takemura
講師：	山田卓也	Takuya Yamada
講師：	岩田 尚	Hisashi Iwata
臨床講師：	関野考史	Takafumi Sekino
臨床講師：	島袋勝也	Katsuya Shimabukuro
臨床講師：	松尾 浩	Hiroshi Matsuo
臨床講師：	今泉松久	Matsuhisa Imaizumi
臨床講師：	白橋幸洋	Koyo Shirahashi
臨床講師：	宮内忠雅	Tadamasa Miyauchi
臨床講師：	福本行臣	Yukiomi Fukumoto
医員：	松本真介	Shinsuke Matsumoto
医員：	木村真樹	Masaki Kimura
医員：	木山 茂	Shigeru Kiyama

3. 研究成果の発表

著書 (和文)

- 1) 森 義雄. 救急医療：安達洋祐, 竹村博文編. 実践臨床外科, 東京：金原出版；2005年：137-148.
- 2) 白橋幸洋. 呼吸管理：安達洋祐, 竹村博文編. 実践臨床外科, 東京：金原出版；2005年：161-171.
- 3) 吉田直優. 栄養管理：安達洋祐, 竹村博文編. 実践臨床外科, 東京：金原出版；2005年：172-178.
- 4) 島袋勝也. 冠動脈疾患：安達洋祐, 竹村博文編. 実践臨床外科, 東京：金原出版；2005年：227-238.
- 5) 宮内忠雅. 末梢動脈疾患：安達洋祐, 竹村博文編. 実践臨床外科, 東京：金原出版；2005年：261-271.
- 6) 岩田 尚. 肺がん (手術)：安達洋祐, 竹村博文編. 実践臨床外科, 東京：金原出版；2005年：293-300.
- 7) 松本真介. 肺がん (管理)：安達洋祐, 竹村博文編. 実践臨床外科, 東京：金原出版；2005年：301-307.
- 8) 山田卓也. 肝がん：安達洋祐, 竹村博文編. 実践臨床外科, 東京：金原出版；2005年：347-355.

- 9) 関野考史. 甲状腺がん: 安達洋祐, 竹村博文編. 実践臨床外科, 東京: 金原出版; 2005年: 441-447.

著書 (欧文)

なし

総説 (和文)

- 1) 森 義雄. 救急医療と感染予防, 感染防止 2003年; 13巻: 7-18.
- 2) 竹村博文. 内視鏡によるグラフト採取, 心臓外科 Knack & Pitfalls 冠動脈外科の要点と盲点 2005年: 113..

総説 (欧文)

- 1) Manabe H, Takagi H, Mori Y, Iwata H, Sakamoto K, Yamada T, Yasumura M, Umeda Y, Matsuno Y, Shimokawa K, Hirose H. Simultaneous operations for abdominal aortic aneurysm and liver cancer complicated by severe ischemic heart disease: Report of a case. Surg Today. 2003;33:612-616.
- 2) Takagi H, Mori Y, Umeda Y, Fukumoto Y, Yoshida K, Shimokawa K, Hirose H. Proximal left subclavian artery aneurysm presenting hemoptysis, hoarseness, and diplopia: Repair through partial cardiopulmonary bypass and perfusion of the left common carotid artery. Ann Vasc Surg. 2003;17:461-463.
- 3) Takagi H, Mori Y, Umeda Y, Fukumoto Y, Kato Y, Shimokawa K, Hirose H. Abdominal aortic aneurysm with arteritis in ankylosing spondylitis. Review Series. Rheumatology. 2004;20-21.

原著 (和文)

- 1) 松尾 浩, 広瀬 一. 誘電特性と用いた腸管の viability 判定に関する実験的検討, 岐阜大学医学部紀要 2003年; 51巻: 61-66.
- 2) 島本 強, 広瀬 一. Dimethylnitrosamine によるラット硬変肝の温虚血再灌流における CCD microscope を用いた微小循環測定法の開発, 岐阜大学医学部紀要 2003年; 51巻 74-78.
- 3) 関野考史, 今北正美, 由谷親夫, 広瀬 一. ラット大動脈移植モデルにおける組織学的検討, 岐阜大学医学部紀要 2003年; 51巻: 79-88.
- 4) 仁田豊生, 広瀬 一. マウス 2, 4, 6-トリニトロベンゼンスルホン酸 (TNBS) 誘導性腸炎活動期における CD8+T 細胞の機能解析, 岐阜大学医学部紀要 2003年; 51巻: 89-95.
- 5) 島袋勝也, 広瀬 一. Staphylococcus epidermidis によるバイオフィーム形成人工血管感染に対し抗生剤含浸 β -リン酸三カルシウムブロックを用いた保存的治療の実験的検討, 岐阜大学医学部紀要 2003年; 51巻: 96-101.
- 6) 安永 寛, 広瀬 一. ラット常温全肝虚血再灌流時の血流評価—CCD 生体顕微鏡による肝微小循環障害の観察—, 岐阜大学医学部紀要 2003年; 51巻: 102-106.
- 7) 水谷憲威, 広瀬 一. 虚血およびうっ血再灌流後の腸管の viability の判定法に関する実験的検討, 岐阜大学医学部紀要 2003年; 51巻: 107-113.
- 8) 村瀬勝俊, 広瀬 一. 多孔性アパタイトセラミックを用いた抗生剤除放システムによる人工血管感染に対する保存的治療の実験的検討, 岐阜大学医学部紀要 2003年; 51巻: 114-119.
- 9) 澤田 傑, 広瀬 一. CCD 生体顕微鏡を用いた絞扼による虚血再灌流時の腫瘍組織の微小循環の観察と抗腫瘍効果の検討, 岐阜大学医学部紀要 2003年; 51巻: 120-126.
- 10) 今井直基, 広瀬 一. 閉塞性黄疸肝の虚血再灌流における高エネルギーリン酸化合物の変動に関する実験的検討, 岐阜大学医学部紀要 2003年; 51巻: 127-131.
- 11) 森 美樹, 広瀬 一. ラット肝切除後の門脈血行動態に門脈体外循環短絡の及ぼす影響, 岐阜大学医学部紀要 2003年; 51巻: 132-135.
- 12) 水谷知央, 広瀬 一. 誘電特性を用いた温虚血下における瞬 viability 評価に関する検討, 岐阜大学医学部紀要 2003年; 51巻: 136-140.
- 13) 吉川尚志, 広瀬 一. 冠動脈空気塞栓に対する逆行性冠灌流および炭酸ガス投与の有用性に冠する研究—CCD microscope を用いた心内膜の直接観察による評価, 岐阜大学医学部紀要 2003年; 51巻: 141-146.
- 14) 久保清景, 広瀬 一. 外科手術症例における虚血性心疾患のスクリーニング方法としての経食道心房負荷心電図の有用性の検討, 岐阜大学医学部紀要 2003年; 51巻: 147-151.
- 15) 柴田雅也, 広瀬 一. 大動脈の構成成分の部位別差異及び腹部大動脈瘤壁についての組織学的検討, 岐阜大学医学部紀要 2003年; 51巻: 152-156.
- 16) 宮田知幸, 広瀬 一. 大腸癌における ICAM-1 の染色の分布様式と臨床病理学的因子との関連についての検討, 岐阜大学医学部紀要 2003年; 51巻: 157-162.
- 17) 段 貴新, 広瀬 一. 心停止ドナー心の viability 予測に関する実験的研究: 組織誘電特性と硬度計を用いた評価法, 岐阜大学医学部紀要 2003年; 51巻: 163-167.
- 18) 古澤泰伸, 広瀬 一. CCD microscope を用いた体外循環中—逆行性脳灌流時を中心とした—脳微小循環の評価, 岐阜大学医学部紀要 2003年; 51巻: 168-175.
- 19) 山田卓也, 高木寿人, 阪本研一, 関野考史, 吉田直優. 腹部大動脈手術中に発症した急性虚血性大腸炎の1例, 日本外科系連合学会誌 2003年; 28巻: 757-761.
- 20) 阪本研一, 広瀬 一, 山田卓也, 安村幹央, 森 美樹, 仁田豊生, 二村直樹. 大腿静脈より挿入した IVH カテーテルが下腹壁静脈を介して腹直筋壊死をきたした1例, 日本腹部救急医学会雑誌 2003年; 23巻:

525-530.

- 21) 阪本研一, 広瀬 一, 山田卓也, 安村幹央, 松尾 浩, 島本 強, 仁田豊生, 水谷知央, 二村直樹, 下川邦泰. 腹腔鏡補助下膝部分切除術を施行した腓内副脾 epidermoid cyst の1例, 日本消化器外科学会雑誌 2003年; 36巻: 278-282.
- 22) 白橋幸洋, 井内敬二, 松村晃秀, 田中 壽一, 田村光信, 後藤正志. 肺癌術後2年目に発生した術側残存肺膿瘍の1治験例, 日本呼吸器外科学会雑誌 2003年; 17巻: 691-696.
- 23) 吉田直優, 名知 祥, 水谷知央, 関野考史, 阪本研一, 山田卓也, 竹村博文, 加藤恵三. 肛門部胆管癌を合併した Mirizzi 症候群の1例, 日本外科系連合学会誌 2004年; 29巻: 782-786.
- 24) 山田卓也, 阪本研一, 関野考史, 松尾 浩, 吉田直優, 竹村博文. 死体腎移植患者に発生した肝細胞癌の2例, 日本臨床外科学会雑誌 2004年; 65巻: 1022-1026.
- 25) 山田卓也. 胃癌における 5-FU 経口剤投与と十全大補湯(JT-48) の併用効果に関する無作為比較試験, *Prognosis in Medicine* 2004年; 24巻: 2746-2747.
- 26) 加藤貴吉, 山田卓也, 阪本研一, 安村幹央, 仁田豊生. 左外腸骨動脈を取り巻くように発育した骨盤内後腹膜脂肪腫の1例, 日本外科系連合学会誌 2004年; 29巻: 927-931.
- 27) 阪本研一, 山田卓也, 竹村博文. 上腹部消化器手術における HALS, 手術 2004年; 58巻: 1959-1963.
- 28) 阪本研一, 山田卓也, 安村幹央, 仁田豊生, 吉田直優, 二村直樹. 食道癌術直後より白血球減少をきたした1例, 日本腹部救急医学会雑誌 2005年; 25巻: 79-82.
- 29) 山田卓也, 関野考史, 吉田直優, 宮原利行, 木山 茂, 竹村博文. 術後てんかん発作が軽快した気管狭窄を伴う腺腫様甲状腺腫の1例, 日本外科系連合学会誌 2005年; 30巻: 139-142.
- 30) 竹村博文. DESera における外科治療, 岐阜県医師会医学雑誌 2005年; 18巻: 57-60.
- 31) 松尾 浩, 山田卓也, 関野考史, 五島 聡, 兼松雅之, 竹村博文. 磁気共鳴膵胆管造影 (MRCP) が診断に有用であった、びまん型胆嚢腺筋症併存黄色肉芽腫性胆嚢炎の1例, 外科 2005年; 67巻: 862-866.

原著 (欧文)

- 1) Sago T, Mori Y, Takagi H, Iwata H, Murase K, Kawamura, Hirose H. Local treatment of Dacron patch graft contaminated with *Staphylococcus aureus* with antibiotic-releasing porous apatite ceramic: An experimental study in the rabbit. *J Vasc Surg.* 2003;37:169-174. IF 2.730
- 2) Fukumoto Y, Mori Y, Takagi H, Iwata H, Umeda Y, Hirose H. Protective effect of prostaglandin E1 against ischemia of spinal cord during aortic cross clamping. *J Vasc Surg.* 2003;37:156-160. IF 2.730
- 3) Takagi H, Hirose H, Mori Y, Iwata H, Umeda Y, Matsuno Y. Antegradely insertable aortic balloon occlusion catheter for aortic arch repair. *Heart Vessels.* 2003;18:75-78. IF 0.829
- 4) Takagi H, Mori Y, Murase K, Hirose H. Nail gun penetrating cardiac injury. *Eur J Cardiothorac Surg.* 2003;23:841. IF 1.616
- 5) Umeda Y, Mori Y, Takagi H, Iwata H, Matsuno Y, Hirose H. Surgical outcome of abdominal aortic aneurysm repair in patients undergoing chronic hemodialysis. *Heart Vessels.* 2003;18:7-11. IF 0.829
- 6) Iida Y, Iwata H, Mori Y, Takagi H, Nitta T, Kanetake K, Umeda Y, Hirose H. Helper T cell type 1 or type 2 function of xeno-MHC-restricted T-cell clones in a direct xenoantigen recognition. *Transpl Immunol* 2003;11:169-173. IF 1.907
- 7) Shimamoto T, Mori Y, Takagi H, Yamada T, Sakamoto K, Matsuo H, Nitta T, Iwata H, Hirose H. Experimental studies on morphological changes of microcirculation of DMN-induced liver cirrhosis after normothermic ischemia with charge-coupled device microscope. *J Gastroen Hepatol.* 2003;18:1071-1075. IF 1.796
- 8) Matsuno Y, Iwata H, Umeda Y, Takagi H, Mori Y, Kosugi A, Matsumoto T, Nakamura T, Hirose H. Hepatocyte growth factor gene transfer into the liver via the portal vein using electroporation attenuates rat liver cirrhosis. *Gene Ther.* 2003;10:1559-1566. IF 4.977
- 9) Murase K, Hirose H, Mori Y, Takagi H, Iwata H, Sago T, Kawamura Y. Graft-preserving treatment for vascular graft infected with *Staphylococcus aureus* with antibiotic-releasing porous apatite ceramic in the rabbit. *J Vas Surg.* 2003;38:368-373. IF 2.730
- 10) Takagi H, Mori Y, Umeda Y, Fukumoto Y, Kato Y, Shimokawa Y, Hirose H. Abdominal aortic aneurysm with arteritis in ankylosing spondylitis. *J Vasc Surg.* 2003;38:613-616. IF 2.730
- 11) Takagi H, Mori Y, Umeda Y, Fukumoto Y, Matsuno Y, Hirose H. Surgical treatment of thoracoabdominal aortic mural and floating thrombi extending to the infrarenal aorta. *J Vasc Surg.* 2003;37:1324-1327. IF 2.730
- 12) Takagi H, Mori Y, Iwata H, Umeda Y, Fukumoto Y, Matsuno Y, Hirose H. Simultaneous operations for combined thoracic and abdominal aortic aneurysms. *Surg Today.* 2003;33:674-678. IF 0.553
- 13) Kanetake K, Iwata H, Mori Y, Takagi H, Hirota T, Nitta T, Hayashi M, Onitsuka A, Hirose H. Analysis of the T cell receptor V β repertoire in 2,4,6-trinitrobenzenesulfonic acid induced colitis in mice. *Digestion.* 2003;67:170-178. IF 1.473
- 14) Takagi H, Mori Y, Umeda Y, Fukumoto Y, Mizuno Y, Kaku Y, Sakai N, Hirose H. Preoperative construction of an extracranial arterial shunt for resection of an aortic arch aneurysm with occluded left carotid artery. *Ann Thorac Surg.* 2003;76:1298-1301. IF 2.244
- 15) Takagi H, Mori Y, Manabe H, Hirose H. Multiple arterial aneurysms. *J Vasc Surg.* 2003;38:1440. IF 2.730
- 16) Yasumura M, Mori Y, Takagi H, Yamada T, Sakamoto K, Iwata H, Hirose H. Experimental model to

- estimate intestinal viability using charge-coupled device microscopy. *Brit J Surg.* 2003;90:460-465. IF 3.580
- 17) Mori Y, Hirose H, Takagi H, Umeda Y, Fukumoto Y, Shimabukuro K, Matsuno Y. Aortic arch repair for Stanford type A aortic dissection with distal anastomosis to the proximal level of the distal aortic arch. *J Thorac Cardiovasc Sur.* 2003;126:415-419. IF 3.263
 - 18) Mori Y, Takagi H, Umeda Y, Fukumoto Y, Shimabukuro K, Matsuno Y, Hirose H. A case report of aneurysms of the abdominal aorta, subclavian and vertebral arteries due to Takayasu's arteritis. *Int Angiol.* 2003;12:1-4. IF 0.871
 - 19) Matsuno Y, Iwata H, Umeda Y, Takagi H, Mori Y, Miyazaki J, Kosugi A, Hirose H. Nonviral gene gun mediated transfer into the beating heart. *Asaio J.* 2003;49:641-644. IF 1.047
 - 20) Iwata H, Mori Y, Takagi H, Shiranashi K, Fukumoto Y, Umeda Y, Mizuno Y, Yoshikawa S, Hirose H, Ito S, Takahashi Y, Deguchi T, Iwaki Y. A clinical renal-transplant case from a non-heart-beating donor using percutaneous cardiopulmonary support. *Transplantation.* 2003;76:1772-1773. IF 3.568
 - 21) Nitta T, Iwata H, Mori Y, Takagi H, Hirota T, Kanetake K, Iida Y, Sakamoto K, Yamada T, Saio M, Hirose H. Specific CTL activity of CD8+ TCR V β 4+ T cell in mouse 2,4,6-trinitrobenzene sulfonic acid-induced colitis. *Dig Dis Sci.* 2003;48:2095-2103. IF 1.427
 - 22) Sawada S, Hirose H, Mori Y, Takagi H, Iwata H. Tumor microcirculation observed by a charge-coupled device microscopy and antitumor effect by strangulation. *Ann Cancer Res Therap.* 2003;11:261-278.
 - 23) Takagi H, Mori Y, Fukumoto Y, Umeda Y, Nachi S, Hirose H. Progressive acute abdominal aortic syndrome. *EJVES Extra.* 2004;7:11-12.
 - 24) Takagi H, Kato Takayoshi, Matsuno Y, Umeda Y, Fukumoto Y, Mori Y, Hirose H. Aortic dissection without Marfan's syndrome in ankylosing spondylitis. *J Thorac Cardiovasc Sur.* 2004;127:600-602. IF 3.263
 - 25) Takagi H, Furukawa M, Umeda Y, Fukumoto Y, Yoshida N, Yamada T, Mori Y. Aortic arch aneurysm with dissection in Cushing syndrome. *J Thorac Cardiovasc Sur.* 2004;278-279. IF 3.263
 - 26) Umeda Y, Mori Y, Takagi H, Iwata H, Fukumoto Y, Hirose H. Abdominal aortic aneurysm related to Takayasu arteritis during pregnancy. *Heart Vessels.* 2004;19:155-156. IF 0.829
 - 27) Iwata H, Mori Y, Takagi H, Shirahashi K, Shinoda J, Shimokawa K, Hirose H. Mediastinal growing teratoma syndrome after cisplatin-based chemotherapy and radiotherapy for intracranial germinoma. *J Thorac Cardiovasc Sur.* 2004;127:291-293. IF 3.263
 - 28) Umeda Y, Marui T, Matsuno Y, Shirahashi K, Iwata H, Takagi H, Matsumoto K, Nakamura T, Kosugi A, Mori Y, Takemura H. Skeletal muscle targeting in vivo electroporation-mediated HGF gene therapy of bleomycin-induced pulmonary fibrosis in mice. *Labo Invest.* 2004;84:836-844. IF 3.702
 - 29) Matsuo H, Hirose H, Mori Y, Takagi H, Iwata H, Yamada T, Sakamoto K, Yasumura M. Experimental studies to estimate the intestinal viability in a rat strangulated ileus model using a dielectric parameter. *Dig Dis Sci.* 2004;49:633-638. IF 1.427
 - 30) Takagi H, Mizuno Y, Matsutomo M, Matsuno Y, Umeda Y, Fukumoto Y, Shimokawa K, Mori Y. Aneurysm of the femoral artery occupationally exposed to a vibratory tool for more than 10 years. *J Vasc Surg.* 2004;39:1125-1127. IF 2.730
 - 31) Kanetake K, Hayashi M, Hino A, Futamura N, Mori Y, Takagi H, Iwata H, Sakamoto K, Kumada Y, Matsuno H, Hirose H. Primary peritonitis associated with streptococcal toxic shocklike syndrome: report of a case. *Surg Today.* 2004;34:1053-1056. IF 0.553
 - 32) Shimabukuro K, Hirose H, Mori Y, Takagi H, Iwata H, Kawamura Y. Local treatment of Dacron patch graft infected with biofilm-producing *Staphylococcus epidermidis* using antibiotic-releasing porous study in the rabbit. *J Vasc Surg.* 2004;39:1361. IF 2.730
 - 33) Sakamoto K, Mori Y, Takagi H, Iwata H, Yamada T, Futamura N, Sago T, Ezaki T, Kawamura Y, Hirose H. Translocation of *Salmonella typhimurium* in rats on total parenteral nutrition correlates with changes in intestinal morphology and mucus gel. *Nutrition.* 2004;20:372-376.
 - 34) Takagi H, Yoshikawa S, Mizuno Y, Matsuno Y, Umeda Y, Fukumoto Y, Mori Y. Intrathombotic pressure of a thrombosed abdominal aortic aneurysm. *Ann Vasc Surg.* 2005;19:108-112. IF 1.067
 - 35) Iwata H, Takemura H, Yamada T, Shirahashi K, Matsumoto S, Umeda Y, Iwaki Y. Average P/F ratio during donor management for finding out the potential donor of lung procurement. *Transplant P.* 2005;37:1845-1847. IF 0.511
 - 36) Takagi H, Mori Y, Umeda Y, Fukumoto Y, Manabe H, Shimokawa K, Hirose H. Limited dissection of abdominal aortic aneurysm in a patient with multiple myeloma. *Ann Vasc Surg.* 2005;19:267-269. IF 1.067
 - 37) Mizuno Y, Iwata H, Takagi H, Yoshikawa S, Umeda Y, Matsuno Y, Mori Y, Takemura H. *J Surg Res.* 2005;124:312-317. IF 1.727
 - 38) Takagi H, Nachi S, Matsuno Y, Umeda Y, Fukumoto Y, Mori Y. Chronic contained rupture of the descending thoracic aorta due to infection by *Escherichia coli*. *Heart Vessels.* 2005;20:186-189. IF 0.829
 - 39) Takagi H, Mori Y, Fukumoto Y, Umeda Y, Matsuno Y, Hirose H. Loped reconstruction of the internal and external iliac arteries in repair of abdominal aortic or iliac artery aneurysm with a bifurcated graft. *Int Angiol.* 2005;24:189-192. IF 0.871
 - 40) Takagi H, Matsuno Y, Umeda Y, Fukumoto Y, Mori Y, Hirose H. Stent placement for severe stenosis in the deep femoral artery with the occluded superficial femoral and popliteal arteries. *Int Angiol.* 2005;24:196-198. IF 0.871

- 41) Takagi H, Yoshikawa S, Mizuno Y, Matsuno Y, Umeda Y, Fukumoto Y, Mori Y. Preoperative measurement of the intrathrombotic pressure of a thrombosed popliteal artery aneurysm for decision of surgical indication. *Int Angiol.* 2005;24:380-383. IF 0.871

4. 研究費獲得状況

1) 競争的資金

- 1) 研究代表者：森 義雄，研究分担者：岩田 尚；科学研究費補助金基盤研究(B)(2)：レシピエント骨髄由来平滑筋前駆細胞を標的とした移植心冠動脈内膜肥厚の遺伝子治療；平成 14-15 年度；20,000 千円(13,000：700 千円)
- 2) 研究代表者：梅田幸生；科学研究費補助金若手研究(B)：血管内皮前駆細胞 in situ 増幅及び遺伝子銃による虚血域 homing 療法の確立；平成 14-15 年度；3,800 千円(2,400：1,400 千円)
- 3) 研究代表者：山田卓也，研究分担者：関野考史，森 義雄，松尾 浩；科学研究費補助金基盤研究(C)(2)：インピーダンス CT を用いたセンチネルリンパ節検出法の確立に関する研究；平成 15-18 年度；3,600 千円(2,700：200：300：400 千円)
- 4) 研究代表者：松尾 浩；科学研究費補助金若手研究(B)：HPLC 法を用いた血清 D-Lactate 検出による腸管虚血の早期診断法の確立；平成 16-17 年度；3,500 千円(2,900：600 千円)

2) 受託研究

- 1) 竹村博文：低侵襲・微細手術支援システムの開発；平成 16 年度-20 年度（予定）；平成 16 年度 7,238 千円；平成 17 年度 4,517 千円；岐阜県研究開発財団
- 2) 竹村博文，今泉松久：カーペンターエドワーズ牛心のう膜生体弁狭小クリニカルスタディ；平成 17 年度；163 千円；エドワーズライフサイエンス㈱

3) 共同研究

なし

5. 発明・特許出願状況

なし

6. 学会活動

1) 学会役員

竹村博文：

- 1) 日本外科学会評議員(平成 16 年 2 月～現在)
- 2) 日本血管外科学会評議員(平成 16 年 5 月～現在)
- 3) 日本冠動脈外科学会評議員(平成 16 年 7 月～現在)
- 4) 日本甲状腺外科学会評議員(平成 17 年 10 月～現在)
- 5) 関西胸部外科学会評議員(平成 17 年 6 月～現在)
- 6) 東海外科学会評議員(平成 15 年 10 月～現在)
- 7) 日本 Off-pump CABG 研究会幹事(～現在)

山田卓也：

- 1) 日本胃癌学会評議員(平成 17 年 12 月～現在)
- 2) 日本肝胆膵外科学会評議員(～現在)
- 3) 東海外科学会評議員(平成 16 年 10 月～現在)

岩田 尚：

- 1) 東海外科学会評議員(～現在)
- 2) 日本臓器移植ネットワーク中日本支部運営委員(～現在)

2) 学会開催

なし

3) 学術雑誌

なし

7. 学会招待講演, 招待シンポジスト, 座長

竹村博文:

- 1) 第 268 回東海外科学会(平成 16 年 10 月, 岐阜, 特別講演「卒後臨床研修と外科専門医制度」司会)
- 2) 第 8 回日本心不全学会学術集会(平成 16 年 10 月, 岐阜, 「心不全に対する外科的治療」座長)
- 3) 第 17 回日本内視鏡外科学会総会(平成 16 年 11 月, 横浜, 「冠動脈バイパス術における内視鏡下橈骨動脈グラフト採取」招請シンポジスト)
- 4) 第 18 回日本冠疾患学会学術集会(平成 16 年 12 月, 熊本, 「内科外科合同セッション この症例をどうするか」パネリスト)
- 5) ATCVS(平成 17 年 2 月, 浜松, 「冠動脈バイパス手術の術式とその Physiology」演者)
- 6) 日本冠動脈外科学会学術大会(平成 17 年 7 月, 東京, 「ドップラープローブを用いた血管深度検出、血流速度測定、狭窄度算出の術中における有用性と評価」ランチョンセミナー, 講演)
- 7) 第 7 回日本 Off-pump CABG 研究会(平成 17 年 7 月, 東京, 「ビデオクリニク」座長)
- 8) 第 15 回日本シミュレーション外科学会(平成 17 年 10 月, 東京, 「心臓外科におけるロボット手術の現状」講演)
- 9) International Society for Minimally Invasive Cardiothoracic Surgery 3rd Winter Workshop (2005, 12, Shanghai, 「Minimally invasive surgery in Asia」座長)

山田卓也:

- 1) 日本臨床外科学会(第 14 回外科漢方研究会)(平成 16 年 10 月, 盛岡, 「胃癌における 5-FU 経口剤と十全大補湯の併用効果に関する無作為比較試験」ランチョンセミナー)

8. 学術賞等の受賞状況

なし

9. 社会活動

竹村博文:

- 1) 石川県国民健康保険診療報酬審査委員会
- 2) 岐阜県身体障害者更正相談所医学判定非常勤医師

10. 報告書

- 1) 森 義雄, 岩田 尚: レシピエント骨髄由来平滑筋前駆細胞と標的とした移植冠動脈内膜肥厚の遺伝子治療: 平成 14~15 年度科学研究費補助金研究成果報告書(2004 年 3 月)

11. 報道

- 1) 竹村博文: 心臓バイパス手術に使う腕の動脈 手首の小さな穴から採取 岐阜大学病院が新手法 全国で 3 病院目 目立たぬ手術あと、好評: 岐阜新聞(2004 年 1 月 16 日)
- 2) 竹村博文: 動脈摘出、負担少なく 岐大病院竹村教授心臓手術で新手法: 朝日新聞(2004 年 2 月 6 日)
- 3) 竹村博文: 「研究室から 大学はいま」心臓手術はもう怖くない: 岐阜新聞(2004 年 12 月 28 日)
- 4) 竹村博文, 島袋勝也: 腹部大動脈瘤破裂の大手術に成功 101 歳、大病を乗り越える: 岐阜新聞(2005 年 5 月 3 日)

12. 自己評価

評価

この 3 年間は、教室の体制が交代したことに伴い、研究内容も若干の変化が見られたが、non-viral gene deliverly system の開発は継続して行われ、論文掲載を含め業績をあげてきた。臨床研究も行われ、緻密なデータ収集が行われてきた。研究成果は国際学会での研究発表につながり、昨年は 6 演題が採用された。

現状の問題点及びその対応策

重症及び難治性疾患症例の管理・治療を進めながら、研究も進めていくには、人員等の更なる充実が

望まれる。各種培養実験，分子生物学的アプローチのための機器，実験室の合理化，スペースの有効利用が必要である。また他分野との共同研究を拡大していく必要がある。

今後の展望

新病院，新医学部移転に伴い，動物実験施設も充実し，大動物実験が可能となった。

これまでの蓄積したマウスやラットなどの小動物での成果を基に，臨床応用に向け大動物で実験系を構築し検討を行う。

(4) 整形外科学分野

1. 研究の概要

- 1) 軟骨プロテオグリカン代謝におけるカルパインの役割の解明
ヒトの関節軟骨, 軟骨細胞を用いてカルパインによって切断されたプロテオグリカン分解産物の存在を明らかにし, カルパインのプロテオグリカン代謝に与える影響を明らかにする。
- 2) リウマチ滑膜細胞での siRNA によるカルパインの抑制
カルパインの発現を特異的にノックダウンする siRNA を作成し, カルパインによる軟骨の破壊の解明および関節炎治療への応用について研究している。
- 3) 神経栄養因子に関する研究
新たな神経栄養因子であるグリア細胞株由来神経栄養因子 (GDNF) の末梢神経損傷及び再生過程における発現変化を明らかにした。神経栄養因子を用いた神経再生学の基礎的研究をすすめている。
- 4) 関節リウマチの病態を種々の炎症性サイトカインやプロスタグランディンを用いた *in vitro* の実験系で再現し, 代表的な抗リウマチ剤メトトレキセートや強力な骨吸収抑制作用を持つビスフォスフォネート製剤の骨芽細胞における作用, およびその細胞内情報伝達メカニズムについてその一部を明らかにした。関節リウマチに対する薬物治療発展のため, 細胞分子レベルでさらに解明していく。
- 5) 抗体誘導マウス関節炎におけるサイトカインプロファイル
RA の実験モデルとして知られる抗体誘導関節炎の各種炎症性サイトカインの血中濃度と関節局所での mRNA 発現を測定, その動態を TNF- α 欠損型のそれと比較し関節炎形成のメカニズムの推察と TNF- α の重要性を見当する。
- 6) 原発性骨粗鬆症に対するリセドロネートとビタミン K2 の併用効果に関する多施設共同研究
リセドロネートの骨折予防効果は既に確立している。ビタミン K2 の併用により, より強力な骨折予防効果が得られるかどうかを明らかにする目的で, 多施設での一般臨床治療における前向き共同研究を行っている。
- 7) ユーイング肉腫の分子標的治療
EWS/Fli1 遺伝子を標的とした分子標的治療の開発を行っている。si-RNA を用いて遺伝子の発現を抑制し, 細胞増殖を制御する治療方法の確立を進めている。
- 8) EWS/Fli1 遺伝子の細胞内シグナル伝達における機能の解析
PKC, PLD, PI3 などの細胞増殖シグナル分子やアポトーシスを誘導する分子との関係を明らかにする。
- 9) 骨リモデリングシミュレーション「iBONE」によるヒト下顎骨, 膝関節等の骨構造再現「iBONE」
とは骨のリモデリングを担う複数種の細胞からなるシステムの働きを, シンプルな反応拡散系を用いて表現するリモデリングシミュレーションである。骨リモデリングをシミュレートすることで骨の力学的負荷に適応した内部構造を再現することが可能である。「iBONE」により患者ごとに異なる骨内部の力学状態を評価することが可能であり, 治療戦略を立てる上で有用な情報を得ることが出来ると思われる。

2. 名簿

教授:	清水克時	Katsuji Shimizu
教授(併任):	西本 裕	Yutaka Nishimoto
助教授:	糸数万正	Mansho Itokazu
講師:	細江英夫	Hideo Hosoe
臨床講師:	大野義幸	Yoshiyuki Ohno
臨床講師:	伊藤芳毅	Yoshiki Itoh
臨床講師:	鈴木直樹	Naoki Suzuki
臨床講師:	松本 和	Kazu Matsumoto
医員:	青木隆明	Takaaki Aoki
医員:	田中 領	Ryo Tanaka
医員:	永野昭仁	Akihito Nagano
医員:	平川明弘	Akihiro Hirakawa
医員:	川井 豪	Gou Kawai
医員:	山田一成	Kazunari Yamada
医員:	横田 治	Osamu Yokota

3. 研究成果の発表

著書 (和文)

- 1) 福田 雅, 糸数万正. 人工肩関節, 人工骨頭置換術: 新 OS NOW 最新の肩関節治療 20, 東京: メジカルビュー社; 2003 年: 186-194.
- 2) 宮本 敬, 清水克時. 脊椎 腰部サポーター, 腰部バンドなどの簡易軟性装具(腰部固定帯): 新 OS NOW 装具療法—モデルと適応のすべて 17, 東京: メジカルビュー社; 2003 年: 75-79.
- 3) 糸数万正, 土方浩美編. 平成 15 年 整形外科看護アップデート, 東京: メジカルビュー社; 2003 年.
- 4) 西本裕. 骨移植と骨銀行: ニノ宮節夫他編. 今日の整形外科治療指針 第 5 版, 東京: 医学書院; 2004 年: 42-43.
- 5) 西本裕, 竹内登美子編. 運動器疾患で手術をうける患者の看護に必要な知識—骨, 関節と筋, 神経の基礎科学—: 周手術期看護 5—運動器疾患で手術を受ける患者の看護—, 東京: 医歯薬出版株式会社; 2005 年: 1-50, 51-64, 89-97, 127-134.
- 6) 西本裕. 骨腫瘍切除後の塊状同種骨移植による再建の長期成績: 岩本幸英編. 別冊整形外科—骨・軟骨移植—最近の知見, 東京: 南江堂; 2005 年: 88-93.
- 7) 西本裕. 同種骨移植による再建のコツ: 岩本幸英編. 骨・軟部腫瘍外科の要点と盲点, 東京: 文光堂; 2005 年: 222-226.
- 8) 益田和明, 清水克時. 胸椎部の後方手術: 整形外科術前・術後のマネジメント, 東京: 医学書院; 2005 年: 325-329.
- 9) 清水克時. 脊椎の悪性骨腫瘍の切除と再建: 骨・軟部腫瘍外科の要点と盲点, 東京: 文光堂; 2005 年: 190-195.
- 10) 青木隆明. 機能解剖学触診技術 上肢: 東京: メジカルビュー社; 2005 年.

著書 (欧文)

- 1) Oshita H, Sandy J, Suzuki K, Akaike A, Bai Y, Sasaki T, Shimizu K. Mature bovine articular cartilage contains abundant aggrecan that is C-terminally truncated at Ala719-Ala720, a site which is readily cleaved by m-calpain. *Biochem. J. Great Britain: Portland Press*; 2004;382:1-7.

総説 (和文)

- 1) 清水克時. 腰痛 運動器連載: 生活機能病としての運動器の痛みを診る (5), 新薬と治療 2003 年; 20 巻: 31-33.
- 2) 細江英夫, 清水克時. 脊椎前方固定術, 整形外科最小侵襲手術ジャーナル 2003 年; 29 巻: 2-7.
- 3) 西本 裕, 細江英夫, 大野貴敏, 入江善二, 清水克時. 仙骨脊索腫の診断と治療戦略, 脊椎脊髄ジャーナル 2003 年; 16 巻: 1199-1204.
- 4) 細江英夫, 若原和彦, 赤池敦, 坂口康道, 宮本敬, 野澤聡, 小原明, 西本裕, 清水克時. 特発性脊髄ヘルニアの 1 例, 臨床整形外科 2003 年; 38 巻: 1339-1343.
- 5) 清水克時. 追悼 伊藤鐵夫先生を偲んで, 臨床整形外科 2003 年; 38 巻: 196-197.
- 6) 清水克時. まぼろしの Richard 病, 痛みと臨床 2004 年; 4 巻: 72-73.
- 7) 宮本 敬, 清水克時. ハローベストの活用とその装着法, 新 OS NOW 25 検査法、外来・病棟処置法、手術法 2004 年; 25 巻: 103-109.
- 8) 清水克時. これまでの 10 年これからの 10 年 整形外科はこう変わる! 脊椎 (頸椎・腰椎), 整形外科看護 2005 年; 10 巻: 5.
- 9) 清水克時. 研究室紹介, C.P.I.P.T. (病態と治療におけるプロテアーゼとインヒビター研究会誌) 2005 年; 16 巻: 9.
- 10) 清水克時. 寄附講座 骨関節再建外科学講座の開設, 岐阜県医師会報 2005 年; 3 巻: 12.
- 11) 細江英夫. 2 検査 (画像) 4. 脊椎レントゲン画像 5. MRI・CT 画像 6. 脊髄造影, 整形外科看護 2005 年; 633 巻: 15-18.
- 12) 清水克時. 脊柱短縮術 緒言, 臨床整形外科 2005 年; 40 巻: 622-623.
- 13) 清水克時. 特別講演 スポーツ選手における腰椎分離症の手術, 中部接骨学会誌 2005 年; 84. 85: 33-35.

総説 (欧文)

- 1) Shimizu K. Spondylolysis of young athletes: surgery can be a viable option. *Orthopedics Today*. 2003;6:3.

原著 (和文)

- 1) 清水克時. リウマチの脊椎外科, 京都整形外科医会誌 2003 年; 55 巻: 17-18.
- 2) 大西量一郎, 清水克時, 宮本 敬, 児玉博隆, 細江英夫, 杉山誠一. 胸椎椎間板ヘルニア、OPLL に対する前側方進入前方除圧術, 整形・災害外科 2003 年; 45 巻: 609-614.
- 3) 前原秀亮, 坂口康道, 小倉広康, 楊 中仁. 大腿骨頸部内側骨折に対する Hansson ピンを用いた手術法, 整形外科 2003 年; 53 巻: 390-394.
- 4) 野々村秀彦, 大野義幸, 横井達夫, 鈴木 康, 清水克時. 手根管症候群の CPT 検査における問題点, 中部日本整形外科災害外科雑誌 2003 年; 45 巻: 95-96.

- 5) 松本 和, 鷺見浩志, 鷺見靖彦, 清水克時. スノーボードによる脊髄損傷の特徴, 日本臨床スポーツ医学誌 2003年; 10巻: 534-538.
- 6) 尾下英史, 細江英夫, 清水克時. 大腿骨頭壊死を合併した Pycnodysostosis の1例, 臨床整形外科 2003年; 37巻: 165-168.
- 7) 杉山誠一, 細江英夫, 山本孝敏, 宮本 敬, 吉田 実, 清水克時. 脊髄くも膜嚢腫の拍動と髄液流一術中超音波検査による観察一, 整形外科 2003年; 37巻: 217-223.
- 8) 永野昭仁, 宮本 敬, 若原和彦, 坂口康道, 細江英夫, 清水克時. 症例報告 von Recklinghausen 病に合併した上位頸髄腫瘍の1例, 整形外科 2003年; 37巻: 305-307.
- 9) 杉山誠一, 野々村諭香, 細江英夫, 宮本 敬, 吉田 実, 清水克時. ハイドロキシアパタイト顆粒を使用した脊椎椎弓根スクリュー固定の生体力学的研究, 整形外科 2003年; 53巻: 605-610.
- 10) 松本 和, 鷺見浩志, 鷺見靖彦, 清水克時. スノーボードにおけるジャンプでの外傷の特徴, 臨床スポーツ医学 2003年; 19巻: 575-578.
- 11) 平川明弘, 宮本 敬, 児玉博隆, 細江英夫, 清水克時. 頸椎多発性骨髄腫に対し外科的治療を行なった1例, 臨床整形外科 2003年; 37巻: 767-769.
- 12) 野澤 聡, 西本 裕, 伊藤芳毅, 清水克時. 脛骨近位部骨肉腫に対する Bone Transport を用いた再建術, 岐阜県医師会雑誌 2003年; 15巻: 113-119.
- 13) 宮本 敬, 清水克時. 脊椎 instrumentation 手術の術後感染に対する治療指針, 脊椎脊髄ジャーナル 2003年; 15巻: 751-757.
- 14) 高橋和久, 遠藤友規, 守谷秀繁, 松本守雄, 千葉一裕, 戸山芳昭, 宮本 敬, 西本博文, 清水克時. 腰椎椎間板レーザー治療後再建術例の検討, 臨床整形外科 2003年; 37巻: 813-818.
- 15) 熊澤慎志, 酒井浩志, 渡邊友純, 清水克時, 辻 耕二, 竹田賢一. 腰部黄色靭帯内血腫により右下肢痛を生じた1例, 臨床整形外科 2003年; 37巻: 879-882.
- 16) 松本 和, 宮本 敬, 鷺見浩志, 高木幸浩, 松本茂美, 鷺見靖彦, 清水克時. 持続硬膜外カテーテル抜去後に急性硬膜外血腫による完全麻痺を呈した症例, 臨床整形外科 2003年; 37巻: 883-886.
- 17) 福田章二, 宮本 敬, 細江英夫, 笹野三郎, 西本博文, 青木隆明, 清水克時. 放射線照射後の腰椎に固定術を行い治療に難渋した1例, 臨床整形外科 2003年; 37巻: 889-892.
- 18) 滝上伊織, 宮本 敬, 細江英夫, 青木隆明, 西本博文, 清水克時. 胸椎脱臼骨折の修復後椎間板組織の嵌頓をみた1例, 臨床整形外科 2003年; 37巻: 1253-1256.
- 19) 瀧上伊織, 杉山誠一, 細江英夫, 西本博文, 青木隆明, 清水克時. 頸椎固定術におけるチタン製波方型鋼線の使用経験, 整形外科 2003年; 53巻: 1503-1506.
- 20) 松本 和, 鷺見浩志, 清水克時. 橈骨遠位端骨折後の機械的因子による遅発性長母指伸筋腱断裂の1例, 整形外科 2003年; 53巻: 1564-1565.
- 21) 杉山誠一, 宮本 敬, 吉田 実, 赤池 敦, 糸数万正, 清水克時. 大腿骨頸部不顕性骨折の治療, 整形外科 2003年; 53巻: 1581-1587.
- 22) 野澤 聡. 「第2回中日脊柱外科会議」に参加して, 臨床整形外科 2003年; 37巻: 1360-1361.
- 23) 福田章二, 宮本 敬, 細江英夫, 児玉直樹, 清水克時. 後方進入単椎間修復固定術を施行した先天性腰椎すべり症(Grade I)の1例, 臨床整形外科 2003年; 37巻: 1373-1376.
- 24) 前原秀亮, 坂口康道, 小倉広康. スポーツに起因した変形性 Lisfranc 関節症に対して関節固定術を行なった1例, 整形外科 2003年; 53巻: 1691-1693.
- 25) 宮本 敬. 安静臥床を要する高齢者患者に対する音楽療法のリラクセーション効果—サーモグラフィーによる検討, サウンド 2003年; 18巻: 6-8.
- 26) 細江英夫. 骨粗鬆症性脊椎骨折の治療, 医事新報 2003年; 4139号: 1週1話.
- 27) 細江英夫, 清水克時. 骨粗鬆症性椎体圧潰に対する Rod と Wire を使用した脊椎短縮術, 骨・関節・靭帯 2003年; 16巻: 175-181.
- 28) 細江英夫, 清水克時. 腰椎後方進入椎体間固定術(PLIF)に使用した AWGC 椎間スパーサー—長期観察例から—, 骨・関節・靭帯 2003年; 16巻: 247-251.
- 29) 伊藤芳毅, 清水克時. 骨端症, 骨の事典 2003年; 30巻: 429-434.
- 30) 田中 領, 糸数万正, 中村正生, 大西量一郎, 福田 雅, 伊藤芳毅, 清水克時, 平尾純子. 距骨外側突起骨折を伴った距骨脱臼骨折の1例, 臨床整形外科 2003年; 38巻: 1335-1338.
- 31) 田中 領, 細江英夫, 伏見一成, 児玉博隆, 宮本 敬, 清水克時. 脊髄性間欠跛行を呈した頸椎症性脊髄症の1例, 臨床整形外科 2003年; 38巻: 1223-1227.
- 32) 細江英夫, 若原和彦, 赤池敦, 坂口康道, 宮本敬, 野澤聡, 小原明, 西本裕, 清水克時. 特発性脊髄ヘルニアの1例, 臨床整形外科 2003年; 38巻: 1339-1343.
- 33) 宮本 敬, 清水克時, 児玉博隆, 細江英夫, 西本博文, 飯沼宣樹. 腰椎変性すべり症に対するケージを用いた PLIF, 整形・災害外科 I 臨時増刊: 脊椎脊髄外科のすべて 2003年; 45巻: 555-562.
- 34) 吉田 実, 清水克時, 細江英夫, 宮本 敬, 清水孝志. 骨化した laminectomy membrane を伴った再発性胸髄神経鞘腫の1例, 整形外科 2003年 54巻: 1397-1401.
- 35) 日置 暁, 児玉直樹, 小林源博, 池端達也, 中川裕章, 細江英夫. 麻痺性イレウスで発症し早期に対麻痺から自然治癒した旧制硬膜外血腫の1例, 整形災害外科 2003年; 46巻: 1411-1414.
- 36) 細江英夫, 清水克時. 変形性脊椎症の薬物療法, 脊椎脊髄 2003年; 16巻: 546-548.
- 37) 寺林伸夫, 宮本 敬, 児玉博隆, 細江英夫, 清水克時. 脊髄上衣腫瘍7例の臨床的検討, 中部整災誌 2003年; 46巻: 281-282.
- 38) 細江英夫, 清水克時, 児玉博隆, 宮本 敬, 西本博文. 頸椎変性疾患に対する4椎体亜全摘前方固定術,

- 中部日本整形外科災害外科 2003年; 46巻: 447-448.
- 39) 細江英夫, 清水克時, 児玉博隆, 宮本 敬. 骨粗鬆症性椎体圧潰に対する脊椎インストゥルメンテーション, 中部日本整形外科災害外科 2003年; 46巻: 573-574.
 - 40) 細江英夫, 清水克時, 児玉博隆, 宮本 敬, 西本博文, 吉田 実. 頸椎多椎間病変に対する椎体歪全摘前方固定術, 日本整形外科学会誌 2003年; 77巻: S13.
 - 41) 細江英夫, 清水克時, 児玉博隆, 宮本 敬, 西本博文. 輸血拒否患者(エホパの証人)に対する脊椎手術, 日本脊椎脊髄病学会雑誌 2003年; 14巻.
 - 42) 松本 和, 鷺見浩志, 鷺見靖彦, 清水克時. スノーボードによる重度脊髄外傷の実態と予防, 臨床スポーツ医学 2003年; 20巻: 362-367.
 - 43) 細江英夫, 清水克時, 杉山誠一, 若林 英, 西本博文. 脊椎疾患に対する片側椎弓切除術の経験, 中部日本整形外科学会誌 2003年; 46巻: 573-574.
 - 44) 細江英夫, 清水克時, 杉山誠一, 若林 英. Rod と Wire を使用した脊椎短縮術, 中部日本整形外科学会誌 2003年; 47巻: 665-666.
 - 45) 宮本 敬. フランス脊椎外科の心にふれた旅, INFOS 日仏整形外科学会広報誌 2003年; 12巻: 12-21
 - 46) 細江英夫, 清水克時. 特集: 整形外科手術進入路—私の工夫—, 胸椎に対する進入路, MB Orthop. 2004年; 17巻: 9-15.
 - 47) 細江英夫, 清水克時. 特集: 徹底解剖! 脊椎圧迫骨折 各論: 脊椎椎体骨折の治療とケア 治療方針の決定, SEIEI-GEKA KANGO 2004年; 9巻: 716-719.
 - 48) 野澤 聡, 清水克時. スポーツ選手の腰椎分離症に対する分離部修復術, 新 OS NOW 21 スポーツ整形外科の手術 2004年; 21巻: 150-156.
 - 49) 杉山誠一. 脊髄造影検査, 新 OS NOW 25 検査法、外来・病棟処置法、手術法 2004年; 25巻: 40-48.
 - 50) 杉山誠一, 糸数万正, 赤池 敦, 野々村諭香, 清水克時. リン酸カルシウムセメントを使用した抗菌薬释放システム, 整形外科 2004年; 55巻: 357-362.
 - 51) 細江英夫, 清水克時, 杉山誠一, 若林 英, 児玉博隆, 白石 建. アテトーゼ脳性麻痺に伴う頸髄症に対する skip laminectomy, 脊椎・脊髄神経手術手技 2004年; 6巻: 100-102.
 - 52) 上村修一, 小原 明, 井上俊之, 瀧上伊織, 清水克時, 若原和彦. 腰部椎間板造影後に発症した馬尾症候群の1例, 脊椎脊髄ジャーナル 2004年; 17巻: 675-678.
 - 53) 杉山誠一, 佐藤克平, 和田栄二, 田中健一郎. 頸椎椎弓形成術後における頸椎カラー装用と非装用の比較—頸椎アライメントと可動域の変化について—, 東海脊椎外科 2004年; 17号: 31-37.
 - 54) 和田栄二, 杉山誠一, 佐藤克平, 田中健一郎. 不安定要素が強い頸部脊柱管狭窄症に用いた椎弓形成術(RLR)とペディクルスクリューププレートシステム, 東海脊椎外科 2004年; 18巻: 30-34.
 - 55) 佐藤克平, 和田栄二, 杉山誠一, 橋本利彦. 頸部椎弓反転形成術後の頸部硬膜、脊髄形態変化, 東海脊椎外科 2004年; 18巻: 35-39.
 - 56) 清水克時, 細江英夫, 宮本 敬, 児玉博隆, 坂口康道, 西本博文. 転移性脊椎腫瘍に対する手術治療, 日本整形外科学会誌 2004年; 78巻: 700-705.
 - 57) 細江英夫, 清水克時, 杉山誠一, 若林 英, 児玉博隆. 骨粗鬆症椎体圧潰に対する Rod と Wire を使用した脊椎短縮術—その利点—, 日本脊椎インストゥルメンテーション学会誌 2004年; 3巻: 65-68.
 - 58) 飯沼宣樹, 宮本 敬, 清水克時. 脊椎インストゥルメンテーション手術後の感染に対する治療戦略, 臨床雑誌 整形外科 2004年; 55巻: 1027-1036.
 - 59) 野澤 聡, 清水克時. 整形外科/知ってるつもり「スポーツ選手の腰椎分離症の手術」, 臨床整形外科 2004年; 39巻: 802-804.
 - 60) 世沢 薫, 森田正次, 宮本 敬, 川口敦司, 児玉博隆, 細江英夫, 飯沼宣樹, 清水克時. 皮膚サルコイドーシスを合併した髄内浮腫を伴う頸髄症の1例, 臨床整形外科 2004年; 39巻: 865-869.
 - 61) 角島元隆, 西本博文, 野々村秀彦, 神谷宣広, 細江英夫, 清水克時. 症例報告 潜在性二分脊椎に発生した成人発症型 tethered cord syndrome の1例, 臨床整形外科 2004年; 39巻: 983-986.
 - 62) 細江英夫. 国際学会印象記「第2回世界脊椎学会(World Spine II)」に参加して, 臨床整形外科 2004年; 39巻: 690-691.
 - 63) 永野昭仁, 堀 裕彦, 小倉広康, 竹内章彦, 金森康夫, 葛西千秋. THA システム下骨折後 MRSA 骨髄炎を併発して治療に難渋した1例, 臨床整形外科 2004年; 39巻: 861-863.
 - 64) 世沢薫, 久島泰仁, 大野貴敏, 清水克時, 西本裕, 下川邦泰. 右上腕骨骨腫瘍の1例, 東海骨軟部腫瘍 2004年; 16巻: 7-8.
 - 65) 角田恒, 大野貴敏, 大野義幸, 清水克時, 西本裕, 下川邦泰. 左大腿骨骨腫瘍の1例, 東海骨軟部腫瘍 2004年; 16巻: 21-22.
 - 66) 中村正生, 清水克時. 痛を主訴とした症例に対するアンケート調査 —腰部脊柱管狭窄症合併の可能性について—, 新薬と臨床 2005年; 54巻: 7-13.
 - 67) 長縄敏毅, 杉山誠一, 若林 英, 若原和彦, 細江英夫, 清水克時, 日置 暁. 胸椎急性硬膜外血腫の2例, 臨床整形外科 2005年; 40巻: 307-311.
 - 68) 伏見一成, 糸数万正, 江崎正浩, 伊藤芳毅, 福田 雅, 清水克時. 抗生物質含浸ハイドロキシアパタイト充填法が有効であった大腿骨骨接合術後メチシリン耐性黄色ブドウ球菌 (MRSA) 骨髄炎の1例, 整形外科 2005年; 56巻: 297-300.
 - 69) 長縄敏毅, 杉山誠一, 若林 英, 若原和彦, 細江英夫, 清水克時, 日置 暁. 胸椎急性硬膜外血腫の2例,

臨床整形外科 2005年;40巻:307-311.

- 70) 宮本 敬, 清水克時, 細江英夫. 関節リウマチの頭蓋頸椎移行部病変に対する halo-vest を併用した後頭頸椎再建術, 脊椎脊髄ジャーナル 2005年;18巻:683-688.
- 71) 中村正生, 清水克時. 腰痛を主訴とした症例に対するアンケート調査-腰部脊柱管狭窄症合併の可能性について-, 新薬と臨床 2005年;54巻:7-13.
- 72) 宮本 敬, 清水克時, 細江英夫. 関節リウマチの頭蓋頸椎移行部病変に対する halo-vest を併用した後頭頸椎再建術, 脊椎脊髄ジャーナル 2005年;18巻:683-688.
- 73) 瀧上伊織, 小原 明, 山中一輝, 長縄敏毅, 井上俊之, 松本 和. 機能的装具 (functional brace) を用いた上腕骨骨幹部骨折の治療経験, 整形外科 2005年;56巻:1417-1419.
- 74) 山中一輝, 上村修一, 井上俊之, 瀧上伊織, 小原 明, 松本 和, 清水克時. 腰椎圧迫骨折の変形矯正に椎体置換術を施行した1例, 東海脊椎外科 2005年;19巻:90-92.
- 75) 小原 明, 瀧上伊織, 山中一輝, 長縄敏毅, 松本 和. 肩関節直立脱臼の2症例, 中部日本整形外科災害外科学会雑誌 2005年;48巻:563-564.
- 76) 瀧上伊織, 山中一輝, 長縄敏毅, 井上俊之, 小原 明, 松本 和. ファンクショナルブレースを用いた上腕骨骨幹部骨折の治療経験, 整形外科 2005年;56巻:1417-1419.
- 77) 長縄敏毅, 瀧上伊織, 山中一輝, 小原 明, 松本 和. ハンドボール選手に発生した Watson-Jones 分類 typeⅢ脛骨粗面裂離骨折の1例, 整形外科 2005年;56巻:1593-1596.

原著 (欧文)

- 1) Sugiyama S, Itokazu M, Suzuki Y, Shimizu K. Procollagen II C propeptide level in the synovial fluid as a predictor of radiographic progression in early knee osteoarthritis. *Ann Rheum Dis.* 2003;62:27-32. IF 3.916
- 2) Liu N, Kodama H, Banno Y, Morita M, Shimizu K. Calpain Inhibitor-like fraction in rabbit cerebrospinal fluid is probably an Oligopeptide. *Biomed Res.* 2003;24:317-324. IF 0.329
- 3) Takahashi A, Higashino F, Aoyagi M, Yoshida K, Itoh M, Kyo S, Ohno T, Taira T, Ariga H, Nakajima K, Hatta M, Kobayashi M, Sano H, Kohgo T, Shindoh M. EWS/ETS fusions activate telomerase in Ewing's tumors. *Cancer Res.* 2003;63:8338-8344. IF 7.690
- 4) Matsumoto K, Sumi H, Sumi Y, Shimizu K. Analysis of hip dislocations among snowboarders and skiers: a 10-year prospective study from 1992 to 2002. *J Trauma.* 2003;55:946-948. IF 1.653
- 5) Akaike A, Banno Y, Osawa Y, Oshita H, Fushimi K, Kodama H, Shimizu K. Synergistic induction of apoptosis of rheumatoid arthritis synovial cells by H2O2. *J Orthop Sci.* 2003;8:346-351.
- 6) Takeuchi A, Miyamoto K, Sugiyama S, Saitou M, Hosoe H, Shimizu K. Spinal arachnoid cysts associated with syringomyelia: report of two cases and a review of the literature. *J Spinal Disord Tech.* 2003;16:207-211. IF 1.121
- 7) Kanamori Y, Miyamoto K, Hosoe H, Fujitsuka H, Tatematsu N, Shimizu K. Case report transoral approach using the mandibular osteotomy for atlantoaxial vertical subluxation in juvenile rheumatoid arthritis associated with mandibular Micrognathia. *J Spinal Disord Tech.* 2003;16:221-224. IF 1.121
- 8) Nozawa S, Sakaguchi Y, Miyamoto K, Hosoe H, Nishimoto H, Shimizu K. Case report charcot Joint in the elbow associated with syringomyelia. *Orthopedics.* 2003;26:731-732. IF 0.553
- 9) Nonomura Y, Shimizu K, Nishimoto H, Hosoe H, Sakaguchi Y, Miyamoto K. Surgical correction for radiation-induced spinal deformity. *Orthopedics.* 2003;26:809-811. IF 0.553
- 10) Nozawa S, Shimizu K, Miyamoto K, Sakaguchi Y, Nishimoto H, Hosoe H. Sudden onset of paraparesis caused by hypertrophy of thoracic posterior longitudinal ligament. *Spinal Cord.* 2003;41:53-55 IF 1.199
- 11) Ioue T, Miyamoto K, Kushima Y, Nishibori H, Hosoe H, Shimizu K. Spinal subarachnoid hematoma compressing the conus medullaris and associated with neurofibromatosis type 2. *Spinal Cord.* 2003;41:649-652. IF 1.199
- 12) Miyamoto K, Shimizu K, Nozawa S, Sakaguchi Y, Toki M, Hosoe H. Kyphectomy using a surgical threadwire (T-saw) for kyphotic deformity in a child with myelomeningocele. *Spine.* 2003;28:E187-E190 IF 2.299
- 13) Miyamoto K, Shimizu K, Arimoto R, Sakaguchi Y, Nishimoto H, Kodama H, Hosoe H. Spontaneous symptomatic pseudoarthrosis at the T11-T12 intervertebral space with diffuse idiopathic skeletal hyperostosis: a case report. *Spine.* 2003;28:E320-E322. IF 2.299
- 14) Nakamura M, Miyamoto K, Shimizu K. Validation of the Japanese version of the roland-morris disability questionnaire for Japanese patients with low back pain and lumbar spine diseases. *Spine.* 2003;28:2414-2418. IF 2.299
- 15) Kakushima M, Miyamoto K, Shimizu K. The Effect of leg length discrepancy on spinal motion during gait -three dimensional analysis in healthy volunteers-. *Spine.* 2003;28:2472-2476. IF 2.299
- 16) Fukuta S, Miyamoto K, Masuda T, Hosoe H, Kodama H, Nishimoto H, Sakaeda H, Shimizu K. Two staged (posterior and anterior) surgical treatment using posterior spinal instrumentation for pyogenic and tuberculous spondylitis. *Spine.* 2003;28:E302-E308. IF 2.299
- 17) Nozawa S, Shimizu K, Miyamoto K, Tanaka M. Repair of pars interarticularis defect by segmental wire fixation in young athletes with spondylolysis. *Am J Sports Med.* 2003;31:359-364 IF 2.603
- 18) Matsumoto K, Shionyu M, Shimizu K, Shinomura T, Kimata K, Watanabe H. Distinct interaction of

- versican/ PG-M with hyaluronan and link protein. *J Biol Chem.* 2003;278:41205-41212. IF 6.355
- 19) Nozawa S, Tanaka C, Shikata J, Yamamuro T. Congenital contracture of the quadriceps muscle -a case report with resonance imaging-. *Arch Orthop Trauma Surg.* 2004;124:72-274. IF 0.579
- 20) Matsumoto K, Sumi H, Sumi Y, Shimizu K. Wrist fractures from snowboarding: A prospective study for three seasons from 1998 to 2001. *Clin J Sport Med.* 2004;14:64-71. IF 1.430
- 21) Kato T, Miyamoto K, Shimizu K. Postural reaction during maximum grasping maneuvers using a hand dynamometer in health subjects. *Gait Posture.* 2004;20:189-195. IF 1.725
- 22) Takeichi A, Miyamoto K, Hosoe H, Shimizu K. Thoracic paraplegia due to missed thoracic compressive lesions after lumbar spinal decompression surgery. *J Neurosurg.* 2004;100:71-74. IF 2.577
- 23) Kawaguchi A, Miyamoto K, Sakaguchi Y, Nishimoto H, Kodama H, Ohara A, Hosoe H, Shimizu K. Dropped head syndrome associated with cervical spondylotic myelopathy; A case report. *J Spinal Disord Tech.* 2004;17:531-534. IF 1.121
- 24) Oguri K, N Du, Kato Y, Miyamoto K, Masuda T, Shimizu K, Matsuoka T. Effect of moderate altitude on peripheral muscle oxygenation during leg resistance exercise in young males. *J Sports Sci Med.* 2004;3:182-189.
- 25) Oshita H, Sandy J, Suzuki K, Akaike A, Bai Y, Sasaki T, Shimizu K. Mature bovine articular cartilage contains abundant aggrecan that is C-terminally truncated at Ala719-Ala720, a site which is readily cleaved by m-calpain. *Biochem J.* 2004;382:1-7. IF 4.278
- 26) Nagano A, Miyamoto K, Hosoe H, Inuma N, Nishimoto H, Sakaeda H, Wada E, Shimizu K. Surgical treatment for cervical myelopathy in patients Aged>80 Years. *Orthopedics.* 2004;27:45-48. IF 0.553
- 27) Nozawa S, Miyamoto K, Sakaguchi Y, Hosoe H, Shimizu K. Ossification of the posterior longitudinal ligament associated with rheumatoid arthritis. *Orthopedics.* 2004;27:623-624. IF 0.553
- 28) Fushimi K, Nakashima S, Banno Y, Akaike A, Takigawa M, Shimizu K. Implication of prostaglandin E2 in TNF- α -induced of m-calpain from HCS-2/8 chondrocytes. Inhibition of m-calpain release by NSAIDS. *Osteoarthritis Cartilage.* 2004;12:895-903. IF 3.572
- 29) Yoshida M, Niwa M, Ishisaki A, Hirade K, Ito H, Shimizu K, Kato K, Kozawa O. Methotrexate enhances prostaglandin D2-stimulated heat shock protein 27 induction in osteoblasts. *Prostaglandins Leukot Essent Fatty Acids.* 2004;71:351-362. IF 1.743
- 30) Watanabe K, Miyamoto K, Masuda T, Shimizu K. Use of ultrasonography to evaluate thickness of the erector spinae muscle in maximum flexion and extension of the lumbar spine. *Spine.* 2004;29:1472-1477. IF 2.299
- 31) Hirakawa A, Miyamoto K, Hosoe H, Nishimoto Y, Shimokawa K, Shimizu K. Solitary fibrous tumor in the occipitocervical region: a case report. *Spine.* 2004;29:E547-E550. IF 2.299
- 32) Maehara H, Sakaguchi Y. Avulsion fracture of the medial head of the gastrocnemius muscle: A case report. *J Bone Joint Surg(A).* 2004;86-A:373-375. IF 1.946
- 33) Yamada Y, Shimizu K, Nitta A, Soumiya H, Fukumitsu H, Furukawa S. Sxonal regrowth downregulates the synthesis of glial cell line-derived neurotrophic factor in the lesioned rat sciatic nerve. *Neurosci Lett.* 2004;364:11-15. IF 2.019
- 34) Ohnishi K, Miyamoto K, Kato T, Shimizu K. Effects of wearing halo vest on gait -three dimensional analysis in healthy subjects. *Spine.* 2005;30:750-755 . IF 2.299
- 35) Ohnishi K, Miyamoto K, Kanamori Y, Kodama H, Hosoe H. Anterior decompression and fusion for multiple thoracic disc herniation. *J Bone Joint Surg (British).* 2005;87:356-360. IF 1.330
- 36) Takigami I, Miyamoto K, Kodama H, Tanimoto S, Shimizu K. - A Case report- Foramen magnum decompression for the treatment of Arnold Chiari malformation type I with associated syringomyelia in an elderly patient. *Spinal Cord.* 2005;43:249-251. IF 1.199
- 37) Miyamoto K, Sakaguchi Y, Hosoe H, Mori A, Yamazaki S, Hattori S, Shimizu K. -A case report- Tetraparesis due to exostotic osteochondroma at upper cervical cord in a patient with multiple exostoses-mental retardation syndrome(Langer-Giedion syndrome). *Spinal Cord.* 2005;43:190-194. IF 1.199
- 38) Yoshida M, Kanno Y, Ishisaki A, Tokuda H, Hirade K, Nakajima K, Katagiri Y, Shimizu K, Kozawa O. Methotrexate suppresses inflammatory agonist induced interleukin 6 synthesis in osteoblasts. *J Rheumatol.* 2005;32:787-795. IF 2.860
- 39) Fushimi K, Miyamoto K, Nishimoto H, Hosoe H, Kodama H, Shimizu K. Clinical outcomes of multilevel anterior corpectomy and fusion as a revision surgery of the cervical spine. Report of seven cases. *Spinal Cord.* 2005. IF 1.199
- 40) Masuda T, Miyamoto K, Oguri K, Matsuoka T and Shimizu K. Relationship between the thickness and hemodynamics of the erector spinae muscles in various lumbar curvatures. *Clin Biomech.* 2005;20:247-253. IF 1.731
- 41) Masuda T, Miyamoto K, Shimizu K. Effects of music listening on elderly ortopaedic patients during Postoperative Bed Rest. *Nord J Music Ther.* 2005;14:4-14.
- 42) Morita M, Miyamoto K, Nishimoto H, Hosoe H, Shimizu K. Thoracolumbar kyphosing scoliosis associated with spondyloepiphyseal dysplasia congenita - A case report. *Spine J.* 2005;5:217-220.
- 43) Inoue T, Miyamoto K, Kodama H, Hosoe H, Shimokawa K, Shimizu K. Clear cell meningioma in the cervical spine with vertebral involvement mimicking metastatic vertebral tumor : a case report. *J*

- Clin Neurosci. 2005;12:685-687. IF 0.834
- 44) Matsumoto K, Sumi H, Shimizu K. Tibial Osteochondroma causing foot pain mimicking plantar neuropathy: a case report. J Foot Ankle Surg. 2005;44:159-162.
- 45) Matsumoto K, Ohara A, Yamada K, Takigami I, Nganawa T. Luxatio erecta (Inferior dislocation of the shoulder): A report of two cases and a review of the literature. Injury Extra. 2005;36:450-453.
- 46) Ohno Y, Shimizu K, Ohnishi K. Surgically treated chronic unreduced medial dislocation of the elbow in a 70-year-old man: A case report. J Shoulder Elbow Surg. 2005;14:549-553. IF 0.861
- 47) Ohno Y, Shimizu K. Treatment of osteochondral fracture of the trochlea of the PIP joint. Arch Orthop Trauma Surg. 2005;30:1-7. IF 0.579
- 48) Nozawa S, Ohno T, Banno Y, Dohjima T, Wakahara K, De-Gang Fan, Shimizu K. Inhibition of platelet-derived growth factor-induced cell growth signaling by a short Interfering RNA for EWS-Fli1 via down-regulation of phospholipase D2 in ewing sarcoma cells. J Biol Chem. 2005;280:27544-27551. IF 6.355
- 49) Ohnishi K, Miyamoto K, Hashimoto K, Hosoe H, Shimizu K. Surgical Treatment for Atlantoaxial Subluxation with Mixed Connective Tissue Diseases - A Case report-. Orthopedics. in press. IF 0.553
- 50) Hioki A, Miyamoto K, Kodama H, Hosoe H, Nishimoto H, Sakaeda H, Shimizu K. Preservation of lordosis improves outcome in patients undergoing two levels PLF and pedicle screw instrumentation. Spine J. in press.

4. 研究費獲得状況

1) 競争的資金

- 1) 研究代表者：清水克時；(財)日本股関節研究振興財団 平成 15 年度研究助成金：カルパイン 1 (calpain)における関節軟骨破壊とその制御—calpain による分解産物を特異的に認識するモノクローナル抗体を使って—；平成 15 年度：1,000 千円
- 2) 研究代表者：清水克時，研究分担者：伊藤芳毅；科学研究費補助金基盤研究(B)(2)：カルパインによる特異的プロテオグリカン分解マーカー抗体の作成と臨床への応用；平成 14—15 年度；14,500 千円(11,100：3,400 千円)
- 3) 研究代表者：伊藤芳毅，研究分担者：清水克時；科学研究費補助金基盤研究(C)(2)骨膜線維芽細胞、軟骨細胞におけるカルパインの発現；平成 14—15 年度；2,900 千円(1,500：1,400 千円)
- 4) 研究代表者：大野貴敏，研究分担者：西本 裕；科学研究費補助金萌芽研究：RNAi によるユーイング肉腫、横紋筋肉腫のキメラ遺伝子を標的とした遺伝子治療；平成 15—17 年度；3,300 千円(1,300：1,300：700 千円)
- 5) 研究代表者：大野貴敏，野澤 聡；岐阜大学活性化費(研究)：分子標的治療を目指したユーイング肉腫の研究；平成 16 年度；1,200 千円
- 6) 研究代表者：前原秀亮；岐阜大学活性化費(研究)：マトリックス分解酵素としてのカルパインの研究；平成 17 年度；1,200 千円
- 7) 研究代表者：伏見一成；柔道整復学研究費：関節炎軟骨における MMP の発現機序の解明；平成 17 年度；300 千円
- 8) 研究代表者：鈴木直樹；RNAi による滑膜繊維芽細胞中のカルパイン阻害と臨床への応用；平成 17 年度；1,200 千円
- 9) 研究代表者：野田博，研究分担者：小鹿丈夫，川崎晴久，伊藤聡，毛利哲也，西本裕，青木隆明，栄枝裕文，篠崎昌人，岩村真事，安倍基幸，工藤咲子；新エネルギー・産業技術総合開発機構委託・補助事業「リハビリ支援ロボット及び実用化技術の開発」：イメージトレーニング機能付き手指上肢リハビリ支援システムの研究開発；平成 17—19 年度；4759 千円(2094：1523：1142 千円)(岐阜大学医学部分)
- 10) 研究代表者：清水克時；岐阜大学活性化費(研究)：マトリックス分解酵素としてのカルパインの研究；平成 17 年度；1,200 千円
- 11) 研究代表者：鈴木直樹；岐阜大学活性化費(研究)：RNAi による滑膜繊維芽細胞中のカルパイン阻害と臨床への応用；平成 17 年度；1,200 千円

2) 受託研究

- 1) 清水克時：軟骨細胞におけるカルパインの発現および機能；平成 16—17 年度；4,000 千円(3,200：800 千円)：三共(株)

3) 共同研究

なし

5. 発明・特許出願状況

- 1) 速水悟, 川崎晴久, 西本裕: リハビリテーション訓練技術教育装置; 平成 15 年度

6. 学会活動

1) 学会役員

清水克時:

- 1) 日本整形外科学会代議員(～平成 16 年 3 月)
- 2) 第 77 回日本整形外科学会学術総会査読委員(平成 15 年 10 月～平成 16 年 5 月)
- 3) 日本整形外科学会 平成 15・16 年度中部地区資格認定委員会委員長(平成 15 年 4 月～平成 16 年 3 月)
- 4) 日本整形外科学会国際委員会委員(平成 15 年 6 月～現在)
- 5) 第 33 回日本脊椎脊髄病学会プログラム委員(平成 16 年 1 月～平成 16 年 6 月)
- 6) 日本臨床スポーツ医学会評議員(平成 15 年 9 月～現在)
- 7) 日本整形外科学会第 16 回専門医試験口頭試験医員(平成 15 年 8 月～平成 16 年 1 月)
- 8) The 5th International conference on Bone Morphogenetic Proteins, 2004(The 5th BMP)組織委員会委員(平成 16 年 4 月～平成 16 年 9 月)
- 9) 日本手の外科学会評議員(平成 16 年 4 月～現在)
- 10) 日本リウマチ学会学会評議員(平成 16 年 4 月～現在)
- 11) 第 33 回日本脊椎脊髄病学会優秀学術展示賞選考委員(平成 16 年 1 月～平成 16 年 6 月)
- 12) 日本脊椎脊髄病学会渉外委員会委員長, 指導医制度検討委員会委員, 学術集会あり方委員会委員(平成 16 年 7 月～現在)
- 13) 日本脊椎脊髄病学会大正富山 Award 選考委員(基礎部門)(平成 16 年 9 月～現在)
- 14) 東海スポーツ傷害研究会顧問(平成 16 年 12 月～現在)
- 15) 第 20 回日本整形外科学会基礎学術集会プログラム委員(平成 17 年 5 月～平成 17 年 10 月)
- 16) 日本整形外科学会理事(平成 17 年 5 月～現在)
- 17) 日本整形外科学会学会賞選考委員会委員(平成 17 年 9 月～現在)
- 18) 日本整形外科学会第 18 回専門医試験口頭試験委員(平成 17 年 8 月～現在)
- 19) 日本脊椎脊髄病学会第 18 回大正富山 Award 選考委員(臨床部門)(平成 17 年 10 月～現在)
- 20) 日本小児整形外科学会評議員(平成 17 年 11 月～現在)

細江英夫:

- 1) 日本整形外科学会第 17 回専門医試験口頭試験委員(平成 16 年 8 月～平成 17 年 1 月)
- 2) 日本脊椎脊髄病学会日本脊椎脊髄病学会評議員(国際委員会, 渉外委員会)(平成 16 年 4 月～現在)
- 3) 日本乳幼児側弯症研究会世話人(平成 16 年 4 月～現在)

西本 裕:

- 1) 日本整形外科学会代議員(平成 17 年 3 月～現在)
- 2) 中部日本整形外科災害外科学会評議員(平成 9 年 10 月～現在)

2) 学会開催

清水克時:

- 1) 第 16 回日韓合同整形外科学術会議(平成 17 年 7 月, 岐阜)

3) 学術雑誌

清水克時:

- 1) 新 OS NOW ; 編集委員(平成 15 年 4 月から現在)
- 2) Orthopaedic International: Editor (2003.04～現在)
- 3) Orthopaedic Today: Editor (2003.04～現在)
- 4) 株式会社メディカ出版 整形外科看護 編集同人(2005.04～現在)

松本 和:

- 1) Foot and Ankle International: Associate Editor(2005.04～現在)

7. 学会招待講演, 招待シンポジスト, 座長

清水克時:

- 1) 岐阜脊椎カンファレンス 40 回記念講演会(平成 15 年 1 月, 岐阜, 特別講演「OPLL 治療の歩み」座長)
- 2) 大分県脊椎外科症例検討会特別講演会(平成 15 年 1 月, 大分, 特別講演「脊椎インストゥルメンテーションによる変形矯正」演者)
- 3) 第 2 回岐阜整形外科セミナー(平成 15 年 2 月, 岐阜, 特別講演「腰部脊柱管狭窄症に対する手術とリハビリテーション」演者)
- 4) 第 49 回鹿児島地区整形外科教育研修会(平成 15 年 2 月, 鹿児島, 特別講演「腰部脊柱管狭窄症の治療」演者)
- 5) 日医学医療セミナー(平成 15 年 3 月, 福岡, 特別講演「腰部脊柱管狭窄症の診断と治療」演者)
- 6) 東海地区 Spine Forum(平成 15 年 3 月, 愛知, 特別講演「脊柱管狭窄症一動的圧迫の重要性」座長)
- 7) 第 59 回東海脊椎外科研究会(平成 15 年 4 月, 愛知, 特別講演「脊髄内腫瘍の外科的治療」座長)
- 8) 第 5 回岐阜大学整形外科教育研修会(平成 15 年 6 月, 岐阜, 特別講演「肩のスポーツ外傷」座長)
- 9) 岐阜骨粗鬆症学術講演会(平成 15 年 6 月, 岐阜, 特別講演「骨折予防のエビデンスからみた骨粗鬆症治療の新たな展開」座長)
- 10) 高知学術講演会(平成 15 年 7 月, 高知, 特別講演「腰部脊柱管狭窄症の治療」演者)
- 11) 第 3 回整形外科長良リバーサイドフォーラム(平成 15 年 9 月, 岐阜, 特別講演「成人股関節疾患の治療 私の考え方」座長)
- 12) 岐阜クリニカルパスセミナー(平成 15 年 11 月, 岐阜, 特別講演「電子カルテとクリニカルパスが医療を買変える」座長)
- 13) 第 37 回日本側弯症学会(平成 15 年 11 月, 千葉, 特別講演「Colorada Spinal System を用いた脊柱変形の治療」座長)
- 14) 第 13 回健康づくりスポーツフォーラム(平成 15 年 11 月, 岐阜, 特別講演「整形外科医の立場からスポーツと整形外科」演者)
- 15) 整形外科フォーラム(平成 16 年 1 月, 東京, 特別講演「腰部脊柱管狭窄症の病態と治療をめぐって 腰部脊柱管狭窄症一治療法の選択」演者)
- 16) 蔵王スポーツセミナー(平成 16 年 1 月, 山形, 特別講演「スポーツ選手における腰椎分離症の手術」演者)
- 17) 第 93 回信州整形外科懇談会(平成 16 年 2 月, 松本, 特別講演「スポーツ選手における腰椎分離症の手術」演者)
- 18) 第 90 回備後整形外科医会学術研修会(平成 16 年 2 月, 福山, 特別講演「スポーツ選手の腰椎分離症に対する手術」演者)
- 19) 岐阜県臨床整形外科医会講演会(平成 16 年 4 月, 岐阜, 特別講演「スポーツ選手の腰椎分離症に対する手術」演者)
- 20) 富山スプリング・スポーツセミナー(平成 16 年 5 月, 富山, 特別講演「スポーツ選手における腰椎分離症の手術」演者)
- 21) 第 29 回東海地区整形外科教育研修会(平成 16 年 5 月, 愛知, 特別講演「高齢者腰椎の臨床像と手術」座長)
- 22) 第 6 回岐阜大学整形外科教育研修会(平成 16 年 5 月, 岐阜, 特別講演「完全電子化新病院と高次救命治療センター」座長)
- 23) 労災指定医部会(平成 16 年 6 月, 岐阜, 特別講演「下肢スポーツ外傷・障害の臨床経験」座長)
- 24) 第 33 回日本脊椎脊髄病学会(平成 16 年 6 月, 東京, 特別講演「Noontime Lecture 5 脊椎短縮術」演者)
- 25) 第 39 回東海接骨学会・第 84 回中部接骨学会(平成 16 年 6 月, 岐阜, 特別講演「スポーツ選手における腰椎分離症の手術」演者)
- 26) 第 2 回長崎・慢性疼痛疾患研究会(平成 16 年 7 月, 長崎, 特別講演「スポーツ選手における腰椎分離症の手術」演者)
- 27) 第 4 回南勢地区整形外科研究会(平成 16 年 7 月, 三重, 特別講演「スポーツ選手における腰椎分離症の手術」演者)
- 28) 第 6 回三重大阪脊椎脊髄外科シンポジウム(平成 16 年 7 月, 三重, 特別講演「脊椎短縮術」演者)
- 29) 山梨腰痛疾患セミナー(平成 16 年 7 月, 甲府, 特別講演「腰痛治療の病診連携」演者)
- 30) 岐阜骨粗鬆症学術講演会(平成 16 年 8 月, 岐阜, 特別講演「骨代謝マーカーと骨粗鬆症治療戦略」座長)

- 長)
- 31) 第2回日本整形外科学会脊椎脊髄病医研修会(平成16年9月, 大阪, 特別講演「頸椎疾患の診断と治療」座長)
 - 32) 第3回岐阜リハビリテーション研究会(平成16年9月, 岐阜, 特別講演「脳卒中片麻痺患者の歩行機能再建」座長)
 - 33) 第2回日本整形外科学会脊椎脊髄病医研修会(平成16年9月, 大阪, 特別講演「頸・胸椎疾患の診断と治療」座長)
 - 34) Spinal Symposium in Tokyo 2004(平成16年9月, 東京, 特別講演「転移性脊椎腫瘍の手術治療」演者)
 - 35) 第11回日本脊椎・脊髄神経手術手技学会(平成16年9月, 埼玉, 特別講演「脊椎骨髄炎に対するインストゥルメンテーション手術」演者)
 - 36) オステオポロシスセミナー(平成16年10月, 岐阜, 特別講演「骨粗鬆症性椎体骨折に対する治療戦略」座長)
 - 37) 岐阜県整形外科学術講演会(平成16年10月, 岐阜, 特別講演「腰部脊柱管狭窄症の自然経過からみた治療法の選択」座長)
 - 38) 第38回日本側弯症学会(平成16年11月, 静岡, 特別講演「胸腔鏡視下脊椎変形前方矯正固定術(ECIFシステム)の中長期成績一問題点と対策」座長)
 - 39) 骨・関節疾患セミナー(平成16年11月, 岐阜, 特別講演「1.変形性関節症の治療～保存的治療と手術的治療～」 「2.骨粗鬆症～骨折予防のエビデンスとその実際～」座長)
 - 40) 山梨整形外科同カンファレンス(平成16年12月, 甲府, 特別講演「スポーツ選手における腰椎分離症の手術」演者)
 - 41) 第17回骨・関節疾患シンポジウム(平成17年1月, 福岡, 特別講演「腰部脊柱管狭窄症の治療」演者)
 - 42) Spine Forum(平成17年2月, 愛知, 特別講演「脊椎再建手術の動向と課題」座長)
 - 43) 第53回鹿児島地区整形外科教育研修会(平成17年2月, 鹿児島, 特別講演「スポーツ選手における腰椎分離症の手術」演者)
 - 44) Spine Seminar Tochigi 2005(平成17年2月, 宇都宮, 特別講演「腰部脊柱管狭窄症の治療」演者)
 - 45) 第6回島根脊椎・脊髄外科学術講演会(平成17年3月, 松江, 特別講演「スポーツ選手における腰椎分離症の手術」演者)
 - 46) Medical Tribune プライマリ・ケアセミナー(平成17年3月, 札幌, 特別講演「Medical Tribune プライマリ・ケアセミナー」演者)
 - 47) 腰部脊柱管狭窄症学術講演会(平成17年3月, 秋田, 特別講演「腰部脊柱管狭窄症の治療」演者)
 - 48) 第7回整形外科カレントコンセプト(平成17年4月, 東京, 特別講演「スポーツ選手における腰椎分離症の手術」演者)
 - 49) Medical Tribune プライマリ・ケアセミナー(平成17年4月, 高知, 特別講演「腰下肢通を起こす疾患－腰部脊柱管狭窄症、腰椎椎間板ヘルニア、腰椎すべり症、骨粗鬆症、圧迫骨折、感染症、腫瘍、慢性動脈閉塞症など」演者)
 - 50) 第7回岐阜大学整形外科教育研修会(平成17年5月, 岐阜, 特別講演「整形外科領域における同種移植と再生医療」座長)
 - 51) 7回岐阜脊椎セミナー(平成17年5月, 岐阜, 特別講演「遊離腓骨移植に前方プレートを用いた多椎間固定術」座長)
 - 52) 第63回西日本脊椎研究会(平成17年6月, 福岡, 特別講演「腰椎変性側弯症の手術」演者)
 - 53) 瑞穂区医師会学術講演会(平成17年6月, 愛知, 特別講演「腰痛治療の病診連携」演者)
 - 54) 岐阜骨粗鬆症治療研究会特別講演会(平成17年6月, 岐阜, 特別講演「最近の薬剤性肺炎と抗リウマチ薬」座長)
 - 55) 新潟腰痛疾患フォーラム(平成17年7月, 新潟, 特別講演「腰部脊柱管狭窄症の治療」演者)
 - 56) オステオポロシスセミナー(平成17年9月, 岐阜, 特別講演「骨粗鬆症と転倒予防」座長)
 - 57) 長崎学術講演会(平成17年9月, 長崎, 特別講演「腰痛治療の病診連携」演者)
 - 58) 第4回岐阜リハビリテーション研究会(平成17年10月, 岐阜, 特別講演「関節リウマチのリハビリテーション」座長)
 - 59) 北九州腰痛・下肢痛フォーラム(平成17年10月, 福岡, 特別講演「腰痛治療の病診連携」演者)
 - 60) 第20回日本整形外科学会基礎学会学術集会(平成17年10月, 三重, 特別講演「Revolutionizing the Treatment of Scoliosis through Basic Science Research : From Growth Modulation to Gene

Discovery」座長)

- 61) 第 33 回日本リウマチ・関節外科学会(平成 17 年 11 月, 東京, 特別講演「関節リウマチの頸椎病変—特に外科的治療について—」座長)
- 62) 第 32 回東海地区整形外科教育研修会(平成 17 年 11 月, 愛知, 特別講演「低侵襲脊椎後方アプローチとその応用」座長)
- 63) TLIF セミナー(平成 17 年 11 月, 大阪, 特別講演「Cantilever Transforaminal Lumbar Interbody Fusion (C-TLIF) using IBS Interbody Spacer-GIFU EXPERIENCE」演者)
- 64) TLIF セミナー(平成 17 年 11 月, 大阪, 特別講演「OPEN TLIF」座長)
- 65) 第 12 回武蔵南部整形外科研究会(平成 17 年 11 月, 川崎市, 特別講演「スポーツ選手における腰椎分離症の手術」演者)
- 66) 北信整形外科医会教育研修会(平成 17 年 12 月, 長野, 特別講演「腰部脊柱管狭窄症の治療—腰痛治療の病診連携—」演者)
- 67) 筑豊地区腰痛・下肢痛フォーラム(平成 17 年 12 月, 飯塚市, 特別講演「腰痛治療の病診連携」演者)

糸数万正 :

- 1) 第 5 回岐阜大学整形外科教育研修会(平成 15 年 6 月, 岐阜, 特別講演「手指屈指筋腱損傷の治療—私の方針と最近の問題—」座長)
- 2) 第 2 回岐阜リハビリテーション研究会(平成 15 年 9 月, 岐阜, 特別講演「股関節のリハビリテーション」座長)
- 3) 第 2 回抗サイトカイン療法研究会(平成 16 年 2 月, 岐阜, 特別講演「岐阜県内のレミケード使用状況について」座長)
- 4) 第 76 回岐阜県整形外科集談会(平成 17 年 1 月, 岐阜, 特別講演「低侵襲人工関節置換術」座長)
- 5) 第 7 回岐阜大学整形外科教育研修会(平成 17 年 5 月, 岐阜, 特別講演「スポーツ選手に見られる足関節捻挫の治療の重要性について」座長)

細江英夫 :

- 1) 岐阜脊椎固定術セミナー(平成 15 年 10 月, 岐阜, 特別講演「ハンガリーと日本における脊椎固定術の現況」演者)
- 2) 日本側弯症学会第 3 回卒後研修セミナー(平成 16 年 6 月, 札幌, 特別講演「側弯症の natural history」演者)
- 3) 第 320 回新城医師会学術講演会(平成 17 年 10 月, 愛知, 特別講演「腰部脊柱管狭窄症を中心とした腰痛の診断と治療」演者)
- 4) 第 64 回東海脊椎外科研究会学術集会(平成 17 年 12 月, 愛知, 特別講演「脊椎脊髄外傷の臨床」座長)

西本 裕 :

- 1) 第 19 回岐阜県超音波研究会(平成 15 年 11 月, 岐阜, 特別講演「整形外科領域の超音波診断」演者)

大野貴敏 :

- 1) 岐阜骨軟部腫瘍セミナー(平成 15 年 4 月, 岐阜, 特別講演「Transgenic mouse models of cancer using Cre/loxP technology」座長)
- 2) 岐阜骨代謝特別講演会(平成 15 年 11 月, 岐阜, 特別講演「Cartilage collagen: molecular assembly, degradation and candidate biomarker of joint disease」座長)
- 3) 岐阜骨軟部腫瘍特別セミナー(平成 16 年 7 月, 岐阜, 特別講演「Surgical Treatment of Musculoskeletal Tumors」座長)

福田 雅 :

- 1) 第 19 回岐阜県接骨学会(平成 16 年 9 月, 岐阜, 特別講演「肩の疾患と運動療法」演者)

宮本 敬 :

- 1) 第 6 回岐阜脊椎セミナー(平成 15 年 1 月, 岐阜, 特別講演「脊柱変形矯正手術のポイント」座長)

青木隆明：

- 1) 第 32 回日本赤十字リハビリテーション学会(平成 17 年 11 月, 岐阜, 特別講演「障害者スポーツの身体機能とインテグレーション」座長)

松本 和：

- 1) AO PFNA セミナー(平成 17 年 6 月, 東京, 招待講演「Clinical Experience with PFNA」演者)
- 2) AO Seminar in Kyoto(平成 17 年 10 月, 京都, 招待講演「Clinical Experience with PFNA」演者)

8. 学術賞等の受賞状況

- 1) 野澤 聡：岐阜脊椎カンファレンス第 2 回大正・アワード 2003(平成 15 年度)
- 2) 宮本 敬：岐阜脊椎カンファレンス第 2 回大正・アワード 2003(平成 15 年度)
- 3) 野澤 聡：岐阜医学研究協議会学術奨励賞(平成 16 年度)
- 4) 松本 和：日本軟骨代謝学会学会賞(新名賞)(平成 17 年度)

9. 社会活動

西本 裕：

- 1) 岐阜県社会保険診療報酬支払基金診療報酬請求審査委員会委員(平成 15 年～現在)

10. 報告書

なし

11. 報道

- 1) 西本 裕：スポーツ医科学 No.101「使い過ぎ症候群」を防ぐには？：岐阜スポーツ 岐阜新聞(2005 年 1 月 9 日)
- 2) 細江英夫：「腰痛診断のこつ」：岐阜県保険医新聞(2003 年 11 月 10 日)
- 3) 清水克時：腰椎分離症手術を紹介(羽島市 東海接骨学会)：岐阜新聞(2004 年 6 月 21 日)
- 4) 清水克時：スポーツと健康 整形外科学会日本代表に：朝日新聞(2005 年 11 月 11 日)

12. 自己評価

評価

各研究グループのスタッフ、大学院生の地道な努力の結果、研究の成果は着実に現れており、インパクトの高いジャーナルへの掲載が徐々に増してきている。

現状の問題点およびその対策

日々臨床、教育に大部分の時間を割かざるを得ないため、研究は日常業務が終了してから行うことになる。手術件数も増えており、スタッフにとって肉体的に厳しい面も否めない。臨床研修システムが変更されたことも人員不足に拍車をかけており、以前にも増して人員と研究費の充実が望まれる。研究業務は可及的に効率よくシステムティックに行うことを心がけている。

今後の展望

現在の各研究のオリジナリティーを維持しつつ、今後グローバルに様々な分野の研究者と協力し、研究の質の向上を図りたい。

(5) 皮膚病態学分野

1. 研究の概要

1) 北島康雄教授は厚生労働省特定疾患稀少難治性皮膚疾患に関する調査研究班・班長として、天疱瘡、先天性表皮水疱症、膿疱乾癬、水疱型魚鱗癬様紅皮症の4疾患について2002～2004年の3年間(10,900万円)に続いて、2005年より3年間の予定(1年間3,900万円の研究費)で、診断基準、発症機序、治療法開発の研究を行っている。また、17年度から医学部長プール助手の重点化助手として2006年2月1日に採用され永井美貴臨床講師もこの研究の主要メンバーに参加した。

2) 天疱瘡に関する研究

表皮細胞はデスモソームで結合しているが、その接着分子であるデスモグレインに対する自己抗体によって天疱瘡は発症する。我々は抗体がデスモグレインに結合した後の反応について、抗体結合による細胞内シグナル伝達異常が惹起され、それによってデスモグレイン欠損デスモソームの形成が起きることを分子生物学的、生化学的、細胞生物学的に証明しつつある。シグナル伝達等基礎的研究は、北島康雄教授、青山裕美講師を中心に河崎優希薬学博士研究員(ポスドク)を採用し大学院生(菅野実穂、戸崎裕子、周円、山本ゆかり)が研究している。また、治療法の開発は、市来善郎助教授、江崎智香子臨床講師を中心に行っている。これらの業績の一部はアメリカ NIH 主催国際シンポジウム天疱瘡2005(6月)において招請講演で報告した。抗体結合後のシグナル伝達の中に、アポトーシスシグナルが関与する可能性についてイタリアモデナ大学医学部皮膚科教授 Carlo Pincelli 博士と共同研究をスタートすべくヒューマンフロンティア財団に旅費申請をした。

3) 先天性表皮水疱症

市来善郎助教授と戸崎裕子大学院生を中心に、新しい病型を発見し、かつ病因ケラチン遺伝子変異を見出した。現在その遺伝子導入の細胞機能の実験を行っている。大学院生の知野剛直は大阪大学大学院医学系研究科遺伝子治療学教室で遺伝子治療の研究を岐阜大学非常勤講師の玉井克人助教授の指導で行っている。これまでに皮膚に分化する幹細胞の分離、遺伝子欠損マウスに欠損遺伝子を導入しその蛋白を発現させても免疫寛容を誘導する方法などを開発している。(北島教授は日本水疱症研究会代表幹事)

4) アトピー性皮膚炎に関する研究

高木 肇助教授を中心に、治療法、保湿能などの臨床的研究をしている。また、その一つとして岐阜地区の小中学校で都市部と郡部の間での発症率の差についてフィールドワークも行った。

5) 悪性腫瘍、皮膚悪性腫瘍の治療に関する研究

厚生省癌研究メラノーマ班会議の研究協力者(北島康雄教授)として参加し、神谷秀喜講師、岩田浩明助手、高木 肇助教授、青山裕美講師を中心に悪性腫瘍に関する基礎的及び臨床的研究をしている。

6) 乾癬に関する研究

雄山瑞栄助手を中心に治療法の研究をしている。(北島教授は日本乾癬学会の理事)

7) 皮膚真菌症に関する研究

高木 肇助教授、青山裕美講師を中心に診断と治療法の開発研究をしている。(北島教授は日本医真菌学会の役員：監事)

2. 名簿

教授：	北島康雄	Yasuo Kitajima
助教授：	高木 肇	Hajime Takagi
助教授：	市来善郎	Yoshiro Ichiki
講師：	神谷秀喜	Hideki Kamiya
講師：	青山裕美	Yumi Aoyama
臨床講師：	江崎智香子	Chikako Esaki
臨床講師：	雄山瑞栄	Zuiei Oyama
臨床講師：	岩田浩明	Hiroaki Iwata
医員：	杉野佳奈	Kana Sugino
医員：	浅川絵理	Eri Asakawa
医員：	浅井かなこ	Kanako Asai
医員：	小嶋三佳	Mika Kojima

3. 研究成果の発表

著書(和文)

- 1) 北島康雄. 膿疱症:北島康雄編. 日本皮膚科白書, 東京:金原出版;2003年:127-131.

- 2) 北島康雄. 角層下膿疱症: 新村真人・瀧川雅浩編. 東京: 南江堂; 2003年: 106.
- 3) 北島康雄. 角化異常症・汗孔角化症・急性痘瘡状苔癬状靴糠疹・黒色表皮腫・ジベル薔薇色靴糠疹・尖圭紅色苔癬・ダリエー病・頭部靴糠疹・遠山連圈状靴糠疹・播種性汗孔角化症・反転性毛包角化症・砒素角化症・ヘブラ紅色靴糠疹・扁平苔癬・慢性苔癬状靴糠疹・毛孔性紅色靴糠疹・類乾癬 (17項目): 伊藤正男, 井村裕夫, 高久史磨総編. 医学大辞典, 東京: 医学書院; 2003年.
- 4) 北島康雄. 皮膚アミロイドーシス: 山口 徹, 北原光夫総編. 今日の治療指針 2004年版-私はこう治療している, 東京: 医学書院; 2003年: 826.
- 5) 高木 肇. Raynaud 現象: 新村真人・瀧川雅浩編. 皮膚疾患最新の治療 2003-2004, 東京: 南江堂; 2003年: 41.
- 6) 高木 肇. 皮膚凍結療法: 山口 徹, 北原光夫編. 今日の治療指針 2004年版-私はこう治療している, 東京: 医学書院; 2003年: 41.
- 7) 北島康雄. デスモソームの機能と病態への関与-皮膚の発生・機能と病態: 玉置邦彦編. 最新皮膚科学大系 19, 東京: 中山書店; 2004年: 80-84.
- 8) 北島康雄. 炎症のない角化性病変: 岩月啓氏・宮地良樹編. カラーアトラス皮膚診断の技法, 東京: 診断と治療社; 2004年: 84-87.
- 9) 北島康雄. 炎症性角化症: 大塚藤男・宮地良樹編. NEW 皮膚科学(改訂2), 東京: 南江堂; 2004年: 221-230.
- 10) 北島康雄. 角化の生物学・分子生物学-2. 皮膚の生物学: 石川 治, 宮地良樹編. 図解 皮膚科学テキスト, 東京: 中外医学社; 2004年: 19-23.
- 11) 北島康雄. Sneddon-Wilkinson syndrome (角層下膿疱症): 玉置邦彦編. 最新皮膚科学体系-特別2: 皮膚科症候群, 東京: 中山書店; 2004年: 329-330.
- 12) 高木 肇. Bloom 症候群: 玉置邦彦編. 最新皮膚科学体系, 東京: 中山書店; 2004年: 48-49.
- 13) 高木 肇. 水疱: 玉置邦彦編. 最新皮膚科学体系-新生児 小児 高齢者の皮膚疾患(特別巻), 東京: 中山書店; 2004年: 285-289.
- 14) 神谷秀喜. 高齢者の手術における一般的注意事項: 玉置邦彦編. 最新皮膚科学体系-新生児 小児 高齢者の皮膚疾患(特別巻), 東京: 中山書店; 2004年: 326-330.
- 15) 北島康雄. 膿疱性乾癬, 間接症性乾癬: 滝川雅浩, 渡辺晋一編. 皮膚疾患最新の治療 2005-2006, 東京: 南江堂; 2005年: 119-120.
- 16) 北島康雄. 膿疱性乾癬: 古江増隆編. 日本皮膚科学白書 (改訂版), 東京: 日本皮膚科学会; 2005年: 114-148.
- 17) 高木 肇. 網状皮斑: 滝川雅浩, 渡辺晋一編. 皮膚疾患最新の治療 2005-2006, 東京: 南江堂; 2005年: 46.
- 18) 高木 肇. 汗疱・あせも・わきが・多汗症: 山口 徹, 北原光夫編. 今日の治療指針 2005年版, 東京: 医学書院; 2005年: 854.
- 19) 北島康雄. 自己免疫水疱症, 天疱瘡, 病態: 小川秀興・池田志孝編. 第102回日本皮膚科学会総会記念, 東京; in press.
- 20) 北島康雄. 天疱瘡 a) 病態: 皮膚疾患の病態と治療 (改訂版), in press.
- 21) 高木 肇. 滴状乾癬: 飯塚 一編. 皮膚病診療プラクティクス 16; 東京: 文光堂; in press.
- 22) 高木 肇. 糖尿病と皮膚病変: 寺内康夫編. 診断と治療, 東京: 診断と治療者; 94巻; in press.
- 23) 神谷秀喜. 物理化学的障害: 片山一朗・土田哲也・橋本 隆・古江増隆・渡辺晋一編. 皮膚科学教科書, 東京: 文光堂; in press.

著書 (欧文)

なし

総説 (和文)

- 1) 北島康雄. 先天性表皮水疱症, 小児科診療 2003年; 増刊: 123-127.
- 2) 北島康雄. 乾癬-角化異常とT細胞-, 毎日ライフ-特集皮膚病の最新治療- 2003年; 10巻: 16-18.
- 3) 神谷秀喜. 遊離植皮のこつ-局所麻酔下で可能な全層遊離植皮術, Monthly Book Derma-第1部皮膚外科に重要な必須手技の蘊蓄- 2003年; 80巻: 55-59.
- 4) 神谷秀喜. 病態から考える皮膚疾患診療手順, 皮膚科の臨床 (増刊号) -26.壊死性筋膜炎- 2003年; 45巻: 1483-1488.
- 5) 高木 肇. 蕁麻疹様紅斑-SLE-, 皮膚病診療カラーアトラス 2004年; 26巻 (増1): 76-77.
- 6) 高木 肇. 水疱症・膿疱症, 歯科医のための皮膚科学-7章- 2004年; 2巻: 46-50.
- 7) 高木 肇. 毛包脂腺系疾患, 歯科医のための皮膚科学-15章- 2004年; 2巻: 95.
- 8) 高木 肇. 毛髪系疾患, 歯科医のための皮膚科学-16章- 2004年; 2巻: 96-97.
- 9) 市来善郎. 点状紅斑 (樋口), 皮膚病診療カラーアトラス 2004年; 26巻 (増1): 107.
- 10) 神谷秀喜. 蕁疹, 皮膚病診療カラーアトラス 2004年; 26巻 (増1): 80.
- 11) 神谷秀喜. 手許に置きたい診断基準とその解説-悪性腫瘍のステージ分類-, 皮膚科の臨床 2004年; 46巻 (増): 1612-1618.
- 12) 荒木麻里, 北島康雄. 成人 Still 病, 皮膚病診療カラーアトラス 2004年; 26巻 (増1): 78.
- 13) 雄山瑞栄. Erythema papulatum centrifugum, 皮膚病診療カラーアトラス 2004年; 26巻 (増1): 56.

総説 (欧文)

- 1) Kitajima Y. Current and prospective understanding of clinical classification, pathomechanisms and therapy in pemphigus. Arch Dermatol Res, 2003;295:S17-S23.

原著 (和文)

- 1) 高木 肇. 色素計を用いた色素沈着改善の評価—アトピー性皮膚炎を中心として—, 日東医誌 2003年; 54巻: 596-601.
- 2) 神谷秀喜, 亀井和可奈, 佐藤美貴, 市来善郎, 北島康雄, 高橋茂清, 大野 康. 急速に間質性肺炎を合併した皮膚筋炎の1例, 中部リウマチ誌 2003年; 33巻: 141-142.
- 3) 神谷秀喜, 北島康雄. 良性病変との鑑別を要した隆起性皮膚線維肉腫の3例, 皮膚病診療—実際に学ぶ鑑別診断— 2003年; 25巻: 24-29.
- 4) 神谷秀喜, 北島康雄. 脂漏性角化症と思われた悪性黒色腫, 皮膚病診療—実際に学ぶ鑑別診断— 2003年; 25巻: 37-40.
- 5) 神谷秀喜, 北島康雄. 焼身自殺患者における社会的経済的問題に関する考察, 日皮会誌 2003年; 7巻: 74-75.
- 6) 米田和史, 戸崎裕子, 亀井和可奈, 山田鉄也, 坂下文夫, 神谷秀喜, 奥村陽子, 樋口実穂. Stewart-Treves症候群の2例, Skin Cancer 2003年; 18巻: 56-60.
- 7) 周 円, 神谷秀喜, 北島康雄. 好酸球形筋膜炎, 皮膚病診療 2003年; 25巻: 57-60.
- 8) 知野剛直, 南波 正, 神谷秀喜, 服部和樹, 前田永子. 有茎性血管肉腫の1例, 皮膚科の臨床 2003年; 45巻: 1263-1266.
- 9) 藤沢知美, 神谷秀喜, 松岡百合子, 佐藤美貴, 北島康雄. Amelanotic melanoma の1例, 皮膚科の臨床 2003年; 45巻: 886-887.
- 10) 古川福実, 松永佳世子, 伊藤正俊, 上田説子, 菊池克子, 戸佐真弓, 船坂陽子, 宮崎孝夫, 久野有紀, 山本有紀, 岸岡亜紀子, 北島康雄, 古江増隆. 日本皮膚科学会ケミカルピーリングガイドライン 2004, 日皮会誌 2004年; 114巻: 953-957.
- 11) 川瀬晴美, 前田 学, 洞井俊夫, 和田久泰, 北島康雄, 清島 満. 膠原病, 特に全身性強皮症における循環生理学的検査の有用性について, 臨床病理 2004年; 52巻: 401-406.
- 12) 高木 肇, 神谷秀喜, 北島康雄, 前田 学, 米田和史, 清島真理子, 山田孝宏, 松岡百合子, 加納宏行. 小児のアトピー性皮膚炎並びに乾皮症等に起因する皮膚乾燥症状に対する Locobase REPAIR の有用性の検討, 皮膚の科学 2004年; 3巻: 306-315.
- 13) 山崎隆治, 別所愛彦, 加藤 研, 高木 肇. 皮膚筋炎を契機に乳癌肺転移を発見しえた1例, 皮膚科の臨床 2004年; 64巻: 1191-1193.
- 14) 神谷秀喜. あなたならどうする? アンケート結果のまとめ, 日本皮膚外科学会誌 2004年; 8巻: 116-117.
- 15) 神谷秀喜. 肺血栓塞栓症予防について—間欠的空気圧迫法の使用推進—, 日本皮膚外科学会誌 2004年; 8巻: 130-131.
- 16) 神谷秀喜, 北島康雄. Sebaceous carcinoma と考えた1例, 日本皮膚病理組織学会誌 2004年; 20巻: 14-17.
- 17) 知野剛直, 南波 正, 神谷秀喜, 伊藤雅文. 表皮嚢腫から生じた有棘細胞癌の1例, 皮膚科の臨床 2004年; 46巻: 299-302.
- 18) 周 円, 藤広満智子, 神谷秀喜, 北島康雄. 腋窩 Paget 病の1例—当科における統計的考察—, 皮膚科の臨床 2004年; 46巻: 423-425.
- 19) 樋口実穂, 神谷秀喜, 北島康雄. カルパマゼピンによる hypersensitivity syndrome の1例, 皮膚科の臨床 2004年; 46巻: 983-986.
- 20) 亀井和可奈, 神谷秀喜, 周 円, 北島康雄. 慢性放射線皮膚炎上に棘細胞癌、基底細胞癌、Bowen 病を生じた1例, 皮膚科の臨床 2004年; 46巻: 405-407.
- 21) 亀井和可奈, 神谷秀喜, 永井美貴, 市来善郎, 北島康雄, 米田和史, 高橋茂清, 大野 康. 特異な皮疹の分布を示し, 急速進行性間質性肺炎を併発して死亡した皮膚筋炎の1例, 皮膚科の臨床 2004年; 46巻: 711-714.
- 22) 藤沢智美, 神谷秀喜, 亀井和可奈, 市来善郎, 北島康雄, 水田啓介, 林 真也. 破壊型基底細胞癌の1例—進行例の治療方針—, 皮膚科の臨床 2004年; 46巻: 395-398.
- 23) 市橋直樹, 和泉智子, 高木 肇, 楊 美雪, 樋口実穂, 南波 正, 北島康雄. ビタミン D₃ 外用剤とステロイド外用剤との併用療法の検討, 治療と新薬 2004年; 53巻: 427-433.
- 24) 長谷川優佳, 樋口実穂, 江崎智香子, 市来善郎, 高木 肇, 北島康雄, 和泉秀彦. 水疱を伴った蕁麻疹様血管炎の1例, 臨床皮膚科 2004年; 58巻: 1035-1038.
- 25) 北島康雄. 法人化と附属病院—法人化は岐阜大学病院をどう変えたか, IDE・現代の高等教育 2005年; 75巻: 22-26.
- 26) 秀 道広, 古江増隆, 池澤善郎, 塩原哲夫, 松永佳世子, 長野拓三, 大路昌孝, 堀川達弥, 亀好良一, 北島康雄. 蕁麻疹・血管性浮腫の治療ガイドライン, 日本皮膚科学会雑誌 2005年; 115巻: 703-715.
- 27) 高木 肇. 石灰化上皮腫, 日本医師会雑誌 2005年; 特別号: S240.
- 28) 遠渡 舞, 高木 肇, 荒木麻里, 山村真弘, 市来善郎, 北島康雄, 伊藤 隆. 小麦による食物依存性運動誘発アナフィラキシーの1例, 皮膚科の臨床 2005年; 47巻: 73-76.
- 29) 神谷秀喜, 岩田浩明, 北島康雄, 師井洋一. 乳房 Paget 病グループスタディ 2004年度報告, 日本皮膚外

- 科学会誌 2005年;9巻:16-19
- 30) 神谷秀喜, 北島康雄. 転移を来した Eccrine porocarcinoma の治療方針の検討—当科の経験症例から—, *Skin Cancer* 2005年;20巻:51-57
 - 31) 樋口実穂, 神谷秀喜, 市来善郎, 北島康雄, 加納宏行. Eccrine porocarcinoma の1例—進行例の治療経験—, *皮膚科の臨床* 2005年;47巻:681-684.
 - 32) 樋口実穂, 神谷秀喜, 北島康雄. Sclerosing epithelioid と考えた1例, *Skin Cancer* 2005年;20巻:66-69.
 - 33) 遠渡 舞, 藤広満智子, 酒井浩志, 神谷秀喜. 足白癬より発症した壊死性筋膜炎の1例, *臨床皮膚科* 2005年;59巻:24-26.
 - 34) 畑佐知里, 市来善郎, 北島康雄, 安田憲生, 細川嘉彦. サルコイドーシスを合併した全身性強皮症の2例, *臨床皮膚科* 2005年;59巻:982-985.
 - 35) 加藤優佳, 和泉智子, 市橋直樹, 市来善郎, 高木 肇, 北島康雄, 三輪佳行, 村上啓雄. 肺結核を伴い臀部に生じた尋常性狼瘡の1例, *臨床皮膚科* 2005年;59巻:200-202.
 - 36) 遠渡 舞, 樋口実穂, 米田和史, 知野剛直, 雄山瑞栄. ストレプトマイシンにより生じた接触蕁麻疹症候群の1例, *皮膚科の臨床* 2005年;47巻:81-84.
 - 37) 神谷秀喜, 岩田浩明, 北島康雄, 師井洋一. 乳房 Paget 病グループスタディ 2004年度報告, *日本皮膚外科学会誌* 2005年;9巻:16-19
 - 38) 加納宏行, 北島康雄. 十二指腸出血を伴ったアナフィラクトイド紫斑, *皮膚病診療* in press.
 - 39) 市来善郎. 痒みを伴う皮膚疾患, *岐阜県医師会雑誌* in press.
 - 40) 神谷秀喜, 北島康雄. Giant trichoblastoma の1例, *日本皮膚病理組織学会誌* in press.
 - 41) 浅川絵理, 神谷秀喜, 周 円, 江崎智香子, 市来善郎, 高木 肇, 北島康雄, 藤広満智子. 会陰部および両腋窩に病変を認めた Triple Paget 病の1例, *皮膚科の臨床* in press.
 - 42) 周 円, 和泉智子, 神谷秀喜, 北島康雄. Pleomorphic adenoma の1例, *日本皮膚外科学会誌* in press.
 - 43) 坂 義経, 清水英樹, 神谷秀喜, 市来善郎, 北島康雄. 組織学的に多数の balloon cell を認めた Superficial Spreading Melanoma(SSM)の1例, *皮膚科の臨床* in press.
 - 44) 坂 義経, 樋口実穂, 神谷秀喜, 市来善郎, 北島康雄. 右下腹から下腿にかけて広範転移を来した eccrine porocarcinoma の1例, *Skin Cancer* in press.
 - 45) 畑佐知里, 江崎智香子, 神谷秀喜, 市来善郎, 高木 肇, 北島康雄, 奥田美穂, 混同直実, 青山 勝, 山本哲也. レーザー治療を試みた色素血管母斑症(Ⅱb)の1例, *臨床皮膚科* in press.
 - 46) 杉野佳奈, 雄山瑞栄, 神谷秀喜, 市来善郎, 高木 肇, 北島康雄, 大野 康. 治療経過中に肺アスペルギルス症を合併した皮膚筋炎の1例, *皮膚科の臨床* in press.
 - 47) 岩田浩明, 神谷秀喜, 市来善郎, 北島康雄. 当科におけるマイボーム腺癌のまとめ, *西日本皮膚科* in press.

原著 (欧文)

- 1) Nguyen VT, Arredondo J, Chernyavsky AI, Kitajima Y, Grand SA. Keratinocyte acetylcholine receptors regulate cell adhesion. *Life Sci.* 2003;72:2081-2085. IF 2.158
- 2) Siegel DH, Ashton GHS, Penagos HG, Lee JV, Feiler HS, Wilhelmsen KC, South AP, Smith FJD, Prescott AR, Wessagowit V, Oyama N, Akiyama M, Aboud DA, Aboud KA, Githami AA, Hawsawi KA, Ismaily AA, Suwaid RA, Atherton DJ, Caputo R, Fine JD, Frieden IJ, Fuchs E, Haber RM, Harada T, Kitajima Y, Mallory SB, Ogawa H, Sahin S, Shimizu H, Suga Y, Tadini G, Tsuchiya K, Wiebe CB, Wojnarowska F, Zaghoul AB, Hamada T, Mallipeddi R, Eady RAJ, McLean WHI, McGrath JA, Epstein, Jr EH. Loss of kindling-1, a human homolog of *caenorhabditis elegans* actin-extracellular-matrix linker protein UNC-112, causes kindler syndrome. *Am J Hum Genet.* 2003;73:174-187. IF 12.340
- 3) Kamiya M, Ichiki Y, Kamiya H, Yamamoto A, Kitajima Y. Detection of nonmelanoma skin cancer micrometastases in lymph nodes by using reverse transcriptase-polymerase chain reaction for keratin 19 mRNA. *Br J Dermatol.* 2003;149:998-1005. IF 2.445
- 4) Gu LH, Kim SC, Ichiki Y, Park J, Nagai M, Kitajima Y. An unusual frameshift and delayed termination codon mutation keratin 5 cause a novel type of epidermolysis bullosa simplex with migratory circinate erythema. *J Invest Dermatol.* 2003;121:482-485. IF 4.238
- 5) Kamiya H, Araki M, Kitajima Y. Nodular fasciitis of the cheek. *Eur J Dermatol.* 2003;13:189-191. IF 0.908
- 6) Kamiya H, Kitajima Y. Successful use of preserved sclera in five cases of eyelid reconstruction and a detailed report of one representative case. *Eur J Dermatol.* 2003;13:267-271. IF 0.908
- 7) Ban M, Sugie S, Kamiya H, Kitajima Y. Microcystic adnexal carcinoma with lymph node metastasis. *Dermatology.* 2003;207:395-397. IF 1.619
- 8) Nguyen VT, Arredondo J, Chernyavsky AI, Kitajima Y, Pittelkow M, Grand SA. Pemphigus vulgaris IgG and methylprednisolone exhibit reciprocal effects on keratinocytes. *J Biol Chem.* 2004;279:2135-2146. IF 6.355
- 9) Nguyen VT, Chernyavsky AI, Arredondo J, Bercovich D, Orr-Urtreger A, Vetter DE, Wess J, Beaudet AL, Kitajima Y, Grand SA. Synergistic control of epithelial cell adhesion through muscarinic and nicotinic subtypes of cholinergic receptors. *Exp Cell Res.* 2004;294:534-549. IF 4.007
- 10) Nguyen VT, Arredondo J, Chernyavsky AI, Pittelkow MR, Kitajima Y, Grand SA. Pemphigus vulgaris acantholysis ameliorated by cholinergic agonists. *Arch Dermatol.* 2004;140:327-334. IF 3.187

- 11) Nagao-Watanabe M, Fukao T, Matsui E, Kaneko H, Inoue R, Kawamoto N, Kasahara K, Nagai M, Ichiki Y, Kitajima Y, Kondo N. Identification of somatic and germline mosaicism for a keratin 5 mutation epidermolysis bullosa simplex in a family of which the proband was previously regarded as sporadic case. *Clin Genet.* 2004;66:236-238. IF 2.367
- 12) Ban M, Ichiki Y, Kitajima Y. An outbreak of eruptive pseudoangiomatosis-like lesions due to mosquito bites: erythema punctatum Higuchi. *Dermatology.* 2004;208:356-359. IF 1.619
- 13) Izumi T, Ichiki Y, Esaki C, Kitajima Y. Monitoring of ELISA for anti-BP180 antibodies: Clinical and therapeutic analysis of steroid treated patients with bullous pemphigoid. *J Dermatol.* 2004;31:383-391. IF 0.660
- 14) Shu E, Matsuno H, Ishisaki A, Kitajima Y, Kozawa O. Lack of plasminogen activator inhibitor-1 enhances the preventive effect of DX-9065a, a selective factor Xa inhibitor, on venous thrombus and acute pulmonary embolism in mice. *Pathophysiol Haemost Thromb.* 2004;33:206-213. IF 0.799
- 15) Tanabe K, Hirade K, Ishisaki A, Shu E, Suga H, Kitajima Y, Katagiri Y, Dohi S, Kozawa O. Possible involvement of p44/p42 MAP kinase in retinoic acid-stimulated vascular endothelial growth factor release in aortic smooth muscle cells. *Atherosclerosis.* 2004;175:245-251. IF 3.796
- 16) Saeki H, Iizuka H, Mori Y, Akasaka T, Takagi H, Kitajima Y, et al. Prevalence of atopic dermatitis in Japanese elementary school children. *Br J Dermatol.* 2005;152:110-114. IF 2.445
- 17) Kawasaki M, Ito Y, Yokoyama H, Arai M, Takemura G, Hara A, Ichiki Y, Takatsu H, Minatoguchi S, Fujiwara H. Assessment of arterial medial characteristics in human carotid arteries using integrated backscatter ultrasound and its histological implications. *Arteriosclerosis.* 2005;180:145-154.
- 18) Shu E, Matsuno H, Akamatsu S, Kanno Y, Suga H, Nakajima K, Ishisaki A, Takai S, Kato K, Kitajima Y, Kozawa O. AlphaB-crystallin is phosphorylated during myocardial infarction: involvement of platelet-derived growth factor-BB. *Arch Biochem Biophys.* 2005;438:111-118. IF 2.657
- 19) Matsuno H, Tokuda H, Ishikawa A, Zhou Y, Kitajima Y, Kozawa O. P2Y12 receptors play a significant role in the development of platelet microaggregation in patients with diabetes. *J Clin Endocrinol Metab.* 2005;90:920-927. IF 5.778
- 20) Shu E, Yamamoto Y, Sato-Nagai M, Aoyama Y, Kitajima Y. Pemphigus vulgaris-IgG reduces the desmoglein 3/desmocollin 3 ratio on the cell surface in cultured keratinocytes as revealed by double-staining immunoelectron microscopy. *J Dermatol Sci.* 2005;40:209-211. IF 2.137

4. 研究費獲得状況

1) 競争的資金

- 1) 研究代表者：北島康雄，研究分担者：高木 肇，市来善郎，市橋直樹，江崎智香子，和泉智子；科学研究費補助金基盤研究(B)(2)：デスモソームの接着制御におけるその分子機能とシグナル伝達：天疱瘡抗体の干渉；平成 13-15 年度；14,600 千円(10,400：2,300：1,900 千円)
- 2) 研究代表者：北島康雄，研究分担者：橋本 隆，天谷雅行，岩月啓氏，清水 宏，橋本公二，金田安史，池田志孝，山本明美，本間 好，小澤 明，黒沢美智子，玉井克人，市来善郎；厚生労働省科学研究費補助金特定疾患対策研究事業：稀少難治性皮膚疾患に関する調査研究；平成 14-16 年度；109,000 千円(45,000：36,000：28,000 千円)
- 3) 研究代表者：斎田俊明，研究分担者：北島康雄；厚生労働省がん研究助成金：悪性黒色腫の治療；平成 15-17 年度；600 千円(200：200：200)
- 4) 研究代表者：市来善郎，研究分担者：高木 肇；科学研究費補助金基盤研究(C)(2)；先天性表皮水疱症をモデルとしたケラチン分子機能の変異遺伝子解析による研究；平成 15-16 年度；3,500 千円(3,000：500 千円)
- 5) 研究代表者：北島康雄，研究分担者：市来善郎；厚生労働省科学研究費補助金特定疾患対策研究事業：稀少難治性皮膚疾患に関する調査研究；平成 14-16 年度；4,350 千円(1,500：1,500：1,350 千円)
- 6) 研究代表者：江崎智香子；科学研究費補助金若手研究；落葉状天疱瘡をモデルとした表皮上層細胞接着構造蛋白のリン酸化と接着制御機構の解析；平成 14-15 年度；3,400 千円(2,700：700 千円)
- 7) 研究代表者：永井美貴；科学研究費補助金若手研究；類天疱瘡の水疱形成機序：病因抗体の BPAG2 への結合による他のヘミデスモソーム分子構築制御への影響；平成 15 年度；3,800 千円（15 年転勤のため辞退）
- 8) 研究代表者：北島康雄，研究分担者：高木 肇，市来善郎，市橋直樹，青山裕美；科学研究費補助金基盤研究(B)(2)：表皮細胞間接着・細胞骨格分子間結合制御と各種水疱症発症機序の分子生物学的研究；平成 16-18 年度；14,500 千円(10,100：2,300：2,100 千円)
- 9) 研究代表者：市来善郎；基礎医学研究費（資生堂寄附）；先天性表皮水疱症をモデルとしたケラチン分子病の分子生物学的解析；平成 16 年度；500 千円
- 10) 研究代表者：青山裕美；岐阜大学活性化経費(研究)；表皮細胞における活性型 Ras 結合蛋白 Nore1 関連シグナル伝達経路の解析-増殖分化機構に関連して-；平成 16 年度；1,200 千円

- 11) 研究代表者：江崎智香子；科学研究費補助金若手研究(B)；水疱症をモデルとした表皮細胞接着構造解離の極性と蛋白リン酸化の関与の解析；平成 16-17 年度；3,500 千円(3,000：50 千円)
- 12) 研究代表者：北島康雄，研究分担者：橋本 隆，天谷雅行，岩月啓氏，許 南浩，小宮根真弓，清水宏，橋本公二，金田安史，池田志孝，山本明美，黒沢美智子，小澤 明，島田真路，照井 正，新関寛徳，玉井克人，米田耕造，青山裕美；厚生労働省科学研究費補助金特定疾患対策研究事業：稀少難治性皮膚疾患に関する調査研究；平成 17 年度；39,000 千円
- 13) 研究代表者：市来善郎，研究分担者：高木 肇；科学研究費補助金基盤研究(C)(2)；遊走性環状紅斑随伴性先天性表皮水疱症をモデルとしたケラチン病の分子生物学的解析；平成 17-18 年度；3,600 千円(3,000：600 千円)
- 14) 研究代表者：青山裕美；科学研究費補助金基盤研究(C)；天疱瘡における病原性シグナル伝達経路の検討；平成 17-18 年度；3,700 千円(3,200：500 千円)
- 15) 研究代表者：北島康雄，研究分担者：青山裕美；厚生労働省科学研究費補助金特定疾患対策研究事業：稀少難治性皮膚疾患に関する調査研究；平成 17 年度；1,000 千円

2) 受託研究

なし

3) 共同研究

なし

5. 発明・特許出願状況

なし

6. 学会活動

1) 学会役員

北島康雄：

- 1) 日本皮膚科学会理事・学術委員(～平成 15 年 3 月)・副理事長(平成 16 年 4 月～現在)
- 2) 日本研究皮膚科学会監事(～平成 16 年 3 月)
- 3) 第 101,102,103 回日本皮膚科学会総会・学術大会プログラム委員(～平成 16 年)
- 4) 韓国研究皮膚科学会名誉会員(～現在)
- 5) 日本医真菌学会監事(学術委員奨励賞選考委員・将来計画委員)・評議員(～現在)
- 6) 日本乾癬学会理事(～現在)
- 7) 日本悪性腫瘍学会理事(～現在)
- 8) 日本結合織学会評議員(～現在)
- 9) 日本電顕皮膚生物学会運営委員(～現在)
- 10) 角化症研究会理事(平成 17 年 4 月～現在)
- 11) 水疱症研究会世話人幹事(～平成 17 年 3 月)・世話人代表(平成 17 年 10 月～現在)
- 12) International Investigative Dermatology : Intersociety Planning Member(～現在)

市来善郎：

- 1) 日本皮膚科学会東海地方会評議員(～現在)

神谷秀喜：

- 1) 日本皮膚外科学会理事・評議員(～現在)
- 2) 日本皮膚悪性腫瘍学会評議員(～現在)

2) 学会開催

- 1) 神谷秀喜：第 18 回日本皮膚外科学会総会学術集会(平成 15 年 8 月，岐阜)
- 2) 北島康雄：第 18 回日本乾癬学会学術大会(平成 15 年 9 月，高山)
- 3) 北島康雄：東海地区(愛知・岐阜・三重)合同皮膚科医会(平成 16 年 2 月，岐阜)

3) 学術雑誌

北島康雄：

- 1) Journal of Dermatology : Editor(2005～現在)
- 2) 日本皮膚科学会雑誌；編集委員(～現在)

7. 学会招待講演, 招待シンポジスト, 座長

北島康雄：

- 1) 第102回日本皮膚科学会総会(平成15年5月, 京都, シンポジウム1, 「難病の治療法と予後の改善」オーガナイザー：座長)
- 2) 日本皮膚科学会中国・四国地方会(平成15年7月, 岡山, 特別講演「難病対策について」演者)
- 3) 第379回日本皮膚科学会大阪地方会(平成15年9月, 和歌山, 教育講演「天疱瘡の水疱形成機所と治療法の実際：ステロイドと免疫抑制剤使用のタイミング」演者)
- 4) 第3回日豪合同皮膚科会議(平成15年9月, オーストラリア, シンポジウム「爪白癬治療戦略：治療変遷から得られたものは」演者)
- 5) 第55回日本皮膚科学会西部支部学会(平成15年10月, 松山, 教育講演「皮膚科白書」演者)
- 6) 第29回日本研究皮膚科学会(平成16年4月, 京都, イブニングセミナー [Mechanistic insights from new therapies for psoriasis], 座長)
- 7) 第48回日本医真菌学会(平成16年9月, 東京, シンポジウム4「*T. tonsurans* 感染症の現況と今後の対策」オーガナイザー：座長)
- 8) 第116回日本皮膚科学会広島地方会(平成17年2月, 広島, 特別講演「自己免疫性水疱症の発症機序と論理的治療法」演者)
- 9) 第4回高次統合感覚器医療研究会(平成17年3月, 山口, 特別講演「一般医にわかる論理的皮疹の見方」演者)
- 10) 第104回日本皮膚科学会総会(平成17年4月, 横浜, 教育講演：私の仮説「尋常性天疱瘡の棘融解は抗体結合後どのようにして起きるか・私はこう考える」演者)
- 11) 第104回日本皮膚科学会総会(平成17年4月, 横浜, イブニングセミナー「尋常性乾癬に対する低用量ネオオラル治療—アンケートによる患者満足度の解析を中心に—」演者)
- 12) ヤンセンファーマ Derma フォーラム 2005(平成17年5月, 東京, 分化会「日常役立つ皮膚病理」座長)
- 13) Pemphigus 2005(2004. 06, Bethesda, USA, symposium 「Cell signaling and desmosome assembly/disassembly linked to the generation of Dsg3-depleted desmosomes」Symposist)
- 14) 第32回日本電顕皮膚生物学会(平成17年9月, 札幌, 特別講演「電顕の多様な応用は分子細胞生物学を面白くする」演者)
- 15) 第20回日本乾癬学会(平成17年9月, 軽井沢, ランチョンセミナー「乾癬治療の展望—原因・悪化因子をめぐって」座長)
- 16) 第56回日本皮膚科学会中部支部学会(平成17年9月, 大阪, シンポジウム2「自己免疫性水疱症」オーガナイザー：座長)
- 17) 第56回日本皮膚科学会中部支部学会(平成17年9月, 大阪, モーニングセミナー「1.水虫はなぜ治らないのか—再発と再感染防止のためのいくつかの提案—2.足白癬治療において—皮膚科医は何をもとめられているのか—」オーガナイザー：座長)
- 18) 第25回日本アフェレシス学会(平成17年11月, 奈良, シンポジウム「血漿交換療法後の自己抗体価再上昇に対する大量γグロブリン投与の抑制効果」演者)

神谷秀喜：

- 1) 第18回日本皮膚外科学会総会学術集会(平成15年8月, 岐阜, 特別講演「皮膚科医にもできる美容外科」座長)
- 2) 第6回インターフェロン・メラノーマカンファレンス(平成16年10月, 小田原, 特別講演「インターフェロンαによる薬物障害—薬疹を中心に経験症例報告—」演者)

青山裕美：

- 1) 第56回日本皮膚科学会中部支部学会(平成17年9月, 大阪, シンポジウム「天疱瘡水疱形成機序における細胞内シグナル伝達の解明」演者)

江崎智香子：

- 1) 医学生物学研究所学術講演会(平成 15 年 3 月, 大阪, イブニングセミナー「天疱瘡と類天疱瘡の ELISA 法を指標にした治療の実際」 演者)

8. 学術賞等の受賞状況

なし

9. 社会活動

北島康雄：

- 1) 厚生労働省難病対策研究班・稀少難治性皮膚疾患に関する調査研究班班長(～現在)
- 2) JICA 第三国集団研修短期個別専門家派遣員[タイ国立皮膚研究所] (～現在)
- 3) 公益信託稲原記念医・歯学留学生援助基金運営委員会委員(～現在)
- 4) 岐阜県保健医療推進協議会委員及び医療計画部会委員(～現在)
- 5) 岐阜県医療アクセス専門委員(～現在)
- 6) 岐阜県情報システム専門委員(～現在)
- 7) 岐阜県医師会大学病院部会会長(～現在)
- 8) 岐阜県医療対策協議会委員(～現在)
- 9) 中部原子力懇談会役員(～現在)
- 10) 岐阜市民病院改築基本計画重点項目検討委員会委員(平成 17 年度)

市来善郎：

- 1) 岐阜県特定疾患等対策協議会委員(平成 15 年度・16 年度・17 年度)

10. 報告書

- 1) 北島康雄, 山本ゆかり : Dsg1-/Dsg3+ 尋常性天疱瘡抗体結合直後のデスモソーム構成分子の動態—デスモグレイン 3 欠損デスモソーム形成過程に関する新しい実験的成績 : 平成 14 年度厚生科学研究費補助金総括・分担報告書 (北島班) : 37-44 (2003 年 3 月)
- 2) 北島康雄, 江崎智香子 : 血漿交換療法後の治療法による抗体価上昇抑制効果の検討 : 平成 14 年度厚生科学研究費補助金 総括・分担報告書 (北島班) : 45-53 (2003 年 3 月)
- 3) 市来善郎, 戸崎裕子, 谷 麗紅, 永井美貴, 北島康雄, Kim SC, Park J : 遊走性環状紅斑を伴った単純型先天性表皮水疱症はケラチン 5 分子尾部延長に生ずる : 平成 14 年度厚生科学研究費補助金総括・分担報告書 (北島班) : 79-84(2003 年 3 月)
- 4) 北島康雄 : デスモソームの接着制御におけるその分子気の王とシグナル伝達・天疱瘡抗体の干渉 : 平成 13-15 年度文部科学省科研費基盤研究 B2, 研究成果報告書 : 1-91 (2004 年 3 月)
- 5) 北島康雄 : 稀少難治性皮膚疾患に関する調査研究班 : 平成 15 年度厚生科学研究費補助金 総括報告書 (北島班) : 3-13 (2004 年 3 月)
- 6) 北島康雄, 山本ゆかり, 天谷雅行, 角田和之 : 培養角化細胞(DJM-1)における尋常性天疱瘡病原性抗 Dsg3 モノクローナル抗体(AK23)による Dsg3 分子欠損デスモソームの形成 : 平成 15 年度厚生科学研究費補助金 総括・分担報告書 (北島班) : 28-37 (2004 年 3 月)
- 7) 北島康雄, 江崎智香子 : 天疱瘡・類天疱瘡寛解期における臨床症状と ELISA 法抗体価の推移による維持療法の検討 : 平成 15 年度厚生科学研究費補助金 総括・分担報告書 (北島班) : 38-45(2004 年 3 月)
- 8) 市来善郎, 戸崎裕子, 永井美貴, 北島康雄, Kim SC, Park J : 遊走性環状紅斑随伴性単純型先天性表皮水疱症の発症機序の分子医学的解析 : 平成 15 年度厚生科学研究費補助金 総括・分担報告書 (北島班) : 130-135 (2004 年 3 月)
- 9) 北島康雄 : 稀少難治性皮膚疾患に関する調査研究班 : 平成 16 年度厚生科学研究費補助金 総括報告書 (北島班) : 3-13 (2005 年 3 月)
- 10) 北島康雄, 山本ゆかり : 各種抗 Dsg3 モノクローナル抗体刺激による DJM-1 細胞における Dsg3 分子の減少率と病原性 : 平成 16 年度厚生科学研究費補助金 総括・分担報告書 (北島班) : 15-23 (2005 年 3 月)
- 11) 北島康雄, 江崎智香子 : 天疱瘡におけるステロイドパルス療法の ELISA 抗体価の推移解析による 2 週間隔 2 回反復施行の有効性の提示 : 平成 16 年度厚生科学研究費補助金 総括・分担報告書 (北島班) : 51-58 (2005 年 3 月)

- 12) 市来善郎, 戸崎裕子, 北島康雄: 遊走性環状紅斑随伴性単純型先天性表皮水疱症の発症機序の分子医学的解析(第2報):平成16年度厚生科学研究費補助金 総括・分担報告書(北島班):157-162(2005年3月)

11. 報道

- 1) 北島康雄: 下肢に赤斑点と水疱: 中日新聞(2003年1月5日)
- 2) 北島康雄: 乾癬: 朝日新聞(2003年11月24日)
- 3) 高木 肇: アトピーってどんな病気?: 岐阜新聞(2003年9月13日)
- 4) 高木 肇: じんましん, 食べ物に注意を: 岐阜新聞(2003年9月15日)
- 5) 高木 肇: 日焼け(6回): 朝日新聞(2003年6月6日-7月11日)
- 6) 高木 肇: 虫さされ(4回): 朝日新聞(2003年7月18日-8月29日)
- 7) 市来善郎: 手指こわばり硬くなる強皮症: 岐阜新聞(2003年9月12日)
- 8) 神谷秀喜: あざの治療: 岐阜新聞(2003年8月18日)
- 9) 市橋直樹: かぶれ調べるパッチテスト: 岐阜新聞(2003年)
- 10) 北島康雄: 日本初のトータルインテリジェントホスピタル誕生: Medical Network, 病院新時代、増刊号3(2004年9月)
- 11) 北島康雄: 最近の話題、角化について: Clinical Derma 6(No4)(2004年4月)
- 12) 北島康雄: 新生岐阜大学病院: プラザ155(2004年6月)
- 13) 北島康雄: 特別行政法人としての岐阜大学病院の進路: 岐阜県病院時報(2004年7月1日)
- 14) 北島康雄: 今年は肌を乾燥させない: ぎふさくら9(2004年9月)
- 15) 北島康雄: IT化と救急を柱にインパクトある病院を目指す: 病院新時代359(2004年11月)
- 16) 高木 肇, 北島康雄: 乾癬の薬物療法: Medical Academy News(2004年1月11日)
- 17) 北島康雄: 救命救急の砦として、複合型の新病院の展望: Jamie Journal 25(No3)(2005年3月)

12. 自己評価

評価

- 1) 研究の評価はまず科研費等研究費の獲得状況に反映されるので、過去3年間の科研費総額を見てみる。文部科学省科研費補助金は新規採用件数は7件(基盤B1件, 基盤C3件, 若手B3件), 継続も含め述べ件数では10件で, 3年間の延べ教室員は23名であるので, 採択率は新規では30.4%, 全体で43.5%であるので, 全国平均よりかなり高いところにある。金額も3年で2,870万円になる。
- 2) これに加えて厚生労働省科学研究費補助金は稀少難治性皮膚疾患の班長をしているため最初の3年間プロジェクト14~16年の10,900万円のうち15~16年度2年間で6,400万円, 2期目3年間のプロジェクト17~19年の最初の年度で3900万円を, 総額9,900万円を獲得している。その他にいくつかの競争的研究費をあわせて3件230万円を得ている。したがって, 3年間の競争的研究費獲得額は1億3000万円になる。これは, 我々の教室の研究費をこの分野で獲得できるレベルであったことを示している。
- 3) 論文発表総数について, 英文国際誌は一期前3年間(平成12~14年)の34報から今回の3年間では20報に減少した。日本語論文や症例報告は56から48報に減少しているので質の面は別にして量の面では減少しているので反省すべきであると考えている。
- 4) 厚生労働省特定疾患稀少難治性皮膚疾患に関する調査研究班・班長として2期目3年間の継続予算を交付される成績を上げたので一定の評価と考えている。
- 5) 天疱瘡に関する研究は教授がアメリカNIH主催国際シンポジウム天疱瘡2005(6月)において招請講演で報告し, 青山講師が中部日本皮膚科学会でシンポジウム講演をしている。
- 6) 神谷講師が第18回日本皮膚外科学会(平成15年8月)の会長を務め岐阜で学会を主催したことは評価される。
- 7) 北島教授が第18回日本乾癬学会(平成15年9月)を岐阜高山で主催したことは評価される。
- 8) 教育は学部学生については第3内科と共同で4週間あるので以前より教育内容のレベルが向上した。大学院生は4年までに学位が修得できる予定である。

現状の問題点及びその対応策

法人化後は臨床への時間配分と精神的配分が多くなり, 研究実行の環境は悪化した。これについては対策が必要である。現在は薬学博士, 理学修士の研究者を外資で採用している。

法人化後は3年目の医師で皮膚科未経験者が入局し, 指導的医師の数が減少した。後期研修を院外と協力して教育する必要がある。

今後の展望

岐阜大学医学部は大学院化され、研究業績を上げる必要があり、かつ、法人化後の病院では医療収益の増収とあわせて高度先進医療の開発と医学生、研修医、医員の教育をする必要がある。今後はこれらに特化した目的を設置する必要がある。17年度から大学院研究室主任（青山裕美講師）を配したが、今後この研究分野の充実がさらに必要である。一方、病棟稼働率など病棟のコントロール必要になるので病棟医長補佐が必要になると思われる。関連病院整理を行い皮膚科医 2 人以上の病院に移行させ、より皮膚科医の専門性を発揮できる環境整備が必要である。

(6) 泌尿器科学分野

1. 研究の概要

1) 尿路生殖器腫瘍の治療と予後に関する基礎的・臨床的研究

①抗癌剤感受性、抗癌剤耐性因子に関する研究

臨床材料を用いて、抗癌剤感受性試験成績と耐性遺伝子発現量との関連を研究している。

②尿路生殖器癌の予後予測因子に関する病理学的研究

癌組織における特定の遺伝子若しくは遺伝子産物の発現の予後予測因子としての可能性を研究し、個々の症例での治療方針決定への有用性を研究している。

2) 尿路感染症の基礎的・臨床的研究

①大規模調査による起因菌の臨床的研究

関連施設を含めて毎年複雑性尿路感染症の起因菌を収集し、また、臨床背景や臨床病状との関連を研究している。さらに4年毎に急性単純性膀胱炎の総合調査を継続中である。

②薬剤耐性菌の出現状況、耐性機序の解明

臨床例より得られた起因菌を用いて、突然変異などの遺伝子レベルでの薬剤耐性機序を研究している。また、抗菌剤の使用と遺伝子変異との関連も研究している。

3) 男子尿道炎の基礎的・臨床的研究

①分子生物学的手法を用いた起炎菌の検出法の開発

現在までに解明されていない非淋菌性尿道炎の起炎菌の同定と、その診断法の開発、特に核酸増幅を用いた手法を研究している。

②薬剤耐性菌淋菌の疫学研究

関連施設を含めて年次的に臨床分離株を収集し、それらの抗菌剤感受性を測定し、年次的な変移を研究している。

③薬剤耐性菌淋菌の薬剤耐性機序の解明

薬剤耐性菌淋菌の中で経口セフェム剤耐性淋菌に着目し、その耐性機序を遺伝子レベルで研究している。

4) 腎移植における臨床的研究

①免疫抑制剤の適正化

拒絶反応を防ぎ、日和見感染症を引き起こさない適正な免疫抑制剤の投与方法に関する臨床的研究を行っている。

②移植腎の病理学的研究

移植腎に対して定期的な生検を施行して、移植腎機能に及ぼす潜在的な拒絶反応あるいはウイルス感染を病理像から研究している。

5) 鏡視下手術手技の開発研究

副腎、腎などの摘出を腹腔鏡下あるいは後腹膜鏡下に施行することが、標準的な手術手技となりつつあり、本手技を安全かつ確実に行うための手技および器具、器材の開発研究を行っている。

2. 名簿

教授：	出口 隆	Takashi Deguchi
助教授：	高橋義人	Yoshito Takahashi
講師：	江原英俊	Hidetoshi Ehara
講師：	伊藤慎一	Shin-ichi Ito
臨床講師：	仲野正博	Masahiro Nakano
臨床講師：	横井繁明	Shigeaki Yokoi
臨床講師：	安田 満	Mitsuru Yasuda
臨床講師：	萩原徳康	Noriyasu Hagiwara
医員：	山本直樹	Naoki Yamamoto
医員：	後藤高弘	Takahiro Goto
医員：	亀井信吾	Shingo Kamei
医員：	土屋朋大	Tomohiro Tsuchiya
医員：	久保田恵章	Yasuaki Kubota

3. 研究成果の発表

著書 (和文)

- 1) 出口 隆. 前立腺炎症候群: 山口 徹, 北原光夫総編集. TODAY'S THERAPY 2003 今日の治療指針, 東京: 医学書院; 2003年: 764-765.
- 2) 安田 満, 出口 隆. 膿尿: 溝口秀昭, 矢崎義雄, 狩野庄吾, 武藤徹一郎監修, 高久史麿総監修. 外来診療のすべて改訂第3版, 東京: メジカルビュー社; 2003年: 124-125.
- 3) 高橋義人. 尿路ストーマ造設が必要な疾患と造設方法, 合併症: 第15回東海ストーマリハビリテーション講習会 講義テキスト, 名古屋: 東海ストーマリハビリテーション講習会事務局; 2003年: 35-40.
- 4) 出口 隆. 膀胱炎: 山口 徹, 北原光夫総編集. TODAY'S THERAPY 2004 今日の治療指針, 東京: 医学書院; 2004年: 773-774.
- 5) 出口 隆, 安田 満, 前田真一. マイコプラズマ: 熊澤浄一, 田中正利編. 性感染症 STD, 東京: 南山堂; 2004年: 160-168.
- 6) 高橋義人. 尿路ストーマ造設が必要な疾患と造設方法, 合併症: 第16回東海ストーマリハビリテーション講習会 講義テキスト, 名古屋: 東海ストーマリハビリテーション講習会事務局; 2004年: 37-35.
- 7) 出口 隆. 性感染症 (尿道炎): 山口 徹, 北原光夫総編集. TODAY'S THERAPY 2005 今日の治療指針, 東京: 医学書院; 2005年: 795-796.
- 8) 出口 隆. 膀胱炎: 飯野靖彦, 榎野博史編. 腎疾患・透析最新の治療 2005-2007, 東京: 南江堂; 2005年: 196-198.
- 9) 出口 隆. 泌尿生殖器感染症: 土肥義胤, 山本容正, 宇賀昭二編. スタンダード 微生物学, 東京: 文光堂; 2005年: 173-183.
- 10) 松本哲朗, 出口 隆. 「尿路性器感染症」 性感染症 (STD) ガイドラインについて 非淋菌性尿道炎 (non-gonococcal urethritis, NGU): 日本泌尿器科学会 2005年 卒後・生涯教育テキスト 第10巻1号, 東京: 財団法人 日本泌尿器科学会; 2005年: 233-239.
- 11) 大楠清文, 萩原徳康, 河村好章, 安田 満, Pham Hong Nhung, 大塚喜人, 江崎孝行, 出口 隆. 泌尿器科系感染症 *Neisseria meningitidis* (髄膜炎菌) Serogroup Yによる男子尿道炎の一例: 品川長夫監修, 竹山廣光編集. 症例から学ぶ感染症診療のポイント, 東京: 医薬ジャーナル社; 2005年: 137-142.
- 12) 高橋義人. 尿路ストーマ造設が必要な疾患と造設方法, 合併症: 第17回東海ストーマリハビリテーション講習会 講義テキスト, 名古屋: 東海ストーマリハビリテーション講習会事務局; 2005年: 38-46.
- 13) 石原 哲. オキサゾリジノン系抗菌薬 抗菌薬の臨床ハンドブック, 東京: ヴァンメディカル; in press.

著書 (欧文)

なし

総説 (和文)

- 1) 出口 隆. 前立腺炎の診断と治療 一集中講座 前立腺疾患の診療一, 日本医師会雑誌 2003年; 130: 251-255.
- 2) 出口 隆, 伊藤慎一, 石原 哲, 河田幸道. 尿路結核 一腎尿路感染症のすべて 最近の動向一, 腎と透析 2003年; 55: 157-160.
- 3) 石原 哲, 出口 隆. 軟性下疳 一多様化する性感染症一, 臨牀と研究 2003年; 80: 847-850.
- 4) 石原 哲, 出口 隆. 成人の膀胱炎・腎盂腎炎・尿道炎 一経口抗菌剤を選ぶ視点, 使うコツ 市中耐性菌感染の時代に 経口抗菌薬の選び方・使い方一, 感染と抗菌薬 2003年; 6: 374-378.
- 5) 石原 哲. 泌尿器科感染症の動向 一セミナー 消毒と感染予防一, 臨床泌尿器科 2003年; 57: 715-719.
- 6) 高橋義人, 横井繁明, 出口 隆. 腹腔鏡下副腎摘除術 手術手技 泌尿器科腹腔鏡下手術, 臨床泌尿器科 2003年; 57: 893-904.
- 7) 安田 満, 出口 隆. 尿路感染症の薬物治療 細菌感染症のトピックス, MEDICAMENT NEWS 2003年; 1764: 1-3.
- 8) 西野好則, 出口 隆. 前立腺肥大症の薬物治療 特集 前立腺をめぐって 前立腺肥大症と前立腺癌, Pharma Medica 2003年; 21: 23-27.
- 9) 石原 哲, 出口 隆. 細菌性前立腺炎の薬効評価基準 前立腺疾患のすべて, 臨床泌尿器科 2003年; 57巻増刊号: 281-284.
- 10) 石原 哲, 出口 隆. 尿路性敗血症, 日本化学療法学会雑誌 2003年; 51: 435-438.
- 11) 石原 哲. Compromised host における尿路感染症, APPROCHER 2004年; 4: 6-7.
- 12) 石原 哲, 出口 隆. 重症感染症, 臨床泌尿器科 2004年; 58: 23-26.
- 13) 石原 哲, 江原英俊, 出口 隆. 前立腺生検の最前線 再生検の適応・方法, 臨床泌尿器科 2004年; 58: 513-517.
- 14) 出口 隆. 一週一話 薬剤耐性淋菌の現状, 日本医事新報 2005年; 4228: 89.
- 15) 出口 隆. トリコモナス感染症が疑われる男性患者です。対処と処方について教えてください。特集 ここが聞きたい泌尿器科外来における対処と処方, 臨床泌尿器科 2005年; 59巻増刊号: 110-111.
- 16) 出口 隆. 頑固な前立腺痛の自覚症状を訴える患者です。対処と処方について教えてください。特集 ここが聞きたい泌尿器科外来における対処と処方, 臨床泌尿器科 2005年; 59巻増刊号: 112-114.
- 17) 石原 哲. 特集 泌尿器科感染症対策 尿路感染症治療における将来展望, Urology View 2005年; 3:

88-92.

- 18) 石原 哲. 特集: 注目される抗菌薬の使い分け 注射薬 (カルバペネム系抗菌薬) 泌尿器科, 臨床と微生物 2005年; 32: 697-702.
- 19) 石原 哲. セミナー 泌尿器科領域における重症・難治性感染症とその対策 尿路カテーテル非留置複雑性尿路感染症, 臨床泌尿器科 2005年; 59: 1019-1023.
- 20) 高橋義人, 横井繁明, 安田 満, 出口 隆. 尿膜管臍瘻に対する腹腔鏡下手術, 手術 2005年; 59: 1591-1597.
- 21) 高橋義人, 横井繁明. 後腹腔鏡下腎尿管手術を安全に行うために, 臨床泌尿器科 2005年; 59: 643-648.
- 22) 横井繁明, 出口 隆. 尿路結石, 泌尿器ケア 2005年; 2005年夏期増刊: 127-132.
- 23) 出口 隆, 前田 真一. 性感染症 非淋菌性尿道炎の治療, Urology View 2005年; 3: 47-50.

総説 (欧文)

- 1) Ishihara S, Yasuda M, Ito S, Maeda S, Deguchi T. *Mycoplasma genitalium* urethritis in men. Int J Antimicrob Agent. 2004;24(Suppl. 1):23-27.
- 2) Deguchi T. Diagnosis and treatment of prostatitis. Jpn Med Association J. 2004;47:561-565.

原著 (和文)

- 1) 石原 哲, 出口 隆, 篠田育男, 根笹信一, 米田尚生, 林 秀治, 藤広 茂, 萩原徳康, 岡野 学, 鄭 漢彬, 原田吉将, 南館 謙. 急性単純性膀胱炎に対する cefdinir の有効性および安全性, 日本化学療法学会雑誌 2003年; 51: 750-757.
- 2) 高橋義人, 小倉孝子, 高田俊彦, 山田 徹, 増栄成泰, 横井繁明, 仲野正博, 伊藤慎一, 西野好則, 江原英俊, 石原 哲, 出口 隆, 浪上知守枝, 安藤真由実, 松野泰子. 自己管理しやすい経皮的腎萎造設術の工夫, 東海ストーマ研究会誌 2003年; 23: 61-65.
- 3) 仲野正博, 横井繁明, 高橋義人, 石原 哲, 出口 隆, 前田真一, 宇野裕巳, 竹内敏視. 腎盂尿管腫瘍に対する腹腔鏡補助下腎尿管全摘除術の検討, Japanese Journal of Endourology and ESWL 2003年; 16: 228-232.
- 4) 山田 徹, 小倉孝子, 増栄成泰, 西野好則, 高橋義人, 石原 哲, 出口 隆. 尿閉を合併したマイコプラズマ性横断性脊髄炎の1例, 泌尿器科紀要 2003年; 49: 393-396.
- 5) 石田健一郎, 久保田恵章, 高田俊彦, 山田 徹, 仲野正博, 高橋義人, 石原 哲, 出口 隆. 嚢胞形成を伴った前立腺癌の1例, 泌尿器科紀要 2003年; 49: 235-237.
- 6) 棚橋弘成, 宗 友厚, 森田浩之, 高橋義人, 伊藤 勇, 伊佐治真子, 磯村幸範, 棚橋哲也, 諏訪哲也, 大洞尚司, 出口 隆, 安田圭吾. 正常副腎・アルドステロン自律産生副腎腺腫における CYP11B2 多型と CYP11B2 発現レベルの関連, 岐阜大学医学部紀要 2003年; 51: 38-43.
- 7) 浪上知守枝, 安藤真由実, 松野泰子, 小倉孝子, 高橋義人, 出口 隆. 腎萎造設患者の装具変更に伴うセルフケアの援助, 東海ストーマ会誌 2003年; 23: 66-68.
- 8) 前田真一, 久保田恵章, 玉木正義, 安田 満, 出口 隆. 男子淋菌性尿道炎に対するセフィキシム 400mg, 分2, 3日間投与の細菌学的効果の検討, 日本性感染症学会誌 2003年; 14: 121-124.
- 9) 久保田恵章, 玉木正義, 前田真一, 田代和弘, 出口 隆. 膀胱原発印環細胞癌の1例, 泌尿器科紀要 2003年; 49: 479-481.
- 10) 久保田恵章, 玉木正義, 前田真一, 井上明子, 勝股克成, 森脇崇之, 出口 隆. 膀胱子宮内膜症の1例, トヨタ医報 2003年; 13: 39-42.
- 11) 安田 満, 出口 隆. *Mycoplasma genitalium* と尿道炎, 日本マイコプラズマ学会誌 2003年; 30: 52-55.
- 12) 萩原徳康, 藤広 茂, 出口 隆. 経尿道的処置により管理しえた腎乳頭壊死の1例, 泌尿器科紀要 2003年; 49: 329-331.
- 13) 石田健一郎, 柚原一哉, 蟹本雄右, 伊藤慎一, 出口 隆. 体外血管再建・自家腎移植を施行した腎動脈瘤の1例, 泌尿器科紀要 2004年; 50: 413-416.
- 14) 前田真一, 久保田恵章, 玉木正義, 安田 満, 出口 隆, 吉田隆史, 石古博昭. 非淋菌性尿道炎難治例におけるマイコプラズマの関与, 日本性感染症学会誌 2004年; 15: 139-143.
- 15) 玉木正義, 久保田恵章, 前田真一, 西野好則, 出口 隆. トヨタ記念病院における腹圧性尿失禁手術に対する検討, トヨタ医報 2004年; 14: 9-13.
- 16) 横井繁明, 仲野正博, 高橋義人, 出口 隆, 玉木正義, 前田真一, 柚原一哉, 蟹本雄右, 宇野裕巳, 三輪好生, 竹内敏視. 鏡視下根治的腎摘除術における到達法の検討, Japanese Journal of Endourology and ESWL 2004年; 17: 162-167.
- 17) 濱本幸浩, 小島圭太郎, 土屋朋大, 養島謙一, 山羽正宣, 小林 弘, 平原一郎, 出口 隆. 感染性腹膜炎時における白血球とその他の因子の検討, 腎と透析 2004年; 57別冊: 307-311.
- 18) 加藤成一, 安田 満, 仲野正博, 江原英俊, 石原 哲, 出口 隆, 坂田佳子, 森 秀樹, 下川邦泰. 血清 CA19 と CAE が異常高値を示した尿管癌の1例, 泌尿器科紀要 2004年; 50: 99-102.
- 19) 宇野裕巳, 出口 隆. 岐阜県における前立腺がん検診: 実績と今後の展望, 日本がん検診・診断学会誌 2004年; 11: 86-89.
- 20) 松田清治, 佐藤郁夫, 山田哲夫, 菅生元康, 野口昌良, 岡本俊充, 野口靖之, 保條説彦, 保田仁介, 塚本泰司, 高橋 聡, 清水俊明, 小六幹夫, 石井延久, 原 啓, 高波真佐治, 鈴木久里, 出口 隆, 石原 哲, 藤本佳則, 公文裕巳, 津川昌也, 門田晃一, 近藤捷嘉, 赤澤信幸, 内藤誠二, 田中正利, 中山 宏.

Transcription-Mediated Amplification 法を用いた RNA 増幅による *Chlamydia trachomatis* および *Neisseria gonorrhoeae* の同時検出-産婦人科および泌尿器科における臨床評価-, 日本性感染症学会誌 2004 年; 15: 116-126.

- 21) 広瀬崇興, 山口 脩, 石橋 啓, 茂田士郎, 錫谷達夫, 吉田 浩, 今福裕司, 村井 勝, 渡辺清明, 小林芳夫, 内田 博, 村田静治, 佐藤新一, 藤田 真, 藤田和彦, 猪狩 淳, 小栗豊子, 山口恵三, 古谷信彦, 出口 隆, 石原 哲, 大江 宏, 西川美年子, 岡 聖次, 北村雅哉, 福原吉典, 守殿貞夫, 荒川創一, 公文裕巳, 門田晃一, 村谷哲朗, 高橋康一, 内藤誠二, 江頭稔久, 河野 茂, 宮崎義継, 平 洋一, 青木志保. 尿路感染症分離菌に対する経口ならびに注射用抗菌薬の抗菌力比較(第 24 報 2002 年) その 1. 感受性について, *Jpn J Antibiot* 2004 年; 57: 246-274.
- 22) 広瀬崇興, 山口 脩, 石橋 啓, 茂田士郎, 錫谷達夫, 吉田 浩, 今福裕司, 村井 勝, 渡辺清明, 小林芳夫, 内田 博, 村田静治, 佐藤新一, 藤田 真, 藤田和彦, 猪狩 淳, 小栗豊子, 山口恵三, 古谷信彦, 出口 隆, 石原 哲, 大江 宏, 西川美年子, 岡 聖次, 北村雅哉, 福原吉典, 守殿貞夫, 荒川創一, 公文裕巳, 門田晃一, 村谷哲朗, 高橋康一, 内藤誠二, 江頭稔久, 河野 茂, 宮崎義継, 平 洋一, 青木志保. 尿路感染症分離菌に対する経口ならびに注射用抗菌薬の抗菌力比較(第 24 報 2002 年) その 3. 感受性の推移, *Jpn J Antibiot* 2004 年; 57: 311-403.
- 23) 前田真一, 久保田恵章, 玉木正義, 安田 満, 出口 隆, 吉田隆史, 石古博昭. 非淋菌性尿道炎難治例におけるマイコプラズマの関与, 日本性感染症学会誌 2004 年; 15: 139-143.
- 24) 横井繁明, 仲野正博, 高橋義人, 出口 隆, 玉木正義, 前田真一, 柚原一哉, 蟹本雄右, 宇野裕巳, 三輪好生, 竹内敏視. 鏡視下根治的腎的除術における到達法の検討, *Japanese Journal of Endourology and ESWL* 2004 年; 17: 162-167.
- 25) 宇野雅博, 高田俊彦, 米田尚生, 藤本佳則, 亀井信吾, 出口 隆. 前立腺癌 326 例の治療成績, 泌尿器外科 2004 年; 17: 1215-1219.
- 26) 水谷晃輔, 清家健作, 菅原 崇, 増栄孝子, 横井繁明, 江原英俊, 高橋義人, 石原 哲, 出口 隆. 多臓器転移に対して多剤併用化学療法を行った陰茎癌の 1 例, 泌尿器科紀要 2004 年; 50: 223-226.
- 27) 石田健一郎, 柚原一哉, 蟹本雄右, 伊藤慎一, 出口 隆. 体外血管再建・自家腎移植を施行した腎動脈瘤の 1 例, 泌尿器科紀要 2004 年; 50: 413-416.
- 28) 宇野雅博, 米田尚生, 高田俊彦, 藤本佳則, 亀井信吾, 伊藤慎一, 出口 隆. FDG-PET による化学療法後残存腫瘍の評価を行ったセミノーマの 2 例, 西日本泌尿器科 2004 年; 66: 711-714.
- 29) 山本新吾, 金丸聰淳, 小川 修, 石川清仁, 星長清隆, 岩村正嗣, 齊藤威文, 馬場志郎, 松川雅則, 竹山康, 塚本泰司, 清田 浩, 小野寺昭一, 颯川 晋, 門田晃一, 公文裕巳, 江頭稔久, 内藤誠二, 田中一志, 荒川創一, 守殿貞夫, 安田 満, 石原 哲, 出口 隆, 山田陽司, 村谷哲郎, 松本哲朗. 泌尿器科周術期における抗菌薬の使用方法についてのアンケート報告, 泌尿器科紀要 2004 年; 50: 779-786.
- 30) 久保田恵章, 玉木正義, 前田真一, 勝股克成, 森脇崇之, 田代和弘, 出口 隆. トヨタ記念病院における男子不妊症に対する TESE(testicular sperm extraction)の臨床成績, 泌尿器科紀要 2005 年; 51: 9-11.
- 31) 加藤成一, 伊藤康久, 西野好則, 坂 義人, 出口 隆. 代用膀胱造設術後, 9 年目に尿道再発と遠隔転移がみられた女性膀胱癌の 1 例, 泌尿器科紀要 2005 年; 51: 195-197.
- 32) 石田健一郎, 柚原一哉, 蟹本雄右, 石原 哲, 出口 隆. 院内感染が示唆された泌尿器科病棟における *Clostridium difficile* 下痢症の検討, 泌尿器科紀要 2005 年; 51: 305-308.
- 33) 久保田恵章, 野村由理, 玉木正義, 前田真一, 西脇 忠, 田代和弘, 出口 隆. S 状結腸憩室炎による膀胱炎症性偽腫瘍の 1 例, 泌尿器科紀要 2005 年; 51: 318-319.
- 34) 久保田恵章, 野村由理, 玉木正義, 前田真一, 勝股克成, 森脇崇之, 出口 隆. ステロイド療法が奏効した特発性後腹膜線維症の 4 例, 泌尿器科紀要 2005 年; 51: 455-458.
- 35) 宇野裕巳, 高橋義人, 出口 隆. 岐阜県における前立腺癌検診-検診マニュアルによるスクリーニングシステムの統一化, 泌尿器外科 2005 年; 18: 1014-1016.
- 36) 横井繁明, 高橋義人, 出口 隆. 一期的腹腔鏡下両側副腎摘除術 3 例の経験, *Japanese Society of Endourology and ESWL* 2005 年; 18: 226-230.
- 37) 加藤成一, 伊藤康久, 西野好則, 坂 義人, 出口 隆. 全身性エリテマトーデス (SLE) に合併した脊髄障害による膀胱機能障害に対して膀胱拡大術を施行した 1 例, 泌尿器科紀要 2005 年; 51: 677-680.
- 38) 澤村治樹, 河村好章, 安田 満, 大楠清文, 高橋義人, 石原 哲, 出口 隆, 江崎孝行. 腎盂腎炎患者の尿より分離された *Leclercia adecarboxylata*, 日本感染症学雑誌 2005 年; 79: 831-835.
- 39) 中根 慶太, 加藤 卓, 横井繁明, 江原英俊, 高橋義人, 石原 哲, 出口 隆. 膀胱全摘除, 尿道切除術後 17 ヶ月目に尿道舟状窩に再発した膀胱癌の 1 例, 泌尿器科紀要 2005 年; 51: 631-633.
- 40) 宇野裕巳, 高橋義人, 出口 隆. 岐阜県前立腺検診における extended biopsy の検討, 日本がん検診・診断学会誌 2005 年; 12: 154-157.
- 41) 仲野 正博, 松寄 理登, 森川 弘史, 成田 伸太郎, 渡辺 淳一, 村田 浩克, 小田 裕之, 小松 秀樹. 硬膜外麻酔併用腰椎麻酔下前立腺全摘除術の経験, 日本泌尿器科学会雑誌 2005 年; 96: 11-16.
- 42) 萩原徳康. 女子急性単純性膀胱炎由来大腸菌の耐性株出現について, *ACCESS* 2005 年; 20: 25.
- 43) 亀井信吾. 学校検尿で発見された症例について - シスチン結石の 1 例 -, 学校腎臓検診のまとめ 2005 年, 岐阜県医師会誌 2005 年; 73.
- 44) 濱本幸浩, 小島圭太郎, 土屋朋大, 養島謙一, 山羽正義, 堀江正宣, 後藤高広, 出口 隆, 平原一郎. 被嚢性腹膜硬化症患者における MMP-2、MMP-9、コラーゲン関係因子の臨床検討, 腎と透析 腹膜透析の進歩 2005 年; 58: 112-117.
- 45) 水谷晃輔, 横井繁明, 高橋義人, 出口 隆. A case of bilateral retroperitoneoscopic ureterocutaneouscopy,

Video journal of JUA 2005年 ; 11.

- 46) 山田 徹, 近藤浩史, 伊藤慎一, 山本直樹, 江原英俊, 南館 謙, 石原 哲, 加古伸雄, 下野伸子, 小倉真治, 出口 隆. Vascular Access Intervention Therapy の早期施行は, シャントの急性閉塞と再建術を減少させるか?, 日本透析学会雑誌 in press.

原著 (欧文)

- 1) Deguchi T, Yasuda M, Yokoi S, Ishida K, Ito M, Ishihara S, Minamidate K, Harada Y, Tei K, Kojima K, Tamaki M, Maeda S. Treatment of uncomplicated gonococcal urethritis by double-dosing of 200mg cefixime at a 6h interval. *J Infect Chemother.* 2003;9:35-39.
- 2) Ehara H, Yokoi S, Tamaki M, Nishino Y, Takahashi Y, Kimura M, Yoshioka T, Okano Y. Expression of mitotic Aurora/lpl1p-related kinases in renal cell carcinomas: an immunohistochemical study. *Urol Res.* 2003;31:382-386. IF 1.113
- 3) Nakano M, Takada T, Takahashi Y, Ishihara S, Kondo H, Deguchi T. Spontaneous ruptured adrenal artery aneurysm. *J Urology.* 2003;169:614. IF 3.713
- 4) Mune T, Morita H, Suzuki T, Takahashi Y, Isomura Y, Tanahashi T, Daido H, Yamakita N, Deguchi T, Sasano H, P.C. White, Yasuda K. Role of local 11beta-hydroxysteroid dehydrogenase type 2 expression in determining the phenotype of adrenal adenomas. *J Clin Endocr Metab.* 2003;88:864-870. IF 5.778
- 5) Iwata H, Mori Y, Takagi H, Shirahashi K, Fukumoto Y, Umeda Y, Mizuno Y, Yoshikawa S, Hirose H, Ito S, Takahashi Y, Deguchi T, Iwaki Y. A clinical renal-transplant case from a non-heart-beating donor using percutaneous cardiopulmonary support. *Transplantation.* 2003;76:1772-1773. IF 3.568
- 6) Nakano M, Miwa K, Kanimoto Y, Ishihara S, Deguchi T. Microscopic pulmonary tumor embolism secondary to adenocarcinoma of the prostate. *Acta Urol Japonica.* 2003;49:169-172.
- 7) Yoshida T, Maeda S, Deguchi T, Miyazawa T, Ishiko H. Rapid detection of *Mycoplasma genitalium*, *Mycoplasma hominis*, *Ureaplasma parvum*, and *Ureaplasma urealyticum* organisms in genitourinary samples by PCR-microtiter plate hybridization assay. *J Clin Microbiol.* 2003;41:1850-1855. IF 3.439
- 8) Ito M, Yasuda M, Yokoi S, Ito S, Ishihara S, Maeda S, Deguchi T. Remarkable increase in central Japan in 2001-2002 of *Neisseria gonorrhoeae* isolated with decreased susceptibility to penicillin, tetracycline oral cephalosporins, and fluoroquinolones. *Antimicrob Agent Chemother.* 2004;48:3185-3187. IF 4.216
- 9) Deguchi T, Yoshida T, Miyazawa T, Yasuda M, Tamaki M, Ishiko H, Maeda S. Association of *Ureaplasma urealyticum* (Biovar 2) with nongonococcal urethritis. *Sex Transm Dis.* 2004;31:192-195. IF 2.081
- 10) Maeda S, Deguchi T, Ishiko H, Matsumoto T, Naito S, Kumon H, Tsukamoto T, Onodera S, Kamidono S. Detection of *Mycoplasma genitalium*, *Mycoplasma hominis*, *Ureaplasma parvum* (biovar 1) and *Ureaplasma urealyticum* (biovar 2) in patients with non-gonococcal urethritis using polymerase chain reaction-microtiter plate hybridization. *Int J Urol.* 2004;11:750-754. IF 0.670
- 11) Yokoi S, Yasuda M, Ito S, Takahashi Y, Ishihara S, Deguchi T, Maeda S, Kubota Y, Tamaki M, Fukushi H. Uncommon occurrence of fluoroquinolone resistance-associated alterations in GyrA and ParC in clinical strains of *Chlamydia trachomatis*. *J Infect Chemother.* 2004;10:262-267.
- 12) Uno M, Fujimoto Y, Takada T, Ishida K, Kubota Y, Katoh S, Hagiwara N, Minamidate Y, Yokoi S, Deguchi T. Prognostic factors for survival of patients after curative surgery for renal cell carcinoma: multivariate analysis of 482 cases. *Int J Clin Oncol.* 2004;9:510-514.
- 13) Ishihara S, Yasuda M, Ito S, Maeda S, Deguchi T. *Mycoplasma genitalium* urethritis in men. *Int J Antimicrob Agent.* 2004;24S:S23-S27. IF 2.064
- 14) Ito M, Deguchi T, Mizutani K, Yasuda M, Yokio S, Ito S, Takahashi Y, Ishihara S, Kawamura Y, Ezaki T. Emergence and spread of *Neisseria gonorrhoeae* clinical isolates harboring mosaic-like structure of penicillin-binding protein 2 in central Japan. *Antimicrob Agent Chemother.* 2005;49:137-143. IF 4.216
- 15) Taniguchi M, Kamei S, Takeuchi T, Sakai S, Deguchi T. Successful management of lower pole moiety ureteropelvic junction obstruction in a partially duplicated collecting system using retrograde endoureteropyelotomy with the Holmium:YAG laser. *Int J Urol.* 2005;12:313-315. IF 0.670
- 16) Yoshida T, Ishiko H, Yasuda M, Takahashi Y, Nomura Y, Kubota Y, Tamaki M, Maeda S, Deguchi T. Polymerase chain reaction-based subtyping of *Ureaplasma parvum* and *Ureaplasma urealyticum* in first-pass urine samples from men with or without urethritis. *Sex Transm Dis.* 2005;32:454-457. IF 2.081
- 17) Takei M, Yamaguchi Y, Fukuda H, Yasuda M, Deguchi T. Cultivation of *Neisseria gonorrhoeae* in liquid media and determination of its in vitro susceptibilities to quinolones. *J Clin Microbiol.* 2005;43:4321-4327. IF 3.429
- 18) Yasuda M, Maeda S, Deguchi T. In vitro activity of fluoroquinolones against *Mycoplasma genitalium* and their bacteriological efficacy for treatment of *M. genitalium*-positive nongonococcal urethritis in men. *Clin Infect Dis.* 2005;41:1357-1359. IF 5.594
- 19) Tanahashi H, Mune T, Takahashi Y, Isaji M, Suwa T, Morita H, Yamakita N, Yasuda K, Deguchi T, White PC, Takeda J. Association of Lys173Arg polymorphism with CYP11B2 expression in normal adrenal glands and aldosterone-producing adenomas. *J Clin Endocrinol Metab.* 2005;90:6226-6231. IF 5.778
- 20) Masue N, Deguchi T, Nakano M, Ehara H, Uno H, Takahashi Y. Retrospective study of 101 cases with incidental prostate cancer stages T1a and T1b. *Int J Urol.* 2005;12:1045-1049. IF 0.670

- 21) Masue N, Katoh S, Itoh S, Ehara H, Takahashi Y, Ishihara S, Deguchi T. Renal transcatheter arterial embolization for autosomal dominant polycystic kidney disease: Report of Two Cases. *Acta Urol Jpn.* 2005;51:741-745.
- 22) Shigemura K, Tanaka K, Yasuda M, Ishihara S, Muratani T, Deguchi T, Matsumoto T, Kamidono S, Nakano Y, Arakawa S, Fujisawa M. Efficacy of 1-day prophylaxis medication with fluoroquinolone for prostate biopsy. *World J Urol.* 2005;23:356-360. IF 2.186
- 23) Kondo H, Yamada T, Kanematsu M, Kako N, Goshima S, Yamamoto N. Embolization for Massive Urethral Hemorrhage. *Abdom Imaging.* in press. IF 0.884
- 24) Yamamoto N, Takeuchi T, Hayashi H, Gotoh T, Miwa K, Sakai S. Endourological re-establishment of a disrupted infundibulum after renal laceration. *Urol Int.* in press. IF 0.564

4. 研究費獲得状況

1) 競争的資金

- 1) 研究代表者：江原英俊，研究分担者：出口 隆，高橋義人；科学研究費補助金基盤研究(C)(2)：DNAマイクロアレイを用いた前立腺癌のホルモン療法無効予測遺伝子マーカーの同定；平成 14-15 年度；3,800 千円(2,100：1,700 千円)
- 2) 研究代表者：出口 隆，研究分担者：石原 哲，安田 満；科学研究費補助金基盤研究(C)：尿路・性器感染症病原微生物の迅速かつ包括的遺伝子診断システムの開発；平成 16 年度-平成 17 年度；3,600 千円(2,200：1,400 千円)
- 3) 研究代表者：高橋義人，研究分担者：出口 隆，江原英俊；科学研究費補助金基盤研究(C)(2)：DNAマイクロアレイを用いた進行前立腺癌のホルモン化学療法の効果予測；平成 16 年度；1,300 千円
- 4) 研究代表者：伊藤慎一；科学研究費補助金若手研究(B)：腎移植における急性拒絶反応のリアルタイム定量的 PCR 法を用いた早期診断法の確立；平成 16 年度-平成 18 年度；2,500 千円(1,400：800：300 千円)
- 5) 研究代表者：安田 満；科学研究費補助金若手研究(B)：分子生物学的手法を用いた淋菌のセフェム系抗菌剤耐性機構の解析；平成 16 年度-平成 17 年度；3,400 千円(1,900：1,500 千円)

2) 受託研究

- 1) 出口 隆，安田 満：非淋菌性尿道炎患者の起炎菌である *Mycoplasma genitalium* に対するガチフロキサシンの抗菌活性に関する研究；平成 15 年度；3,003 千円：杏林製薬株式会社
- 2) 出口 隆：内視鏡カテーテル訓練システムの開発；平成 15 年度；8,674 千円：財団法人岐阜県研究開発財団
- 3) 石原 哲，安田 満：尿路感染症分離菌感受性調査；平成 15 年度；409,500 円：武田薬品工業株式会社
- 4) 石原 哲，安田 満：尿路感染症分離菌感受性調査；平成 16 年度；409,500 円：武田薬品工業株式会社

3) 共同研究

なし

5. 発明・特許出願状況

- 1) 吉田 敏，高橋義人，西嶋 隆，佐々木正和，宮城邦彦：内視ファイバーシステムと訓練用臓器モデル；出願予定・学内発明委員会提出承認；平成 15 年度

6. 学会活動

1) 学会役員

出口 隆：

- 1) 日本泌尿器科学会監事(～現在)
- 2) 日本化学療法学会幹事(～現在)
- 3) 日本性感染症学会理事(～現在)
- 4) 日本感染症学会評議員(～現在)
- 5) 尿路感染症研究会幹事(～現在)
- 6) 日本泌尿器科学会東海地方会運営委員(～現在)
- 7) 泌尿器科分子・細胞研究会世話人(～現在)

- 8) 東海ストーマリハビリテーション研究会世話人(～現在)
- 9) J-POPS 運営委員(～現在)

高橋義人：

- 1) 日本泌尿器科学会ボーディングメンバー(～現在)
- 2) 日本泌尿器科学会保険委員(～現在)
- 3) 日本泌尿器科学会泌尿器腹腔鏡技術審査委員(～現在)
- 4) 日本泌尿器科学会 video 審査委員(～現在)
- 5) 日本 Endourology・ESWL 学会評議員(平成 16 年 1 月 1 日～現在)
- 6) 日本 Endourology・ESWL 学会教育委員(～現在)
- 7) 日本 Endourology・ESWL 学会泌尿器腹腔鏡技術審査委員(～現在)
- 8) 東海ストーマリハビリテーション研究会世話人(～現在)
- 9) 日本泌尿器科学会東海地方会運営委員(～現在)

江原英俊：

- 1) 日本泌尿器科学会ボーディングメンバー(～現在)
- 2) 東海腹膜透析研究会世話人(～現在)
- 3) 泌尿器科分子・細胞研究会評議員(～現在)

伊藤慎一：

- 1) 日本泌尿器科学会ボーディングメンバー(～現在)

仲野正博：

- 1) 日本泌尿器科学会ボーディングメンバー(～現在)
- 2) 日本 Endourology・ESWL 学会評議員(～現在)

横井繁明：

- 1) 日本泌尿器科学会ボーディングメンバー(～現在)
- 2) 日本 Endourology・ESWL 学会評議員(～現在)

安田 満：

- 1) 日本泌尿器科学会ボーディングメンバー(～現在)
- 2) 日本性感染症学会評議員(平成 17 年 12 月～現在)

山本直樹：

- 1) 日本泌尿器科学会ボーディングメンバー(～現在)

2) 学会開催

出口 隆：

- 1) 第 220 回日本泌尿器科学会東海地方会(平成 15 年 6 月, 岐阜)
- 2) Bayer Symposium(平成 16 年 8 月, 名古屋)
- 3) 第 227 回日本泌尿器科学会東海地方会(平成 17 年 3 月, 名古屋)

3) 学術雑誌

出口 隆：

- 1) 泌尿器科紀要；編集委員(～現在)
- 2) Int. J. Urol. : Editor(～現在)
- 3) J. Int. Chemother. : Editor(～現在)

安田 満：

- 1) 日本性感染症学会；編集委員(平成 17 年～現在)

7. 学会招待講演, 招待シンポジスト, 座長

出口 隆:

- 1) 第 26 回日本医師会総会(平成 15 年 4 月, 福岡, シンポジウム「増え続ける性感染症 今, 何をなすべきか 薬剤耐性淋菌の増加」演者)
- 2) 第 91 回日本泌尿器科学会総会(平成 15 年 4 月, 徳島, イブニングセミナー「非淋菌性尿道炎 診断・治療ガイドライン」演者)
- 3) 第 51 回日本化学療法学会総会(平成 15 年 5 月, 横浜, シンポジウム「市販抗菌薬のその後の操業」座長)
- 4) 未来博 15 周年記念 PSA シンポジウム(平成 15 年 8 月, 岐阜, シンポジウム「がん・前立腺がんの早期発見・早期治療を考える」座長)
- 5) 第 41 回日本細菌学会中部支部総会(平成 16 年 10 月, 岐阜, 特別講演「性器感染症におけるマイコプラズマおよびウレアプラズマの役割」演者)
- 6) 日本性感染症学会第 17 回学術大会(平成 16 年 12 月, 東京, ランチョンセミナー「淋菌の薬剤耐性の現状とその治療法」演者)
- 7) 第 93 回日本泌尿器科学会総会(平成 17 年 4 月, 東京, 「卒後教育プログラム 尿路性器感染症 性感染症 (STD) ガイドラインについて 非淋菌性尿道炎 (non-gonococcal urethritis, NGU)」演者)
- 8) 浜松カンファレンス(平成 17 年 7 月, 浜松, 特別講演「男子尿道炎の診断と治療の最近の話題」演者)
- 9) 日本癌治療学会(平成 17 年 10 月, 名古屋, ワークショップ「前立腺癌の最新治療の現状と展望」座長)
- 10) 第 53 回日本化学療法学会西日本支部総会(平成 17 年 12 月, 岐阜, 教育講演「男子非淋菌性尿道炎におけるマイコプラズマおよびウレアプラズマの役割」演者)
- 11) 日本性感染症学会第 18 回学術大会(平成 17 年 12 月, 小倉, 特別セッション「男子非淋菌性尿道炎におけるマイコプラズマおよびウレアプラズマの役割」演者)

石原 哲:

- 1) 第 91 回日本泌尿器科学会総会(平成 15 年 4 月, 徳島, シンポジウム「尿路性敗血症 難治性尿路感染症の課題と展望」演者)
- 2) 8th International Symposium on Urinary Tract Infections(2003. 06, Durban, South Africa, Symposium: *Mycoplasma genitalium* infection; Symposist)
- 3) 1st Asian UTI/STD Forum(2003. 11, Fukuoka, Symposium: Susceptibility of 5,000 isolates from complicated UTI to 6 major antimicrobial; Symposist)
- 4) Modern Phrmacotherapy in Urology(2004. 05, Khabarovsk, Symposium: Antibiotic selection for acute uncomplicated cystitis in women; Symposist)
- 5) 第 20 回日本環境感染症学会(平成 17 年 2 月, 神戸, 特別講演「淋菌-薬剤耐性菌の増加とその対処方法について」演者)
- 6) 日本泌尿器科学会総会(平成 17 年 4 月, 東京, シンポジウム「日常診療における標準化をめざして 尿路感染症 有熱性尿路感染症 単純性腎盂腎炎」演者)
- 7) 第 16 回尿路感染症研究会(平成 17 年 10 月, 東京, シンポジウム「抗菌薬開発の現状・尿路感染症に対する展望 泌尿器科医の立場からの提言」演者)

高橋義人:

- 1) 東海ものづくりクラスターフォーラム 2004(平成 16 年 2 月, 名古屋, シンポジウム「内視鏡・カテーテル訓練システムの開発」演者)
- 2) 第 16 回東海ストーマリハビリテーション講習会(平成 16 年 8 月, 名古屋, 特別講演「尿路ストーマ疾患・術式・合併症」演者)
- 3) 第 18 回日本内視鏡外科学会(平成 17 年 12 月, 東京, ワークショップ「標準化の試み 腹腔鏡下根治的腎摘出術の標準化を目指して」演者)

江原英俊:

- 1) 第 55 回日本泌尿器科学会中部総会(平成 17 年 10 月, 神戸, シンポジウム「局所浸潤前立腺癌の治療戦略 ホルモン療法の位置付け」演者)

横井繁明:

- 1) 第 92 回日本泌尿器科学会総会(平成 16 年 4 月, 大阪, ワークショップ「後腹膜腫瘍切除術」演者)

安田 満 :

- 1) 第 30 回日本マイコプラズマ学会学術集会(平成 15 年 10 月, 東京, シンポジウム「*Mycoplasma genitalium* と尿道炎」 演者)
- 2) 第 53 回日本泌尿器科学会中部総会(平成 15 年 11 月, 金沢, シンポジウム「*Mycoplasma genitalium* と男子非淋菌性尿道炎」 演者)
- 3) Joint congress of The 1st Meeting of The Asian Organization for Mycoplasmaology and The 31st Meeting of the Japanese Society of Mycoplasmaology(2004. 10, Tokyo, Symposium: Multidisciplinary studies on the human diseases caused by mycoplasmas. *Mycoplasma genitalium* and *Ureaplasma urealyticum* in urethritis; Symposist)
- 4) Joint Meeting of International Disease Management Symposium and 3rd Asian UTI/STD Fourm (2005. 05, Seoul, Symposium: Epidemiology and Treatument for STIs. *Neisseria gonorrhoeae* intection; Symposist)

8. 学術賞等の受賞状況

なし

9. 社会活動

出口 隆 :

- 1) 岐阜県身体障害者医学的判定嘱託医師(~現在)
- 2) 岐阜県感染症予防対策エイズ対策部会委員(~現在)
- 3) 岐阜県前立腺がん検診専門委員会委員長(~現在)

10. 報告書

- 1) 江原英俊, 出口 隆, 高橋義人 : DNA マイクロアレイを用いた進行前立腺癌のホルモン化学療法の予測 : 文部科学省科学研究費補助金基盤研究(C)(2)報告書(2003 年 3 月)

11. 報道

- 1) 出口 隆 : 主治医のカルテ : 中日新聞 中日サンデー版(2003 年 2 月 2 日)
- 2) 高橋義人 : 前立腺肥大による排尿障害 : 岐阜新聞(2003 年 3 月 17 日)
- 3) 石原 哲 : 岐阜県医師会だより 診察室から : 岐阜新聞(2003 年 3 月 1 日)
- 4) 高橋義人 : 前立腺肥大による排尿障害 : 岐阜新聞(2003 年 3 月 17 日)
- 5) 出口 隆, 宇野裕巳 : 五〇歳を過ぎたら始めたい「前立腺ガン」発見につながる PSA 検診 : 中日新聞朝刊(2004 年)
- 6) 石原 哲 : 前立腺がん 切らない治療法に注目 : 中日新聞朝刊(2004 年 11 月 13 日)
- 7) 安田 満 : *M. genitalium* 由来の非淋菌性尿道炎に GFLX が有用 : Medical Tribune(2005 年 1 月 6 日)

12. 自己評価

評価

尿路性器感染症の分野では, 先進的な研究成果をあげることができており評価を受けている。しかしながら, 他の研究課題においては着実に研究は進行しているものの, 成果としてはあらわれておらずより一層の努力を要する。

現状の問題点及びその対応策

最大の問題点は関連施設も含めた人員不足である。さらに, 新病院への移転後の臨床活動のウェイトが増したことに伴って, 益々研究に割ける員数と時間に影響が出ている。

即効性のある対応策はなく, また, 当分野だけの問題ではないと考えている。当分野としては, 以前にも増して本学医学部生及び他大学の学生に積極的にアピールし, 留学生や学外企業からの社会人大学院生を積極的に受入を行っている。

今後の展望

- 1) 尿路生殖器腫瘍の治療と予後に関する基礎的・臨床的研究
尿路生殖器癌における遺伝子変異の包括的な評価とその臨床応用を目指す。

2) 尿路感染症の基礎的・臨床的研究

現在の研究を進め、また、遺伝子解析による薬剤感受性判定法の開発を目指す。これらの基礎的研究成果に基づいた適正な抗菌化学療法的确立を目指す。

3) 男子尿道炎の基礎的・臨床的研究

尿道炎の病原微生物の解明をさらに進めるとともに、尿道炎に対する適正な抗菌化学療法的确立を目指す。

4) 腎移植における臨床的研究

免疫抑制剤の適正使用的确立と移植腎の長期機能維持を目指す。

5) 鏡視下手術手技の開発研究

新たな技術および器具、器材の開発により、鏡視下手術の適応の拡大を目指す。

(7) 麻酔・疼痛制御学分野

1. 研究の概要

麻酔・疼痛制御学分野の主な研究課題は、臨床麻酔の安全性と難治性疼痛治療の開発とを主眼においた研究である。反射性の呼吸循環反応と脳脊髄の微小循環から周術期の脳保護に関する知見の集積や、麻酔と疼痛のシグナル伝達機構とその制御、難治性疼痛のメカニズムをオピオイド、 α_2 アゴニスト、Ions transporter等の脊髄鎮痛機構を解明する基礎的研究を行っており、以下のようにまとめることができる。

- 1) 麻酔・侵襲中の呼吸・循環反射性反応に関する臨床的研究
- 2) 脳・脊髄循環に対する麻酔及びその関連薬に関する研究
- 3) 疼痛制御機構の神経化学的研究と麻酔薬、オピオイド、 α_2 アルゴニスト K^+ チャンネル開口薬、イオントランスポーター、NSAIDsなどの作用機序に関する研究

過去10年間、科学研究費の配分を受け、頭蓋内及び脊髄腔内有窓法を用いて、脳及び脊髄の微小循環に対する麻酔薬その他の作用機序に関する活発な研究を行い、最近では臨床にまで仕事の幅を広げてきた。オピオイド、 α_2 アルゴニスト、NSAIDs、 K^+ チャンネル開口薬、イオントランスポーターなどの脊髄鎮痛機構への影響に対する新しい知見も多くなってきた。また、パッチクランプ法を用いて、脊髄後根細胞の Na^+ チャンネルへの作用、 K^+ チャンネル、あるいは局所麻酔薬や鎮痛補助薬のシグナル分子機構への作用も検討し、アポトーシスを誘発することも明らかにした。

2. 名簿

教授：	土肥 修司	Shuji Dhi
助教授：	飯田 宏樹	Hiroki Iida
講師：	大島 博人	Hiroto Oohata
講師：	竹中 元康	Hiroyasu Takenaka
臨床講師：	長瀬 清	Kiyoshi Nagase
臨床講師：	道野 朋洋	Tomohiro Mitino
臨床講師：	山口 忍	Shinobu Yamaguti
臨床講師：	山田 忠則	Tadanori Yamada
臨床講師：	棚橋 重聡	Shigeaki Tanahasi
臨床講師：	飯田 美紀	Miki Iida
医員：	松本 茂美	Sigemi Matumoto
医員：	鷺見 和行	Kazuyuki Sumi
医員：	熊澤 昌彦	Masahiko Kumazawa
医員：	福岡 尚和	Naokazu Fukuoka
医員：	横田 愛	Mana Yokota
医員：	田口 佳広	Yoshihiro Taguti
医員：	河村三千香	Mitika Kawamura

3. 研究成果の発表

著書（和文）

- 1) 土肥修司. Session2 イオンチャンネル・トランスポーター—2 脊髄鎮痛機構におけるイオントランスポーターの役割—：緒方宣邦編. 痛みの基礎と臨床，東京：真興交易（株）医書出版部；2003年：61-69.
- 2) 土肥修司. 第Ⅲ章痛みの評価・診断法—A.ペインクリニックの評価法—：後藤文夫編. ペインマネジメント—痛みの評価と診療手順—，東京：（株）南江堂；2004年：57-65.
- 3) 土肥修司. 8 麻酔と脳神経機能：天羽敬祐監修. 麻酔科学レビュー2004—最新主要文献集—，東京：（株）総合医学社；2004年：1-50.
- 4) 飯田宏樹. 5) 硬膜外ブロック：森本昌宏編. ペインクリニックと東洋医学 神経ブロック療法，東京：真興交易医書出版部；2004年：134-137.
- 5) 飯田宏樹. 9) NMDA 受容体拮抗薬：森本昌宏編. ペインクリニックと東洋医学 薬物治療，東京：真興交易医書出版部；2004年：199-202.
- 6) 飯田宏樹. 14.麻酔偶発症・合併症Ⅰ. 全身麻酔に関する偶発症・合併症 3.中心静脈，カテーテル挿入：岩崎寛編. 麻酔科診療プラクティス，東京：文光堂；2004年：18-22.
- 7) 土肥修司. 8 麻酔と脳神経機能：天羽敬祐監修. 麻酔科学レビュー2005—最新主要文献集—，東京：（株）総合医学社；2005年：45-52.

著書（欧文）

なし

総説 (和文)

- 1) 大島博人, 土肥修司. 内視鏡外科における術中・術後管理, 現代医療 2003 年; 35 巻 増刊 II : 1211-1215.
- 2) 飯田宏樹. 椎間板造影・ブロック, 椎間板内加圧注射療法 a 椎間板造影・ブロック, Monthly Book Orthopaedics 2003 年; 16 巻 : 73-78.
- 3) 織田章義, 赤松 繁, 土肥修司. 特集 心拍出量測定をめぐって-熱希釈肺動脈カテーテルを超えたか?-カラードブラ法を用いた経食道心エコー図法による心拍出量の自動計測法, 救急・集中治療 2003 年; 15 巻 : 347-355.
- 4) 赤松 繁, 小澤 修. 救急蘇生とバソプレシン-バソプレシンの血管平滑筋細胞における作用および細胞内情報伝達機構と心肺蘇生時における有用性, 日本蘇生学会雑誌 2003 年; 22 巻 : 1-7.
- 5) 土肥修司共著. 1. 麻酔の安全性と反射性の循環反応, 臨床麻酔 2004 年; 第 28 巻増刊号 315-329.
- 6) 飯田宏樹, 鷺見和行. 分娩痛と無痛分娩. 痛みと臨床, 2004 年; 4 巻 : 38-46.
- 7) 土肥修司. 特集 臨床医のための新薬の知識 2004 神経系用薬 塩酸オキシコドン, 臨床と薬物治療 2004 年; 23 巻 : 384-386.
- 8) 浅野斗志男, 土肥修司. 線維筋痛症, 医学のあゆみ 2004 年; 211 巻 : 436-439.
- 9) 竹中元康, 土肥修司. 手術後の慢性痛-特徴と対策, 医学のあゆみ 2004 年; 211 巻 : 444-452.
- 10) 土肥修司. 痛みの評価法と治療効果, 医学のあゆみ 2004 年; 211 巻 : 453-457.
- 11) 飯田宏樹. 分娩痛の発生機構とその制御 (無痛分娩), 医学のあゆみ 2004 年; 211 巻 : 517-521.
- 12) 古橋亜沙子, 土肥修司. 鎮痛補助薬の使い方-GABA 受容体作動薬, $\alpha 2$ 受容体作動薬, NMDA 受容体拮抗薬を中心に, 医学のあゆみ 2004 年; 211 巻 : 547-550.
- 13) 土肥修司. 2 がんの痛みのマネジメントにおけるオキシコドン注射用製剤の使用経験, がん患者と対症療法 2005 年; 16 巻 : 42-45.

総説 (欧文)

- 1) Iida H, Iida M. Spinal analgesics and cerebrospinal circulation. Research Advances in Anesthesia. 2004;1:1-9.

原著 (和文)

- 1) 浅野斗志男, 塚原郁夫, 松波紀行, 浅野安見, 土肥修司. 体内埋め込み型薬液注入システムを用いた硬膜外ブロックによる非癌性慢性疼痛の長期管理と問題点, 臨床麻酔 2003 年; 27 巻 : 685-689.
- 2) 浅野斗志男, 土肥修司, 塚原郁夫, 浅野安見, 松波紀行. 両足灼熱痛を主訴とした HTLV-I 関連脊髄症(HAM)の 1 症例, 麻酔 2003 年; 52 巻 : 1095-1099.
- 3) 浅野斗志男, 土肥修司, 塚原郁夫, 浅野安見, 松波紀行. がん性疼痛の経過中に交感神経が関与する時期が存在する (臨床経験), ペインクリニック 2003 年; 24 巻 : 1681-1683.
- 4) 鷺見和行, 松本茂美, 飯田宏樹, 土肥修司. 原因不明の左季肋部痛に内臓神経ブロックが著効した 1 症例, ペインクリニック 2003 年; 24 巻 : 1177-1179.
- 5) 赤松 繁, 仁田豊生, 寺澤悦司, 土肥修司, 廣瀬 一. 経皮的気管切開術後に発症した縦隔気腫と両側気胸, 日本救急医学会雑誌 2003 年; 14 巻 : 267-272.
- 6) 服部慎一, 安藤 武, 渡部章久. 手術時の発作性上室性頻拍に対し塩酸ランジオロールの単回投与が有効であった症例, 現代医療 2004 年; 36 巻 : 282-285.
- 7) 大島博人, 安藤 武, 酢谷朋子, 永坂由紀子, 福岡尚和, 土肥修司. 全身麻酔からの覚醒および抜管時における心拍数と血圧の変化に対するランジオロールの効果, 日本臨床麻酔学会誌 2004 年; 24 巻 : 579-585.
- 8) 大島博人, 河村三千香, 田口佳広, 種村衣里子, 安藤武, 土肥修司. 乳児に過量なベクロニウムが投与された症例, 麻酔 2005 年; 54 巻 : 298-300.
- 9) 服部慎一, 大島博人, 土肥修司. 長時間に及んだ脳腫瘍摘出術後に半回神経麻痺を生じた小児症例, 麻酔 2005 年; 54 巻 : 683-686.

原著 (欧文)

- 1) Terazawa E, Dohi S, Akamatsu S, Ohata H, Shimonaka H. Changes in calcitonin gene-related peptide, atrial natriuretic peptide and brain natriuretic peptide in patients undergoing coronary artery bypass grafting. Anaesthesia. 2003;58:223-232. IF 2.163
- 2) Tanabe K, Dohi S, Matsuno H, Hirada K, Kozawa O. Midazolam Stimulates Vascular Endothelial Growth Factor Release in Aortic smooth Muscle Cells. Anesthesiology. 2003;98:1147-1154. IF 4.055
- 3) Yanagidate F, Dohi S. Two episodes of bronchospasm during anaesthesia in asthmatic patients. Euro J Anaesth. 2003;20:575-588. IF 1.156
- 4) Kawashima Y, Takahashi S, Suzuki M, Morita K, Irita K, Iwao Y, Seo N, Tsuzaki K, Dohi S, Kobayashi T, Goto Y, Suzuki G, Fujii A, Suzuki H, Yokoyama K, Kugiyama T. Anesthesia-related mortality and morbidity over a 5-year period in 2,363,038 patients in Japan. Acta Anaesthesiol Scand. 2003;47:809-817. IF 1.413
- 5) Uchida M, Iida H, Iida M, Dohi S. Changes in Cerebral Microcirculation During and After Abdominal Aortic Cross-Clamping in Rabbits: The Role of Thromboxane A_2 Receptor. Anesth Analg. 2003;96:651-656. IF 2.180

- 6) Iida M, Iida H, Fujiwara H, Dohi S. Effects of alcohol infusion on smoking-induced cerebrovascular changes in rat in vivo. *Alcohol*. 2003;30:175-181. IF 1.874
- 7) Yanagidate F, Dohi S. Letters to the editor. Corneal abrasion after the wake-up test in spinal surgery. *J Anesth*. 2003;17:211-212.
- 8) Masue T, Shimonaka H, Fukao I, Kasuya S, Kasuya Y, Dohi S. Oral high-dose midazolam premedication for infants and children undergoing cardiovascular surgery. *Paediatr Anaesth*. 2003;13:662-667. IF 1.105
- 9) Takenaka M, Iida H, Iida M, Uchida M, Dohi S. The Comparative Effects of Prostaglandin E1 and Nicardipine on Cerebral Microcirculation in Rabbits. *Anesth Analg*. 2003;96:1139-1144. IF 2.180
- 10) Nagase K, Iida H, Dohi S. Effects of ketamine on isoflurane-and sevoflurane-induced cerebral vasodilation in rabbits. *J Neurosurg Anesth*. 2003;15:98-103. IF 6.430
- 11) Takenaka M, Hirade K, Tanabe K, Akamatsu S, Dohi S, Matsuno H, Kozawa O. Simvastatin stimulates VEGF release via p44/p42 MAP kinase in vascular smooth muscle cells. *Biochem Biophys Res Commun*. 2003;301:198-203. IF 2.904
- 12) Tokuda H, Hatakeyama D, Akamatsu S, Tanabe K, Yoshida M, Shibata T, Kozawa O. Involvement of MAP kinase in TGF- β -stimulated vascular endothelial growth factor synthesis in osteoblasts. *Arch Biochem Biophys*. 2003;415:117-125. IF 2.657
- 13) Oshima T, Dohi S. Isoflurane Facilitates Hiccup-Like Reflex Through Gamma Aminobutyric Acid (GABA)_A-and Suppresses Through GABA_B-Receptors in Pentobarbital-Anesthetized Cats. *Anesth Analg*. 2004;98:346-352. IF 2.180
- 14) Iida H, Iida M, Ohata H, Nagase K, Dohi S. Hypothermia Attenuates the Vasodilator Effects of Dexmedetomidine on Pial Vessels in Rabbits *In Vivo*. *Anesth Analg*. 2004;98:477-482. IF 2.180
- 15) Tanabe K, Hirade K, Ishisaki A, Shu E, Suga H, Kitajima Y, Katagiri Y, Dohi S, Kozawa O. Possible involvement of p44/p42 MAP kinase in retinoic acid-stimulated vascular endothelial growth factor release in aortic smooth muscle cells. *Atherosclerosis*. 2004;175:245-251. IF 3.796
- 16) Yanagidate F, Dohi S. Epidural oxycodone or morphine following gynaecological surgery. *Br J Anaesth*. 2004;93:326-7. IF 2.469
- 17) Akamatsu S, Oda A, Terazawa E, Yamamoto T, Ohata H, Michino T, Dohi S. Automated cardiac output measurement by transesophageal color Doppler echocardiography. *Anesth Analg*. 2004;98:1232-8. IF 2.180
- 18) Osawa Y, Oda A, Iida H, Tanahashi S, Dohi S. The Effects of Class Ic Antiarrhythmics on Tetrodotoxin-Resistant Na⁺ Currents in Rat Sensory Neurons. *Anesth Analg*. 2004;99:464-71. IF 2.180
- 19) Iizawa A, Oshima T, Kasuya Y, Dohi S. Oral tandospirone and clonidine provide similar relief of preoperative anxiety. *Can J Anesth*. 2004;51:668-671. IF 1.208
- 20) Akamatsu S, Nakajima K, Ishisaki A, Matsuno H, Tanabe K, Takei M, Takenaka M, Hirade K, Yoshimi N, Suga H, Oiso Y, Kato K, Kozawa O. Vasopressin phosphorylates HSP27 in aortic smooth muscle cells. *J Cell Biochem*. 2004;92:1203-1211. IF 2.946
- 21) Hirade K, Tanabe K, Niwa M, Ishisaki A, Nakajima K, Nakamura M, Sugiyama T, Katagiri Y, Kato K, Kozawa O. Adenylyl cyclase-cAMP system inhibits thrombin-induced HSP27 in vascular smooth muscle cells. *J Cell Biochem*. 2005;94:573-584. IF 2.946
- 22) Iida H, Sumi K, Takenaka M, Asano T, Matsumoto S, Iwama T, Dohi S. Periorbital pain associated with hemifacial spasms that respond to botulinum toxin treatment and microvascular decompression surgery a case report. *J Clin Anesth*. 2005;17:363-365. IF 2.080
- 23) Kasuya Y, Murakami T, Oshima T, Dohi S. Does Yawning Represent a Transient Arousal-Shift During Intravenous Induction of General Anesthesia?. *Anesth Analg*. 2005;100:382-384. IF 2.180
- 24) Takenaka M, Iida H, Iida M, Sumi K, Kumazawa M, Tanahashi S, Dohi S. Intrathecal Neostigmine Prevents Intrathecal Clinidine from Attenuating Hypercapnic Cerebral Vasodilation in Rabbits. *Anesth Analg*. 2005;100:1075-1080. IF 2.180
- 25) Iida H, Sumi K, Takenaka M, Asano T, Matsumoto S, Iwama T, Dohi S. Periorbital pain associated with hemifacial spasms that responded to botulinum toxin treatment and microvascular decompression surgery: a case report. *J Clin Anesth*. 2005;17:363-5. IF 2.080
- 26) Tanabe K, Akamatsu S, Suga H, Takai S, Kato K, Dohi S, Kozawa O. Midazolam suppresses thrombin-induced heat shock protein 27 phosphorylation through inhibition of p38 mitogen-activated protein kinase in cardiac myocytes. *J Cell Biochem*. 2005;96:56-64. IF 2.946
- 27) Uchida M, Iida H, Iida M, Kumazawa M, Sumi K, Takenaka M, Dohi S. Both milrinone and colforsin daropate attenuate the sustained pial arteriolar constriction seen after unclamping of an abdominal aortic cross-clamp in rabbits. *Anesth Analg*. 2005;101:9-16. IF 2.180
- 28) Ma HC, Wang YF, Feng CS, Zhao H, Dohi S. Effects of adenosine agonist R-phenylisopropyl-adenosine on halothane anesthesia and antinociception in rats. *Acta Pharmacol Sin*. 2005;26:181-185. IF 1.125
- 29) Yanagidate F, Dohi S. Modified nasal cannula for simultaneous oxygen delivery and end-tidal CO₂ monitoring during spontaneous breathing. *Eur J Anaesthesiol*. in press. IF 1.156
- 30) Iida H, Iida M, Takenaka M, Fujiwara H, Dohi S. Angiotensin II type 1 (AT1)-receptor blocker prevents impairment of endothelium-dependent cerebral vasodilation by acute cigarette smoking in rats. *Life Sci*. in press. IF 2.158

- 31) Tanabe K, Akamatsu S, Suga H, Takai S, Kato K, Dohi S, Kozawa O. Midazolam suppresses thrombin-induced heat shock protein 27 phosphorylation through inhibition of p38 mitogen-activated protein kinase in cardiac myocytes. J Cell Biochem. in press. IF 2.946

4. 研究費獲得状況

1) 競争的資金

- 1) 研究代表者：土肥修司，研究分担者：織田章義，柳館富美，辻藤達也，譚志明；科学研究費補助金基盤研究(A)(2)：麻酔・疼痛シグナル伝達機構におけるイオンチャンネルとイオントランスポーターの制御機構；平成 14-17 年度；24,700 千円(8,000：6,500：5,700：4,500 千円)
- 2) 研究代表者：土肥修司，研究分担者：中川敏幸；科学研究費補助金基盤研究(萌芽)：脊髄損傷後の脊髄再生プロセスにおける Na⁺-K⁺ATPase の役割；平成 15-17 年度；3,100 千円(1,200：900：1,000 千円)
- 3) 研究代表者：飯田宏樹，研究分担者：土肥修司；科学研究費補助金基盤研究(C)(2)：大動脈遮断・解除に伴う脳・脊髄微小循環の変動とそのメカニズム；平成 13-15 年度；3,300 千円(1,600：800：900 千円)
- 4) 研究代表者：赤松 繁，研究分担者：寺澤悦治，土肥修司；科学研究費補助金基盤研究(C)(2)：心臓内局所麻酔薬投与が循環動態の及ぼす効果の基礎的研究—拍動下心臓手術の管理—；平成 14-15 年度；2,100 千円(1,200：900 千円)
- 5) 研究代表者：大島博人；科学研究費補助金若手研究(B)：グルタミン酸受容体を介した脳血流調節における麻酔薬と脳低温の影響；平成 14-15 年度；3,100 千円(2,400：700 千円)
- 6) 研究代表者：長瀬 清；科学研究費補助金若手研究(B)：一過性全脳虚血後の脳微小循環反応に対する NMDA 受容体遮断薬の影響；平成 15-16 年度；1,800 千円(1,200：600 千円)
- 7) 研究代表者：道野朋洋；科学研究費補助金若手研究(B)：星状神経節ブロックはシバリングを抑制するか；平成 14-15 年度；500 千円(300：200 千円)
- 8) 研究代表者：柳館富美；科学研究費補助金若手研究(B)：脊髄および脊髄上部におけるオピオイド K 受容体の疼痛制御と NSAIDs の相互作用；平成 14-15 年度；1,200 千円(600：600 千円)
- 9) 研究代表者：大島博人；科学研究費補助金若手研究(B)：グルタミン酸受容体を介した脳血流調節における麻酔薬と脳低温の影響；平成 16-17 年度；1,600 千円(800：800 千円)
- 10) 研究代表者：赤松 繁，研究分担者：小澤 修，土肥修司；科学研究費補助金基盤(C)：周術期心筋虚血後の心のリモデリングにおける線溶系因子の役割と臨的意義；平成 17-18 年度；3,800 千円(2,700：1,100 千円)
- 11) 研究代表者：長瀬 清；科学研究費補助金若手研究(B)：一過性全脳虚血後の脳微小循環反応に対する脳低体温療法の影響；平成 17-18 年度；1,800 千円(1,100：700 千円)

2) 受託研究

- 1) 土肥修司：MR8A2（塩酸レボブピバカイン注）；平成 16 年度；1,476 千円：丸石製薬
- 2) 飯田宏樹：KN-48 第 II 相試験；平成 16-17 年度；1,056 千円：科研製薬
- 3) 飯田宏樹：ボトックス注 100 使用成績調査；平成 16-18 年度；63 千円：ファラガン

3) 共同研究

なし

5. 発明・特許出願状況

なし

6. 学会活動

1) 学会役員

土肥修司：

- 1) 日本麻酔科学会理事・代議員・副会長・学術委員会(委員，学会賞選考委員会)(～現在)
- 2) 日本ペインクリニック学会理事・評議員(～現在)
- 3) 日本臨床モニター学会評議員(～現在)
- 4) 日本臨床麻酔学会評議員(～現在)
- 5) 日本蘇生学会理事・評議員(～現在)

- 6) 日本集中治療医学会評議委員・倫理委員長(～平成 17 年 3 月)
- 7) 日本循環制御医学会評議員(～現在)
- 8) 日本麻酔科学会東海・北陸支部理事・代議員(～現在)
- 9) 日本神経麻酔集中治療研究会理事・評議員(～現在)
- 10) 日本局所麻酔学会評議委員(～現在)

飯田宏樹：

- 1) 日本麻酔科学会代議員(～現在)
- 2) 日本ペインクリニック学会評議員(～現在)
- 3) 日本疼痛学会評議員(～現在)
- 4) 日本神経麻酔集中治療研究会評議員(～現在)
- 5) 日本麻酔科学会東海・北陸支部代議員(～現在)
- 6) 日本ペインクリニック学会東海地方会評議員(～現在)

2) 学会開催

土肥修司：

- 1) 第 7 回日本神経麻酔・集中治療研究会(平成 15 年 3 月, 岐阜)
- 2) 第 26 回鎮痛薬オピオイドペプチドシンポジウム(平成 17 年 6 月, 岐阜)

3) 学術雑誌

土肥修司：

- 1) Regional Anesthesia & Pain Medicine Associate Editor(～現在)
- 2) 日本臨床麻酔学会誌；編集委員(～平成 16 年 11 月)
- 3) 日本ペインクリニック学会誌；編集委員(～平成 16 年 5 月)編集委員長(平成 16 年 6 月～現在)
- 4) 日本蘇生学会誌；編集長(～平成 16 年 5 月)；編集委員(～現在)

7. 学会招待講演, 招待シンポジスト, 座長

土肥修司：

- 1) 第 115 回麻酔の基礎と臨床研究会(2003 年 3 月, 東京, 「麻酔中の自律神経機能と Beta-1 アドレナリン受容体アンタゴニスト」 演者)
- 2) 第 57 回日本交通医学会総会(2003 年 6 月, 名古屋, 基調講演「救急と災害医療」 演者)
- 3) 第 8 回救急隊員症例研究発表会(2003 年 8 月, 岐阜, 教育講演「救急蘇生における気道確保の重要性」 演者)
- 4) 平成 15 年度生理学研究所研究会(2003 年 9 月, 岡崎, 講演 1「痛みの制御：ターゲットは脳か, 脊髄か痛みの基礎と臨床」 演者)
- 5) 第 14 回日本臨床モニター学会総会(2003 年 4 月, 福島, ランチョンセミナー1「心臓手術のモニタリング」 座長)
- 6) 日本麻酔科学会第 50 回学術集会(2003 年 5 月, 横浜, 招待講演 Anders Aneman「Regional reflex of tissue type plasminogen activator in porcine sepsis and acute lung injury」 座長)
- 7) 日本麻酔科学会第 50 回学術集会(2003 年 5 月, 横浜, ランチョンセミナー「硬膜外 PCA による術後痛管理 - 最近の動向と Acute Pain Service 構築のための工夫 -」 座長)
- 8) 日本臨床麻酔学会第 23 回大会シンポジウム(2003 年 10 月, 山口, (5)「麻酔安全性と反射の制御」 4 題 座長)
- 9) 第 25 回鎮痛薬・オピオイドペプチドシンポジウム(2004 年 7 月, 京都, 特別講演「痛みの治療-ターゲットは脳か脊髄か-」 演者)
- 10) 日本麻酔科学会第 51 回学術集会シンポジウム(2004 年 5 月, 名古屋, 「周術期異常死の取り扱いについて」 座長)
- 11) 日本臨床麻酔学会第 24 回大会(2004 年 10 月, 大阪, ランチョンセミナー (8)「緩和医療のトピック スーモルヒネは末期だけでなくがんのあらゆる時期の痛みに適応となります」 座長)

飯田宏樹：

- 1) 市民公開講座(2003 年 3 月, 岐阜, 「心肺脳蘇生の意義と実際」 演者)
- 2) 日本ペインクリニック学会第 39 回大会(2005 年 7 月, 宇都宮, 学術講演 6「神経ブロックの手技—

腰下肢痛と神経ブロック-安全性と苦痛軽減への配慮-」演者)

竹中元康 :

- 1) 日本麻酔科学会第 50 回学術集会指名講演(2003 年 5 月, 横浜, 「麻酔中の呼吸調整—各種薬物の影響」演者)

松本茂美 :

- 1) Cancer Pain Symposium—デュロテップパッチ発売 3 周年記念講演会(2005 年 7 月, 岐阜, 特別講演「ペインクリニックにおける癌性疼痛患者の治療」演者)

8. 学術賞等の受賞状況

なし

9. 社会活動

土肥修司 :

厚生労働省医道審議会委員(～平成 15 年次)

厚生労働省医師国家試験委員会委員(平成 16 年次副委員長, 17 年次委員長～18 年次)

10. 報告書

なし

11. 報道

なし

12. 自己評価

評価

前回の報告書 5 号からの著明な変化は, 大学病院はもとより関連病院の麻酔科の業務の増加などによる人手不足で, 研究に避ける時間が非常に減ったこと, などが重なって, 課題は十分に達成出来なかったと評価している。

現状の問題点及びその対応策

研究上の問題は多い。研究設備と環境, 人的問題など研究を遂行していく上での実際的な問題である。医学部および病院の全面移転, さらに特に法人化後の一昨年, 昨年は臨床業務が多忙を極め, 研究業務が滞りがちであった。現在研究を希望して大学院に入学している医師にも, 学費を払いながら, 臨床業務を義務化して遂行せざるを得ないことである。この対応には, 病院診療業務の抜本的な改革なしには不可能である。研究費は, 幸いにも科学研究費の配分を受け, 研究室の整備もなり, 当面は活発な研究活動が期待できる。

今後の展望

今後の展望は, 現在維持している研究レベルを少ない研究員でどう維持し, 発展させていくか, という点である。大学病院の社会的使命の一つ, 優れた臨床医を関連する医療機関に派遣するという目的があるだけに, 当面のマンパワーの充足は期待できないので, 新しい手技を導入し, 一部行っている他研究機関との共同研究などによって, より効率的に研究を遂行することにある。また, 研究者の脊髄鎮痛機構へのシグナル伝達に対する関心が高くなってきたので, 更に, 脊髄後根神経節ニューロンで展開してきた研究を, ミクログリア細胞に発展させる準備をしている。活発な成果が期待される。

現在の人員では研究室での研究遂行の抜本的な解決が見出されないので, 臨床の安全性の検討を, 毎日の臨床業務での解決を図るべき, 麻酔・手術中の輸液(糖含有輸液)の利点などを, 尿中アクアポリンの動態から, あるいは大血管遮断による末梢虚血の問題をバソプレッシンの動態や虚血耐性(ischemic preconditioning)から解明するなどの, 研究プロジェクトを開始している。

(8) 蘇生・集中治療学分野

1. 研究の概要

この分野は、「麻酔薬によって抑制され生命の幅を極端に狭くしている状態，かつ手術という激しいストレス下にある患者の呼吸・循環・体液・代謝管理である」である認識のもと，蘇生の力量がなくては安全に麻酔をかけることができないという視点からの研究であり，目的を新しい心肺蘇生法と心臓機能モニターの開発という従来蘇生・集中治療における中心的な課題においてきた。

2. 名簿

教授(併任)： 土肥修司 Shuji Dohi

3. 研究成果の発表

著書 (和文)

麻酔・疼痛制御学分野参照

著書 (欧文)

麻酔・疼痛制御学分野参照

総説 (和文)

麻酔・疼痛制御学分野参照

総説 (欧文)

麻酔・疼痛制御学分野参照

原著 (和文)

麻酔・疼痛制御学分野参照

原著 (欧文)

麻酔・疼痛制御学分野参照

4. 研究費獲得状況

1) 競争的資金

麻酔・疼痛制御学分野参照

2) 受託研究

麻酔・疼痛制御学分野参照

3) 共同研究

麻酔・疼痛制御学分野参照

5. 発明・特許出願状況

麻酔・疼痛制御学分野参照

6. 学会活動

1) 学会役員

土肥修司：

麻酔・疼痛制御学分野参照

赤松 繁：

1) 日本集中治療医学会東海北陸地方会評議員

2) 日本麻酔科学会東海北陸地方会代議員

2) 学会開催

土肥修司：

麻酔・疼痛制御学分野参照

7. 学会招待講演, 招待シンポジスト, 座長

土肥修司:

麻酔・疼痛制御学分野参照

赤松繁:

- 1) 第8回心臓血管麻酔学会(2003年9月, 奈良, TEEセミナー「①Basic 1. TEEと解剖-画像オリエンテーション」演者)

8. 学術賞等の受賞状況

麻酔・疼痛制御学分野参照

9. 社会活動

土肥修司:

麻酔・疼痛制御学分野参照

10. 報告書

麻酔・疼痛制御学分野参照

11. 報道

麻酔・疼痛制御学分野参照

12. 自己評価

評価

前回の報告書5号からの著明な変化は、赤松助教授の転出及び、大学病院はもとより関連病院の麻酔科の業務の増加などによる

人手不足で、研究に避ける時間が非常に減ったこと、などが重なって、課題は十分に達成出来なかったと評価している。

現状の問題点及びその対応策

研究上の問題は多い。研究設備と環境、人的問題など研究を遂行していく上での実際的な問題である。医学部および病院の全面移転、さらに特に法人化後の一昨年、昨年は臨床業務が多忙を極めたため、この面での研究は遂行できなかった。

幸い、平成18年度から、新しく大学院生の入学が予定されているので、研究室を整備し、研究を再開する。

今後の展望

従来から、麻酔・疼痛制御分野と一緒にすすめている、脳微小循環を頭蓋内有窓法を用いての心肺蘇生中の脳循環に広げて検討するに加えて、心肺蘇生法での効果が確実視されてきたバソプレッシンの脳軟膜血管への作用、大血管遮断および遮断後のバソプレッシンやエンドセレンの動態に注目して研究を開始する。この分野でも、従来以上に薬理病態(小澤教授)などの本学基礎系分野の指導を仰ぎ、研究の質の向上に務める。

(9) 口腔病態学分野

1. 研究の概要

現在、当分野において展開中の研究課題を臨床研究・基礎研究に大別して述べる。

臨床研究：最近の分子生物学の発展により、多くの疾患において発症に関わる分子生物学的機序、遺伝的背景因子、予知因子が見いだされてきている。しかしながら、口腔病変（口腔がん、白板症、扁平苔癬、その他歯原性腫瘍など）に関する解析はほとんど不明のままとなっている。本分野の臨床研究では、この点に軸足を置き以下の研究課題に取り組んでいる。

- 1) 口腔がんの集学的治療
- 2) 口腔機能再建（移植・再生医療）
- 3) 口腔乾燥症の病態と治療
- 4) 顎関節疾患の病態と治療
- 5) 口腔病変の分子疫学的解析
- 6) 5-FU 系抗がん剤代謝酵素分布の解析

基礎研究：基礎研究では、発がん・悪性化進展プロセスにおける Initiation, Promotion, Progression の各 Phase の制御や次世代の治療法の可能性を探るために、顎・口腔機能の改善・再生に対する細胞工学的検討を視野に以下の検討を行なっている。

- 1) がん悪性化進展機序の解析
- 2) 骨代謝・再生医療の新技术開発
- 3) 口腔がん化学予防法の開発
- 4) 顎関節疾患の病態解明と治療法の開発

2. 名簿

教授：	柴田敏之	Toshiyuki Shibata
助教授：	土井田誠	Makoto Toida
講師：	山下知巳	Tomomi Yamashita
臨床講師：	藤塚秀樹	Hideki Fujitsuka
臨床講師：	加藤恵三	Keizo Kato
臨床講師：	牧田浩樹	Makita Hiroki
臨床講師：	楠 幸博	Yukihiro Kusunoki
臨床講師：	畠山大二郎	Daijiro Hatakeyama
医員：	米本和弘	Kazuhiro Yonemoto
医員：	諏訪達彦	Tatsuhiko Suwa

3. 研究成果の発表

著書（和文）

- 1) 柴田敏之，兵東 巖．三叉神経痛：青柳公夫，鈴木俊夫，夏目長門編．歯科医療事故予防学 第2編 歯科医療事故の予防と対策 第2章 疾患別診断とインフォームドコンセントの留意点，東京：医歯薬出版株式会社；2003年：103-104.
- 2) 藤塚秀樹，土井田誠，柴田敏之．ここまできた電腦病院システム：河合達志，斎藤 誠，豊山洋輔編．Dental IT Navigation 2006，東京：デンタルダイヤモンド社；2006年：112-115.

著書（欧文）

なし

総説（和文）

- 1) 柴田敏之，土井田誠．口腔乾燥症（ドライマウス）について，日本医事新報 2003年；4139号：20-26.
- 2) 柴田敏之．がんの化学予防—口腔がん，最新医学 2004年；59巻：2447-2453.

総説（欧文）

なし

原著（和文）

- 1) 柴田敏之，山下徹郎，上田倫弘，中嶋頼俊，松井俊明，山下知巳．特異な臨床病像を呈した鼻歯槽嚢胞の2例，日本口腔外科学会雑誌 2003年；49巻：590-593.
- 2) 松本宏篤，大埜間勉，大久保恒正，松本祐介，梅村直己，柴田敏之．耳下腺原発の巨大な多形性腺腫の一

- 例, 高山赤十字病院紀要 2003年; 27巻: 69-72.
- 3) 江崎友紀, 土井田誠, 中村浩二, 宮本 謙, 牧田浩樹, 柴田敏之. 異物を伴った上顎正中部の嚢胞の1例 - 嚢胞内異物のラマン分光分析, 日本口腔外科学会雑誌 2003年; 49巻: 682-685.
 - 4) 石丸純一, 渡邊達也, 水井 工, 小林 敦, 土井田誠, 柴田敏之. 上顎歯肉に発生した basaloid squamous cell carcinoma の1例, 日本口腔外科学会雑誌 2004年; 50巻: 542-545.
 - 5) 大久保恒正, 田中宏史, 益田大輔, 南谷祐希, 今井 努, 大埜間勉, 柴田敏之. Placebo 効果により軽快した三叉神経通様疼痛, 高山赤十字病院紀要 2004年; 28号: 25-31.
 - 6) 楠 幸博, 宮本 謙, 牧田浩樹, 吉田浩二郎, 柴田敏之. 50歳男性の下顎骨に発生した Ewing 肉腫, 日本口腔外科学会雑誌 2004年; 50巻: 289-292.
 - 7) 兵東 巖, 牧田浩樹, 森聡次郎, 加藤恵三, 柴田敏之. 家兎咬筋部に移植した VX2 癌に対する虚血・再灌流による活性酸素種の抗腫瘍効果, 日本頭頸部癌学会雑誌 2004年; 30巻: 524-531.
 - 8) 牧田浩樹, 宮本 謙, 楠 幸博, 小林 敦, 江崎友紀, 柴田敏之. 歯槽骨壊死と顔面神経麻痺をきたした三叉神経帯状疱疹の1例, 日本口腔外科学会雑誌 2004年; 50巻: 35-38.
 - 9) 村上友則, 柴田敏之, 土井田誠, 馬場政司, 山下知己, 兵東 巖. オトガイ下部の腫脹を主体とした舌下型類表皮嚢胞の1例, 日本口腔診断学会雑誌 2004年; 17巻: 137-141.
 - 10) 八木栄司, 藤塚秀樹, 大埜間勉. 開窓と歯牙牽引療法によって良好な歯列が誘導できた下顎歯肉性角化嚢胞の1例, 審美歯科 2004年; 16巻: 332-336.
 - 11) 山下知己, 牧野修治郎, 北田秀昭, 原田浩之, 榊原典幸, 野谷健一, 小野貢伸, 鄭 漢忠, 戸塚靖則. 遊離組織を用いた口腔再建における血管吻合部破綻と血栓症例の検討, 日本口腔外科学会雑誌 2004年; 50巻: 73-78.
 - 12) 吉田直優, 名知 祥, 水谷知央, 関野考史, 阪本研一, 山田卓也, 竹村博文, 加藤恵三. 肝門部胆管癌を合併した Mirizzi 症候群の1例, 日本外科系連合学会誌 2004年; 29巻: 782-786.
 - 13) 藤塚秀樹, 八木栄司, 加藤幸弘, 土井田誠, 柴田敏之. 仮骨延長を応用した歯槽骨欠損部へのインプラント治療, 下呂温泉病院年報 2004年; 31号: 22-26.
 - 14) 松本英子, 江崎友紀, 畠山大二郎, 山下知己, 土井田誠, 柴田敏之. 下顎枝にみられた開花性セメント質骨異形成症と考えられた1例, 日本口腔外科学会雑誌 2004年; 51巻: 769-772.
 - 15) 米本和弘, 山下知己, 宮本 謙, 土井田誠, 柴田敏之. 当科における顎顔面骨折に関する臨床的検討—入院症例(1997-2003), 口腔顎顔面外傷 2004年; 3巻: 74-78.
 - 16) 伊藤 悠, 楠 幸博, 畠山大二郎, 山下知己, 柴田敏之. 顎関節の人工中間挿入物に菌性感染が波及し難治性となった頬部蜂窩織炎の1例, 日本口腔外科学会雑誌 2005年; 51巻: 176-179.
 - 17) 土井田誠, 畠山大二郎, 牧田浩樹, 米本和弘, 南谷祐希, 諏訪達彦, 加藤恵三, 楠幸博, 宮本謙, 藤塚秀樹, 山下知己, 柴田敏之. 急性菌性感染症に対するケテック®錠の有効性に関する検討, 新薬と臨床 2005年; 54巻: 1316-1324.
 - 18) 馬場政司, 小林 敦, 吉田浩二郎, 山下知己, 土井田誠, 柴田敏之. 下顎骨に転移した肝細胞癌の1例, 日本口腔診断学会雑誌 2005年; 18巻: 110-113.
 - 19) 宮崎康雄, 山下知己, 小林 敦, 加藤幸弘, 土井田誠, 柴田敏之. 皮膚自潰部より唾石を摘出した耳下腺唾石症の1例, 日本口腔診断学会雑誌 2005年; 18巻: 72-74.

原著 (欧文)

- 1) Hirose Y, Kuno T, Yamada Y, Sakata K, Katayama M, Yoshida K, Qiao Z, Hata K, Yoshimi N, Mori H. Azoxymethane-induced beta-catenin-accumulated crypts in colonic mucosa of rodents as an intermediate biomarker for colon carcinogenesis. *Carcinogenesis*. 2003;24:107-111. IF 5.375
- 2) Ishimaru J-I, Ogi N, Mizui T, Miyamoto K, Shibata T, Kurita K. Effect of a single arthrocentesis and a COX-2 inhibitor on disorders of temporomandibular joints — A preliminary clinical study. *Br J Oral Maxillofac Surg*. 2003;41:323-328. IF 0.689
- 3) Kanamori Y, Miyamoto K, Hosoe H, Fujitsuka H, Tatematsu N, Shimizu K. Transoral approach using the mandibular osteotomy for atlantoaxial vertical subluxation in juvenile rheumatoid arthritis associated with mandibular micrognathia. *J Spin Disorders Tech*. 2003;16:221-224 IF 1.121
- 4) Kitajo H, Shibata T, Nagayasu H, Kawano T, Hamada J, Yamashita T, Arisue M. Rho regulates the hepatocyte growth factor/scatter factor-stimulated cell motility of human oral squamous cell carcinoma cells. *Oncol Rep*. 2003;10:1351-1356. IF 1.356
- 5) Kuno T, Hirose Y, Yamada Y, Yoshida K, Qiao Z, Katayama M, Sakata K, Hara A, Sugie S, Mori H. Promoting effects of high-fat corn oil and high-fat mixed lipid diets on 7,12-dimethylbenz[a]anthracene-induced mammary tumorigenesis in F344 rats. *Oncol Rep*. 2003;10:699-703. IF 1.356
- 6) Ohe N, Saio M, Kijima M, Tamakawa N, Suwa T, Kojima Y, Yanao H, Kaku Y, Iwama T, Shinoda J, Sakai N, Takami T. In situ detection of O6-methylguanine-DNA methyltransferase messenger RNA in paraffin-embedded human astrocytic tumor tissues by nested in situ RT-PCR is useful in predicting chemotherapy-resistance of tumors. *Int J Oncol*. 2003;22:543-549. IF 3.056
- 7) Ohkubo T, Ohnoma T, Shigeyama M, Okamoto K, Shibata T. Local therapy of Cepharythine ointment for serious oral lichen planus. *Med J Takayama Red Cross Hosp*. 2003;27:3-6.
- 8) Toida M, Hasegawa T, Watanabe F, Kato K, Makita H, Fujitsuka H, Kato Y, Miyamoto K, Shibata T, Shimokawa K. Lobular capillary hemangioma of the oral mucosa - clinicopathological study of 43

- cases with special reference to immunohistochemical characterization of the vascular elements. *Pathol Int.* 2003;53:1-7. IF 1.073
- 9) Toida M, Sugiyama T, Kato Y. Cartilaginous choristoma of the tongue –a case report. *J Oral Maxillofac Surg.* 2003;61:393-396. IF 1.154
- 10) Toida M, Watanabe F, Goto K, Shibata T. Usefulness of low-level laser for control of painful stomatitis in patients with hand- foot-and-mouth disease. *J Clin Laser Med Surg.* 2003;21:363-367. IF 1.217
- 11) Tokuda H, Hatakeyama D, Akamatsu S, Tanabe K, Yoshida M, Shibata T, Kozawa O. Involvement of MAP kinases in TGF-beta-stimulated vascular endothelial growth factor synthesis in osteoblasts. *Arch Biochem Biophys.* 2003;415:117-125. IF 2.657
- 12) Tokuda H, Hatakeyama D, Shibata T, Akamatsu S, Oiso Y, Kozawa O. p38 MAP kinases regulates BMP-4-stimulated VEGF synthesis via p70 S6 kinase in osteoblasts. *Am J Physiol Endocrinol Metab.* 2003;284:E1202-1209. IF 4.431
- 13) Tomida M, Ishimaru J-I, Miyamoto K, Mizui T, Esaki Y, Hayashi T, Murayama K, Era S, Shibata T. Biochemical aspects of the pathogenesis of temporomandibular joint disorders. *Asian J Oral Maxillofac Surg.* 2003;15:118-127.
- 14) Yoshida K, Hirose Y, Tanaka T, Yamada Y, Kuno T, Kohno H, Katayama M, Qiao Z, Sakata K, Sugie S, Shibata T, Mori H. Inhibitory effects of troglitazone, a peroxisome proliferator-activated receptor γ ligand, in rat tongue carcinogenesis initiated with 4-nitroquinoline 1-oxide. *Cancer Sci.* 2003;94:365-371. IF 2.652
- 15) Yoshida K, Tanaka T, Kohno H, Sakata K, Kawamori T, Mori H, Wakabayashi K. A COX-2 inhibitor, nimesulide, inhibits chemically-induced rat tongue carcinogenesis through suppression of cell proliferation activity and COX-2 and iNOS expression. *Histol Histopathol.* 2003;18:39-48. IF 1.931
- 16) Yamada Y, Oyama T, Hirose Y, Hara A, Sugie S, Yoshida K, Yoshimi N, Mori H. Beta-catenin mutation is selected during malignant transformation in colon carcinogenesis. *Carcinogenesis.* 2003;24:91-97. IF 5.375
- 17) Yasuoka T, Takagi N, Hatakeyama D, Yokoyama K. Fibrous dysplasia in the maxilla - possible mechanism of bone remodeling by calcitonin treatment. *Oral Oncol.* 2003;9:301-305. IF 2.000
- 18) Abiko Y, Ogawa Y, Hattori Y, Kusama K, Nishimura M, Ohuchi T, Abe U, Shibata T, Matsuda S, Takata T, Kaku T. Atypical carcinoid (neuroendocrine carcinoma) of the gingival - counterpart of a laryngeal tumor. *Pathol Int.* 2004;54:97-100. IF 1.073
- 19) Kanno Y, Tokuda H, Nakajima K, Ishisaki A, Shibata T, Numata O, Kozawa O. Involvement of SAPK/JNK in prostaglandin E1-induced VEGF synthesis in osteoblast-like cells. *Mol Cell Endocrinol.* 2004;220:89-95. IF 2.626
- 20) Sakai T, Sugiyama T, Banno Y, Kato Y, Nozawa Y. Possible involvement of phosphatidylcholine-specific phospholipase C in prostaglandin F2 α -stimulated proliferation in osteoblast-like MC3T3-E1 cells. *J Bone Miner Metab.* 2004;22:198-206. IF 1.496
- 21) Tomida M, Ishimaru J-I, Murayama K, Kajimoto T, Kurachi M, Era S, Shibata T. Intra-articular oxidative state correlated with the pathogenesis of disorders of the temporomandibular joint. *Br J Oral Maxillofac Surg.* 2004;42:377-492. IF 0.689
- 22) Kato K, Hara A, Kuno T, Kitaori N, Huilan Z, Mori H, Toida M, Shibata T. Matrix metalloproteinase-2, and 9 in oral squamous cell carcinomas: manifestation and localization of their activity. *J Cancer Res Clin Oncol.* 2005;131:340-346. IF 2.409
- 23) Kuno T, Hirose Y, Hata K, Kato K, Sheng HQ, Kitaori N, Hara A, Iwasaki T, Yoshimura T, Wada K, Kobayashi H, Mori H. Preventive effect of fermented brown rice and rice bran on N-nitrosomethylbenzylamine-induced esophageal tumorigenesis in rats. *Int J Oncol.* 2004;25:1809-1815. IF 3.056
- 24) Kurita K, Ogi N, Miyamoto K, Goss AN. Diagnostic evaluation of an ultrathin 15000 fiberoptic arthroscope: Comparison of arthroscopic and histologic findings in a sheep model. *J Oral and Maxillofac Surg.* 2005;63:319-322. IF 1.154
- 25) Sakai T, Banno Y, Kato Y, Nozawa Y, Kawaguchi M. Pepsin-digested bovine lactoferrin induces apoptotic cell death with JNK/SAPK activation in oral cancer cells. *J Pharmacol Sci.* 2005;98:41-48. IF 0.253
- 26) Shibata T, Watanabe K, Arisue M. Experimental bilirubin teeth pigmentation and detection of localized bilirubin by microspectro-photometry. *Jap J Oral Diag Oral Med.* 2005;18:379-382.
- 27) Toida M, Balazs M, Treszl A, Rakosy Z, Kato K, Yamazaki Y, Matsui T, Suwa T, Hatakeyama D, Makita H, Mori S, Yamashita T, Shibata T, Adany R. Analyses of ameloblastomas by comparative genomic hybridization and fluorescence in situ hybridization. *Cancer Genet Cytogenet.* 2005;159:99-104. IF 1.577
- 28) Toida M, Shimokawa K, Makita H, Kato K, Kobayashi A, Kusunoki Y, Hatakeyama D, Fujitsuka H, Yamashita T, Shibata T. Intraoral minor salivary gland tumors: a clinicopathological study of 82 cases. *Int J Oral Maxillofac Surg.* 2005;34:528-532. IF 1.106
- 29) Yoshida K, Tanaka T, Hirose Y, Yamaguchi F, Kohno H, Toida M, Hara A, Sugie S, Shibata T, Mori H. Dietary garcinol inhibits 4-nitroquinoline 1-oxide-induced tongue carcinogenesis in rats. *Cancer Lett.* 2005;221:29-39. IF 2.938
- 30) Shibata T, Nagayasu H, Kitajo H, Arisue M, Yamashita T, Hatakeyama D, Iwasaki T, Kobayashi H. Inhibitory effects of fermented brown rice and rice bran on the development of acute hepatitis in

- 31) Kato Y, Shibata T, Yamashita T, Kobayashi A, Yonemoto K, Makita H, Mizuta K, Hayashi S, Toida M. Parapharyngeal and retropharyngeal space infection of odontogenic origin. Asian J Oral Maxillofac Surg. in press.

4. 研究費獲得状況

1) 競争的資金

- 1) 研究代表者：柴田敏之，研究分担者：千葉逸朗，安彦善裕，土井田誠，加藤幸弘，多田光宏，山下知巳，牧田浩樹；科学研究費補助金基盤研究研究(B)(2)海外：スリランカ共和国における口腔がん発生機序の分子疫学的調査；平成 14-15 年度；4,900 千円(2,300：2,600 千円)
- 2) 研究代表者：土井田誠，研究分担者：牧田浩樹，山下知巳，藤塚秀樹，加藤幸弘，柴田敏之；科学研究費補助金基盤研究(C)(2)一般：歯原性腫瘍の遺伝子異常と増殖活性に関する研究；平成 14-15 年度；2,300 千円(1,200：1,100 千円)
- 3) 研究代表者：藤塚秀樹，研究分担者：土井田誠，牧田浩樹，加藤幸弘，柴田敏之，田中卓二；科学研究費補助金基盤研究(C)(2)一般：口腔癌動物モデルにおける抗癌剤の抗腫瘍効果に及ぼすプロスタグランジン E1 の影響；平成 14-15 年度；3,000 千円(1,400：1,600 千円)
- 4) 研究代表者：永易裕樹，研究分担者：河野 峰，柴田敏之，有末 真；科学研究費補助金基盤研究(C)(2)一般：上皮成長因子 EGF がヒト口腔がん細胞の遺伝的不安定性と悪性形質獲得に与える影響；平成 14-15 年度；2,800 千円(1,400：1,400 千円)
- 5) 研究代表者：柴田敏之，研究分担者：浜田淳一，土井田誠，山下知巳，牧田浩樹；科学研究費補助金基盤研究(B)(2)一般：EGF 受容体・シグナル伝達を分子標的とする口腔がん治療の基礎的検討；平成 15-17 年度；13,800 千円(4,700：4,500：4,600 千円)
- 6) 研究代表者：柴田敏之，研究分担者：千葉逸朗，土井田誠，石崎 明；科学研究費補助金基盤研究(B)(2)海外学術調査：スリランカ・台湾における口腔がんの分子疫学的比較調査；平成 16-19 年度；9,500 千円(3,300：3,100：3,100 千円)
- 7) 研究代表者：柴田敏之，研究分担者：千葉逸朗，土井田誠，安彦善裕，石崎 明；科学研究費補助金基盤研究(C)(2)企画調査：東南アジアに多発する口腔がんをテーマとする国際共同研究の企画調査；平成 16 年度；3,300 千円
- 8) 研究代表者：畠山大二郎，研究分担者：柴田敏之；科学研究費補助金若手研究(B)：骨形成における血管内皮増殖因子 (VEGF) 誘導機構の解析；平成 17-19 年度；3,400 千円(1,800：800：800 千円)
- 9) 研究代表者：加藤恵三，研究分担者：土井田誠，柴田敏之，原 明，森 秀樹；科学研究費補助金基盤研究(C)(2)一般：口腔扁平上皮癌における RECK 遺伝子の関わりと脱メチル化による発癌・浸潤の制御；平成 17-18 年度；2,400 千円(1,900：500 千円)
- 10) 研究代表者：有末 真，研究分担者：柴田敏之；日本私学振興財団研究補助金：口腔癌・上部消化器癌に関する Genetic Background の検討；平成 13-15 年度；4,500 千円(1,500：1,500：1,500 千円)
- 11) 研究代表者：加藤恵三；財団法人名古屋公衆医学研究所集団検診開発助成金：口腔粘膜における遺伝子メチル化異常，および効果的なサンプル採取法の開発，予知因子としての hypermethylation の関わり；平成 17 年度；100 千円

2) 受託研究

- 1) 柴田敏之，土井田誠，加藤恵三，福島正和：口腔がん症例の化学療法における血中および組織中における 5-FU 代謝酵素活性についての検討；平成 14-15 年度；200 千円(100：100 千円)：大鵬薬品工業 (株)
- 2) 柴田敏之，土井田誠，牧田浩樹，加藤恵三，藤塚秀樹，山下知巳：PGE1 等の血管新生作用を応用した口腔癌に対する抗癌剤の抗腫瘍効果増強に関する実験的研究；平成 14-17 年度；2,400 千円(1,000：800：500：100 千円)：大日本製薬 (株)
- 3) 柴田敏之，土井田誠：塩酸セビメリン製剤の副作用発現の実態とその予防法に関する検討；平成 16 年度；1,000 千円：第一製薬 (株)
- 4) 柴田敏之，土井田誠：急性菌性感染症に対するテリスロマイシンの有効性と安全性の検討；平成 16 年度；1,000 千円：藤沢薬品工業 (株)
- 5) 柴田敏之：口腔がん・前がん病変の分子生物学的検討ならびに治療法の検討；平成 16 年度；500 千円：大鵬薬品工業 (株)
- 6) 柴田敏之：口腔がん・前がん病変の分子生物学的検討ならびに治療法の検討；平成 16 年度；200 千円：アベンティスファーマ (株)

- 7) 柴田敏之, 土井田誠: 急性歯性感染症に対するテリスロマイシンの有効性と安全性の検討; 平成 17 年度; 300 千円; アステラス製薬 (株)

3) 共同研究

なし

5. 発明・特許出願状況

なし

6. 学会活動

1) 学会役員

柴田敏之:

- 1) 日本口腔顎顔面外傷学会理事(～現在)
- 2) 日本口腔外科学会評議員(～現在)
- 3) 日本口腔外科学会広報委員会委員(～平成 17 年 9 月)
- 4) 日本口腔外科学会カリキュラム委員会副委員長(～平成 17 年 9 月)
- 5) 日本口腔外科学会専門医認定委員会委員(平成 17 年 9 月～現在)
- 6) 日本口腔外科学会タバコ対策委員会委員(平成 15 年 9 月～現在)
- 7) 日本口腔外科学会学術委員会委員(～平成 15 年 9 月)

土井田誠:

- 1) 日本病理学会評議員(～現在)

2) 学会開催

柴田敏之:

- 1) 第 48 回日本口腔科学会中部地方部会(平成 17 年 10 月, 岐阜)

3) 学術雑誌

なし

7. 学会招待講演, 招待シンポジスト, 座長

柴田敏之:

- 1) 第 48 回日本口腔科学会中部地方部会(平成 17 年 10 月, 岐阜, 教育講演「口腔癌治療の進歩と課題」座長)
- 2) 第 48 回日本口腔科学会中部地方部会(平成 17 年 10 月, 岐阜, 教育講演「細胞がん化プロセスにおける遺伝子/遺伝子産物の相互利用—細胞不死化と形質転換」座長)
- 3) 第 48 回日本口腔科学会中部地方部会(平成 17 年 10 月, 岐阜, 特別講演「次世代電子カルテシステム—その目的と成果」座長)

土井田誠:

- 1) 第 50 回 (社) 日本口腔外科学会総会(2005 年 10 月, 大阪, ミニシンポジウム「塩酸セビメリン製剤の副作用の軽減に関する臨床的検討」、シンポジスト)

山下知巳:

- 1) 第 59 回日本口腔科学会総会(2005 年 4 月, 徳島, ミニシンポジウム「口腔扁平上皮癌患者の組織 OPRT, TP mRNA 発現ならびに血中 DPD 活性の解析」シンポジスト)

諏訪達彦:

- 1) 第 59 回日本口腔科学会総会(2005 年 4 月, 徳島, ミニシンポジウム「L-2 免疫遺伝子療法下における腫瘍内浸潤マクロファージの解析」シンポジスト)

8. 学術賞等の受賞状況

- 1) 加藤恵三: 第 50 回 (社) 日本口腔外科学会ゴールドリボン賞(平成 17 年度)

9. 社会活動

柴田敏之：

- 1) 社会保険委員(平成 15～17 年度)
- 2) 岐阜県歯科技工士試験委員(平成 15～17 年度)

土井田誠：

- 1) 岐阜県歯科技工士試験委員(平成 16～17 年度)

10. 報告書

- 1) 加藤幸弘：骨芽細胞のプロスタグランジン F2 α 刺激による細胞内情報伝達機構の解明：平成 12-14 年度文部科学省科学研究費補助金 研究成果報告書：1-100(2004 年 2 月)
- 2) 柴田敏之：スリランカ共和国における口腔がん発生機序の分子疫学的調査：平成 12-15 年度文部科学省科学研究費補助金 研究成果報告書：1-112(2004 年 3 月)
- 3) 土井田 誠：歯原性腫瘍の遺伝子異常と増殖活性に関する研究：平成 14-15 年度文部科学省科学研究費補助金 研究成果報告書：1-76(2004 年 3 月)

11. 報道

- 1) 柴田敏之：口腔がんは早期治療が決め手—異常は放置せず，すぐ受診を：岐阜新聞(2003 年 12 月 14 日)
- 2) 柴田敏之：線維性骨異形成症の疑い？—痛みなく進行，ぜひ病理検査を(紙上診察室)：中日新聞(2003 年 1 月 10 日)
- 3) 土井田誠，柴田敏之：口腔乾燥症に対する塩酸セビメリン水和物製剤(サリグレン)の使用経験：岐阜新報(2003 年 3 月 22 日)
- 4) 柴田敏之：アジアの口腔癌：日本がん予防研究会 NEWS LETTER (2003 年 6 月 1 日)
- 5) 柴田敏之：岐阜県病院歯科医会の初総会：岐阜新報(2004 年 1 月 22 日)
- 6) 柴田敏之：より良い病診連携の構築に向けて：岐阜新報(2004 年 1 月 22 日)
- 7) 柴田敏之：ドクター推薦の名医—海外での口腔がん研究に尽力：中部経済新聞(2004 年 5 月 18 日)
- 8) 柴田敏之：研究最前線—FBRA の肝炎・肝がん発症モデル—LEC ラットの肝炎発症に及ぼす影響：PHP (2004 年 5 月 1 日)
- 9) 土井田誠：口腔乾燥症，舌痛症の治療めざす(研究室から—大学はいま)：岐阜新聞(2004 年 6 月 20 日)
- 10) Shibata T: This CHEW won't kill YOU: Srilanka News・MediScene (October 3, 2004)
- 11) 柴田敏之：口腔(こうくう)がん(宅配診療所)：朝日新聞(2005 年 6 月 24 日)
- 12) 柴田敏之：口腔乾燥症(宅配診療所)：朝日新聞(2005 年 7 月 14 日)
- 13) 柴田敏之：歯の痛み(宅配診療所)：朝日新聞(2005 年 7 月 8 日)
- 14) 柴田敏之：かみ合わせの異常—手術で治療(宅配診療所)：朝日新聞(2005 年 8 月 19 日)
- 15) 柴田敏之：口内炎(宅配診療所)：朝日新聞(2005 年 9 月 9 日)
- 16) 柴田敏之：アゴが退化すると・・・(宅配診療所)：朝日新聞(2005 年 9 月 16 日)
- 17) 柴田敏之，手塚建一，畠山大二郎：親知らずから幹細胞培養—体の組織再生，期待，医療廃棄物，有効利用へ：朝日新聞(2005 年 10 月 25 日)
- 18) 柴田敏之，手塚建一，畠山大二郎：親知らずから間葉系幹細胞—体の組織再生に道：asahi.com.science (2005 年 10 月 25 日)
- 19) 柴田敏之，畠山大二郎，手塚建一：親知らずから間葉系幹細胞—体の組織再生に道：テレビ放映(2005 年 10 月 25 日)

12. 自己評価

評価

口腔病態学分野としての総合的評価として，概ね目標を達成していると考えている。

現状の問題点及びその対応策

特に活動を推進するために最も必要である資金面はある程度の目途(2003, 2004, 2005 年度科学研究費 1000 万獲得の目標達成)が得られ，研究材料(臨床材料)の集積も経時的に積み重なって来ている。これらの面では，このままを継続する努力を続けることにより果実が得られると考えられるが，如

何せん研究にあたる人的資源がいまだ不足しており、この手当てが火急となって来ている。これに対応するために、大学院進学者の勧誘ないし、研究補助員の採用を考えている。また、人的資源の拡充とともに現有人員のリサーチマインドを刺激することも非常に重要と考え、年2回の分野内リサーチカンファランスを2004年より継続して開催して来ている。さらに、基礎の各分野との共同研究も重要な位置を占めると考えている。

今後の展望

上に述べた対応策については、おのおの表裏一体となった部分も多く、上手く連携を執って遂行するmanagementが展望を拓くと考えている。